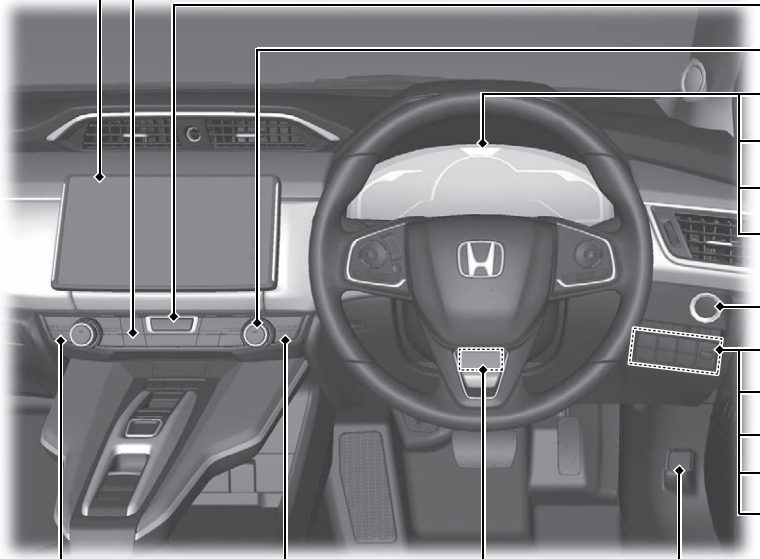
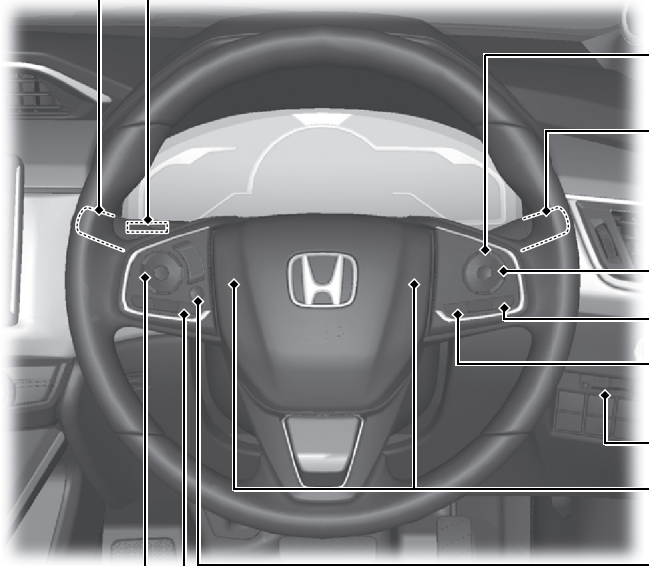
ビジュアル目次



- Honda インターナビシステム※
- リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ P. 146
- 非常点滅表示灯(ハザードスイッチ)
- オートエアコン P. 168
- メーター P. 99
- 警告灯 P. 68
- 表示灯 P. 78
- マルチインフォメーションディスプレイ P. 101
- POWER スイッチ P. 136
- (VSA OFF)スイッチ P. 252
- (CMBS OFF)スイッチ P. 272
- ヘッドアップディスプレイボタン P. 145
- 路外逸脱抑制スイッチ P. 210
- 給電リッドオープナー P. 177
- ボンネット解除ノブ P. 288
- ハンドル位置調節レバー P. 149
- フロントシートヒータースイッチ P. 167

※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。



ワイパー/ ウォッシャースイッチ P. 142

イルミネーションコントロールボタン P. 144

TRIP ボタン P. 102

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)スイッチ P. 222

方向指示器(ウィンカー)/ ライトスイッチ P. 139, 140

LaneWatch™ P. 257

ディスタンススイッチ P. 228

LKAS スイッチ P. 244

MAIN スイッチ P. 221, 244

ETC 車載器 ※2

ホーンスイッチ(周辺)

ディスプレイ / インフォメーション( )スイッチ P. 101

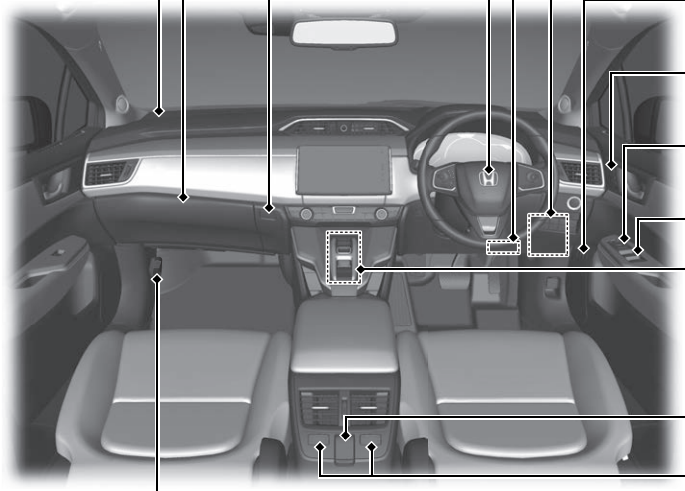
発話スイッチ ※1

取り消しスイッチ ※1

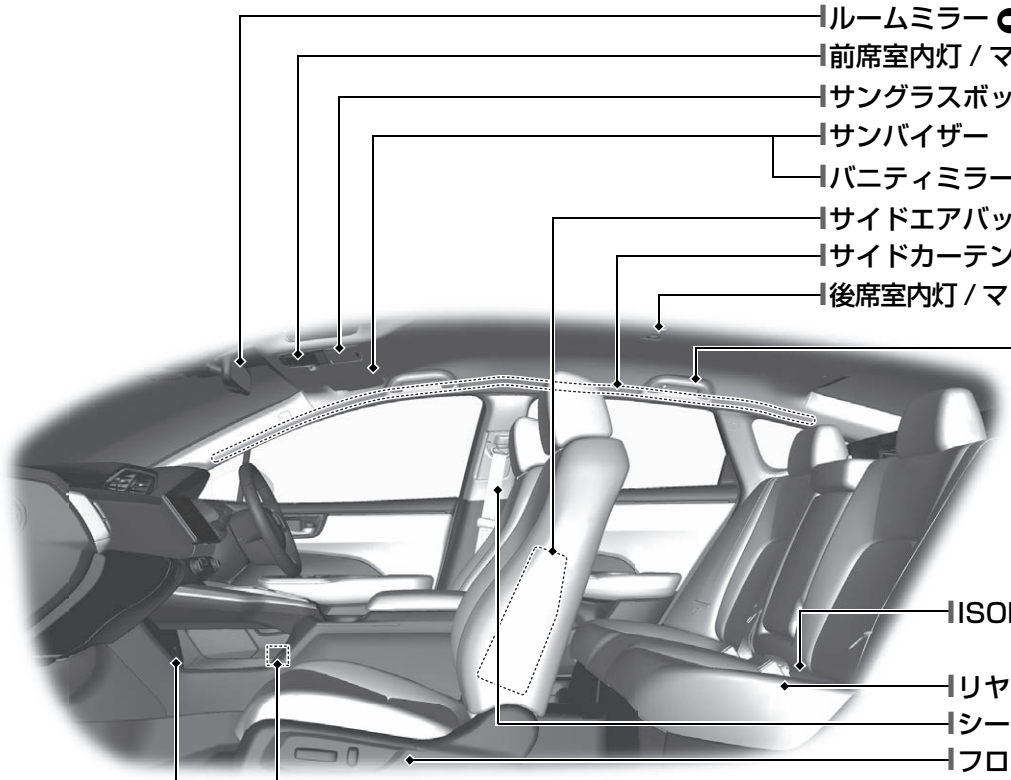
オーディオリモートコントロールスイッチ ※1

※1 ：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。
※2 ：ETC 車載器については、別冊の取扱説明書を参照してください。

ビジュアル目次

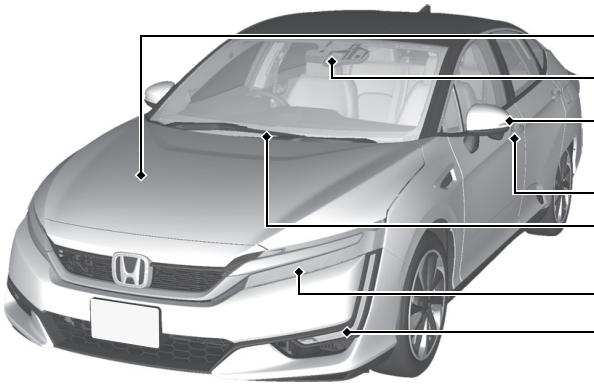


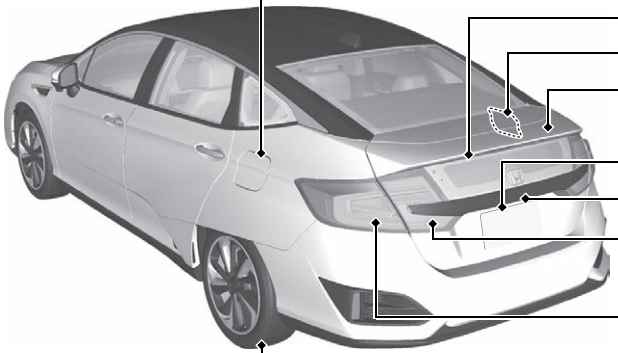
SRS エアバッグシステム(助手席用) P. 44
グローブボックス P. 160
グローブボックスボタン P. 160
SRS エアバッグシステム(運転席用) P. 44
運転席 ニーエアバッグ P. 47
室内運転席側ヒューズボックス P. 345
トランクオープナー P. 128
フューエルリッドオープナー P. 280
メモリーボタン P. 148
セットボタン P. 148
ドアミラー調節スイッチ P. 151
マスタードアロックスイッチ P. 124
パワーウィンドースイッチ P. 133
パーキングブレーキスイッチ P. 259
オートマチックブレーキホールドスイッチ P. 261
SPORT スイッチ P. 198
シフトポジションスイッチ P. 194
アクセサリーソケット P. 164
リヤシートヒータースイッチ P. 167
発炎筒 P. 313



※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

ビジュアル目次





- モータールーム内のメンテナンス P. 287
- フロントセンサーカメラ P. 200
- ドアミラー P. 151
- ドアミラーウィンカー P. 139, 290
- ドアの施錠 / 解錠 P. 114
- ワイパー P. 142, 293
- ヘッドライト P. 140, 290
- アクセサリーライト / 車幅灯 P. 140, 290
- 水素ガスの充てんのしかた P. 280
- ハイマウントストップランプ P. 291
- 給電リッド P. 177
- トランクの開閉 P. 127
- エマージェンシートランクオープナー P. 130
- リアカメラシステム※
- 番号灯 P. 291
- 尾灯 P. 291
- 後退灯 P. 291
- 尾灯 P. 291
- ウィンカー P. 139, 291
- 後部側方灯 P. 291
- 制動灯 P. 291
- タイヤ P. 296

※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

燃料電池車の特徴

この車は、水素を燃料として走行する燃料電池車です。
燃料電池車は、水素と空気中の酸素の化学反応により発電された電気を使って、モーターで走行します。
発電には、FC スタック(燃料電池本体)に加えて、燃料供給や排気や冷却などが必要であり、これらを総称して FC システムと呼びます。
また、発電した電気を一時的に蓄える高電圧バッテリーを搭載しており、加速時には燃料電池の出力をアシストし、減速時には回生電力を充電することによりエネルギーを効率よく使います。
走行中に排出されるのは、水や水蒸気だけで、CO_2 や NO_X などの排気ガスを一切出さない環境にやさしい車です。

FC スタック(燃料電池本体)について

次のような状況では、通常使用時に比べて早めに出力が低下する場合があります。
●高濃度粉塵の場所で使い続ける
●火山、温泉地などの高い硫黄濃度の場所で使い続ける
●高い濃度のシンナー、塗料などの有機溶剤、アンモニア臭などのアミン系物質、塩素系物質(潮風・融雪剤など)が多く存在する場所で使い続ける
▶ ただし、通常環境に戻り一定時間使用することで、出力は戻ります。
●長期間に渡ってアイドリング(走行待機)状態を長時間続けた場合
●FC システムの起動または停止を日々頻繁に繰り返した場合
●長期間に渡って氷点下での使用を続けた場合
●エアクリーナーエレメント内に海水などが浸入したとき
▶ エアクリーナーエレメントの交換および周辺の清掃をおすすめします。
指定の Honda 販売店にご相談ください。
●長期間に渡って長時間の給電を行った場合

次のようなときは出力が一時的に制限されることがあります。
●急加速・急減速の繰り返し走行
●上り坂や高地(標高 2,000m 以上)での連続走行
➲ マルチインフォメーションディスプレイ P. 85

燃料電池車特有のシステム作動モードについて

様々な環境において、燃料電池の良好な発電性能を維持するために、燃料電池車特有のシステム作動モードがあります。
●パワーモードを OFF モードにしたとき：燃料電池のコンディション調整のため、システムの動作が継続する場合があります。
●寒冷時：燃料電池の発電準備やコンディション調整のため、通常よりも起動や停止に時間がかかる場合があります。

水素タンクについて

■水素タンク概要

水素タンクは、圧縮水素ガスを充てんして貯めておく容器です。

■点検

燃料電池車は、定期的な容器（水素タンク）の点検が法律で義務付けられています。
容器検査に合格し、検査有効期限内でないと圧縮水素ガスを充てんすることが禁止されています。
水素タンクは法律により充てん可能期限が定められています。フューエルリッドの裏側、ボンネットの裏側に明記される充てん可能期限を過ぎる場合は、水素タンクを交換する必要があります。

■廃棄するとき

水素タンクまたは水素タンクバルブを廃棄するときは、法律にしたがい処分する必要があります。
詳しくは、指定の Honda 販売店にご相談ください。

■盗難されたとき

燃料電池車が盗難された場合、盗難された車両が高圧ガスを充てんするための容器を搭載していることを警察に必ず伝えてください。

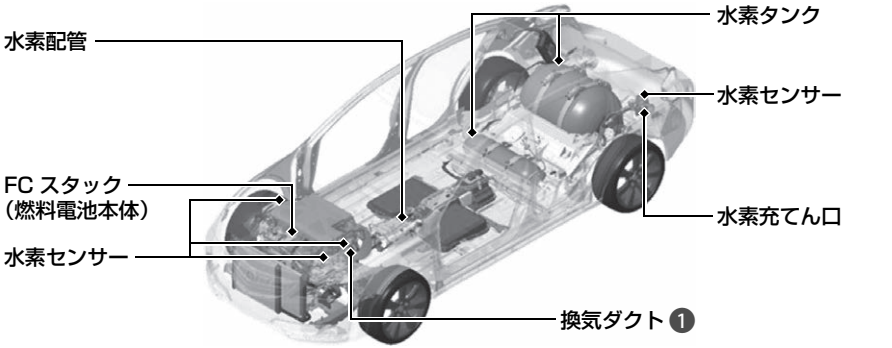
燃料補給について

走行には燃料として水素が必要です。充てんする水素ガスは、指定の水素ステーションにおいて性状の確かなものを使用してください。
水素ステーションの場所については、Honda インターナビシステムで探すことができます。
➔ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

燃料電池車の注意

水素関係部位について

燃料電池車には、水素タンク・FC スタック(燃料電池本体)・水素配管などの水素関係部位があります。水素関係部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してあります。



＜水素保有部品＞
- 水素タンク
- 水素配管
- FC スタック
  (燃料電池本体)など

＜水素センサーの配置＞
- フロントのモーター
  ルーム内
- 水素充てん口上部

＜ラベル対象部品＞
- 水素タンク
- 高圧水素配管
- 水素充てん配管
- FC スタック
  (燃料電池本体)
- 換気ダクト

ラベル
❶ 換気ダクト



⚠警告

車庫や倉庫などの換気の悪い場所では長時間アイドリング(走行待機)状態にしない。
酸素不足の危険があります。

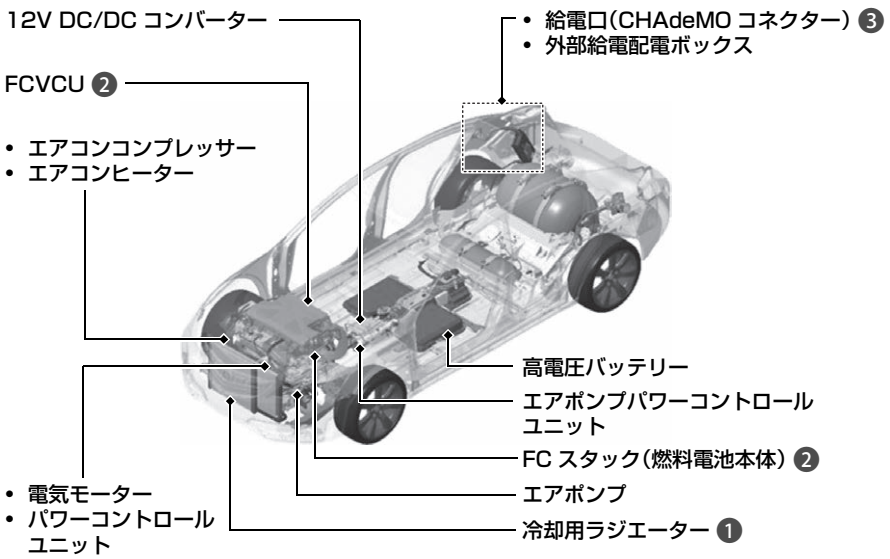
車庫など密閉された場所で燃料電池車をアイドリング(走行待機)状態にし続けると燃料電池の発電で車庫内の酸素が消費され、酸欠になるおそれがあります。
車庫のドアを閉めたままパワーシステムを起動させないでください。

⚠警告

水素関係部位の改造・架装・分解はしない。
水素関係部位には、水素ガスが充てんされています。
これらの部品の取り外し、分解などを行うと水素ガス漏れの原因になり、車両火災や爆発などの重大な危険につながるおそれがあります。
車両に異常が認められる場合は必ず指定の Honda 販売店にご相談ください。

高電圧部位・高電圧配線・高温部位について

燃料電池車には、FC スタック(燃料電池本体)、FCVCU、高電圧バッテリー、パワーコントロールユニット、オレンジ色の高電圧ケーブル、電気モーターなどの高電圧部位(最大 500V)や、冷却用ラジエーターなどの高温部位があります。高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してあります。



⚠警告

この車両は、高電圧回路・部品を搭載しています。次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

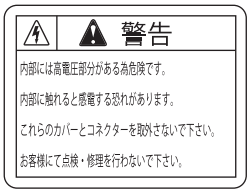
- ●高電圧部品・高電圧配線(オレンジ色)およびそのコネクターの取り外し・分解・交換などは行わない。
- ●高電圧バッテリーのサービスプラグには触れない。
  サービスプラグは、車両の修理時、および非常時に高電圧バッテリーの高電圧を遮断するための装置です。点検・修理などの際は、必ず指定の Honda 販売店にご相談ください。

ラベル

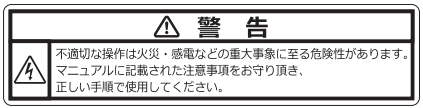
❶ 冷却用ラジエーターキャップ



❷ FCVCU、FC スタック(燃料電池本体)



❸ 給電リッド内側



高電圧バッテリーの特性

高電圧バッテリーは燃料電池が発電した電力や、減速時の回生電力により充電されるため、車外から充電する必要はありません。
しかし、長期間駐車をすると、少しずつ放電します。
バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3 か月に一度、30 分以上起動をしてください。起動によりバッテリーに充電されます。
長期間起動しないと、高電圧バッテリーの充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。
万一高電圧バッテリーが完全に放電し、FC システムを起動できないときは必ず指定の Honda 販売店にご相談ください。
バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

温度について

燃料電池や高電圧バッテリーがー 20 ℃より低いときは、燃料電池が作動しないため使用できません。また、燃料電池や高電圧バッテリーがー 20 ℃より低くなるような場所には保管しないでください。

水素検知システムについて

パワーモードを ON モードにすると、水素センサーが水素ガス漏れの検知を開始します。
水素センサーが水素ガスの漏れを検知すると水素漏れ警告灯が点灯します。

➡ 水素漏れ警告灯 P. 71

水素供給遮断 / 高電圧遮断システム

FC システムが動作中に事故などで車体が衝撃を受けると、遮断システムが作動して水素ガスの供給を停止し、高電圧を遮断します。
遮断システムが作動すると、再起動はできません。FC システムを再起動するには、指定の Honda 販売店にご相談ください。

⚠警告

換気ダクトをふさがない。
床下の水素タンクや、モータールーム内にあるFCスタック(燃料電池本体)および水素供給部品には、万一水素漏れの故障が発生した場合に水素を車両外に排出する換気ダクトを取り付けています。
万一水素漏れの故障が発生した場合に、換気ダクトの排出口が積雪や落ち葉などで塞がれていると漏れた水素がモータールームに排出されて、火災や爆発にいたるおそれがありますので必ず取り除いてからパワーシステムを起動してください。

換気ダクトの分解・改造はしない。
水素漏れの故障が発生した場合に、火災や爆発のおそれがあります。



換気ダクト（左右フロントタイヤの上部）

換気ダクト（フューエルリッドの内側）

水素ガス漏れについて

水素ガスが漏れているときは、この取扱説明書にしたがって適切な処置をしてください。

➔ 水素ガスが漏れているとき P. 335

⚠警告

水素ガス漏れが発生した場合には警告音と共に警告灯が点灯し、異常をお知らせします。水素漏れ警告灯が点灯しているときは、火気厳禁です。

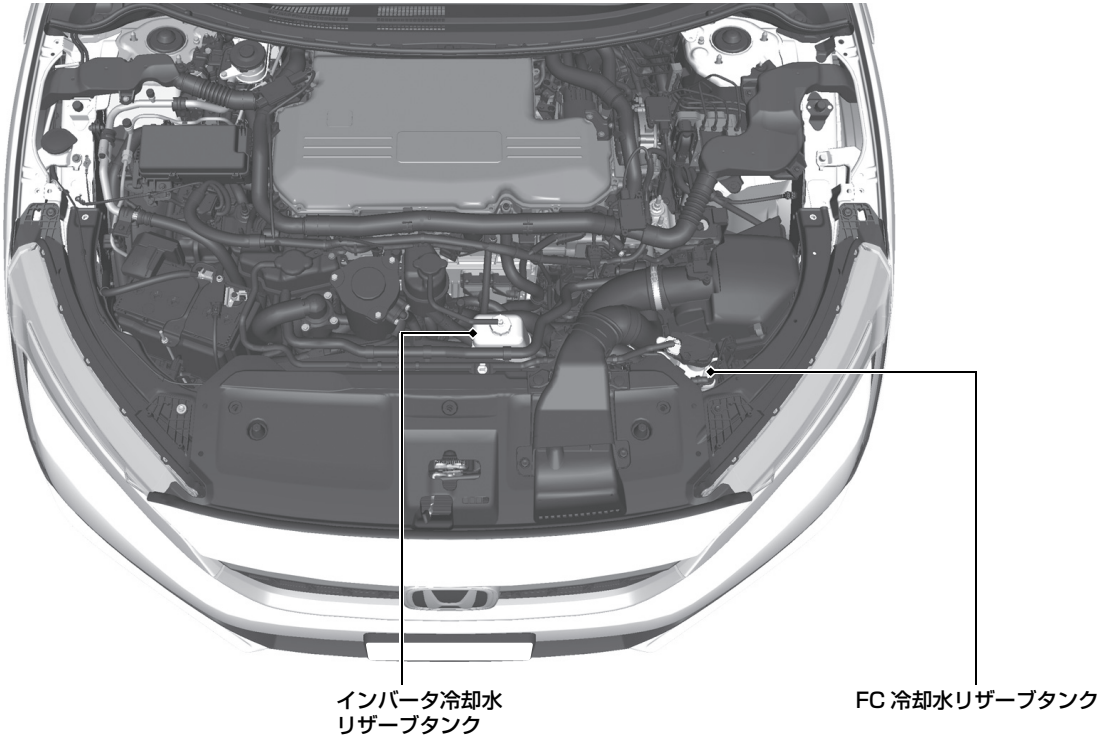
漏れた水素ガスは、車両の外へ拡散し排出されます。
水素ガスは引火しやすいため、水素ガス漏れのおそれがある場合は車両にタバコ、発炎筒などの火気を近づけないように表示もしくは運転者や同乗者が監視してください。
運転者や同乗者が監視できない場合は、付近の人に救援を求めて監視人をつけてください。
漏れた水素ガスに引火して、車両火災になるおそれがあり危険です。

警告灯の点灯に気付いたときはただちに屋外の風通しの良い安全な場所に停車し、パワーモードをOFF モードにし、ただちに指定の Honda 販売店にご連絡ください。

車両火災が発生したときは、火災により水素タンク内の圧力が高くなり、圧力を下げるためにタンク内の水素ガスを車両斜め下後方へ排出します。この水素ガスに着火し火炎が噴出するおそれがあるため、車両後方からの消火は避けてください。

燃料電池用冷却水について

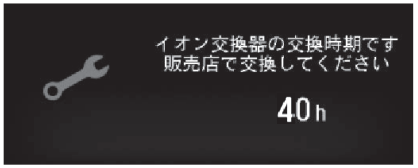
燃料電池を冷却するための冷却水は絶縁性の高い専用品を使用しています。
水や市販の冷却水、Honda 純正のインバータ冷却水などは、燃料電池の故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。
燃料電池用冷却水（FC 冷却水）の補充・交換の際は必ず指定の Honda 販売店にご相談ください。



イオン交換器について

燃料電池用冷却水(FC 冷却水)の電気絶縁を維持するために、FC 冷却水の経路にイオン交換器が設置されています。
マルチインフォメーションディスプレイに「イオン交換器の交換時期です　販売店で交換してください」が表示されたときはイオン交換器の交換が必要です。必ず指定の Honda 販売店へご相談ください。

➡警告灯 P.70



排気管について

走行後や給電中、パワーモードを OFF モードにして FC システムを停止したとき、排気管から排水されます。車両の左後方に立つと、水がかかる場合があります。
排出された水(生成水)は有害ではありませんが、飲料水としての処理はされていないため飲まないでください。
寒冷時、車両停止中に自動で FC システムが起動し、内部の水を排出する場合があります。
寒冷時に排気管から排出される白霧は水蒸気ですので、異常ではありません。
FC システムが停止する場合がありますので、排気管を異物などでふさがないでください。

⚠警告

生成水には直接触れない。
排気管から FC 発電による生成水が水や水蒸気として排出されます。生成水に直接触れると低温やけどをするおそれがあります。

メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理、廃車の際には、必ず指定の Honda 販売店にご相談ください。
廃車の際には、指定の Honda 販売店を通じて燃料電池と高電圧バッテリーの回収を行っていますのでご協力をお願いいたします。

事故が発生したとき

●車両火災が発生したときは、漏れた水素ガスに引火するおそれがありますので、車から離れて消防署に連絡してください。消火を行う場合は、大量の水、粉末(ABC)消火器または炭酸ガス消火器を使用してください。少量の水での消火は、完全に消火できない可能性がありますので、絶対に行わないでください。

●けん引するときは、必ず四輪を持ち上げてください。前輪が接地した状態でけん引されると、モーターが回ってシステムにダメージを与える場合があります。

⚠警告

車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、水素ガスが漏れているおそれがありますので、タバコ、発炎筒などの火気を近づけないでください。

水素ガスが漏れているとき P. 335

車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがありますので高電圧部位や、それらを接続する配線(オレンジ色)には絶対触れないでください。車両火災が発生したときは、漏れた水素ガスに引火するおそれがあります。車から離れ、水素タンクを搭載した車両であることを消防署に連絡してください。

火災により水素タンク内の圧力が高くなると、圧力を下げるためにタンク内の水素ガスを車両斜め下後方へ排出します。この水素ガスに着火し火炎が噴出するおそれがあるため、車両後方からの消火は避けてください。

高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

燃料電池車の近くで発炎筒は使用しないでください。万一水素が漏れている場合、引火して車両火災になるおそれがあります。

回生エネルギーと回生ブレーキ

減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、加速時に使った電力を回生エネルギーとして取り戻します。
次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、減速力を得ることができます。

●シフトポジションが D で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
●シフトポジションが D で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

※ 満充電時や低温または高温時など、高電圧バッテリーの状態によっては回生ブレーキが作動しない場合があります。

エコアシストシステム

ECO ドライブディスプレイ P.107

運転操作の状態に応じて車両のアイコンが前後に動きます。

●急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。

●円の中心に車両アイコンが維持できるように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。運転操作の状態に応じて、背景の色が変化します。





アンビエントメーター

●SPORT モードが OFF のときの運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

安全なドライブ P. 34

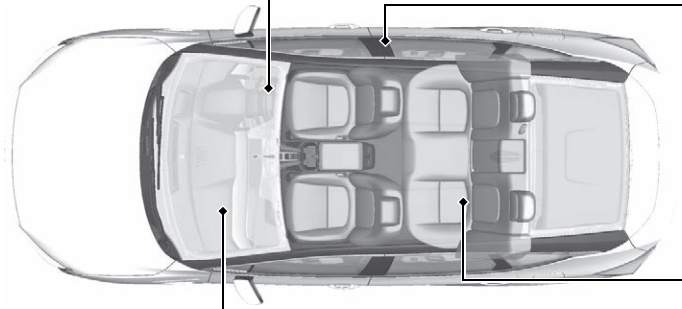


●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P. 35

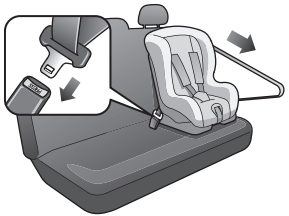
●運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。

シートベルト P. 37



お子さまの安全 P. 54

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

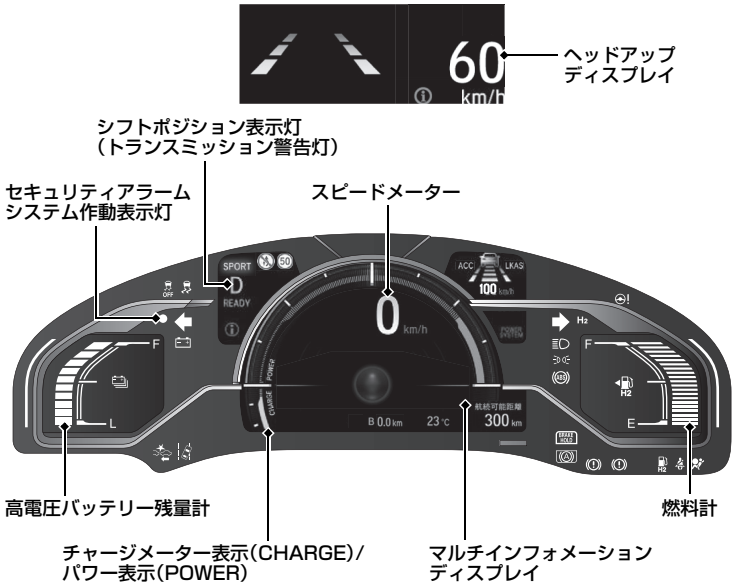


エアバッグ P. 44

●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた P. 67

警告灯 P. 68/ 表示灯 P. 78/ メーター P. 99/ マルチインフォメーションディスプレイ P. 101/ ヘッドアップディスプレイ P. 109



警告灯 / 表示灯

- SPORT SPORT モード表示灯
- READY READY 表示灯
- VSA 警告灯
- VSA OFF 警告灯
- 12V バッテリー充電警告灯
- BRAKE HOLD オートマチックブレーキホールドシステム表示灯
- オートマチックブレーキホールド表示灯
- インフォメーション表示灯
- 路外逸脱抑制機能警告灯
- CMBS 警告灯

警告灯 / 表示灯

- ライト点灯表示灯
- ハイビーム表示灯

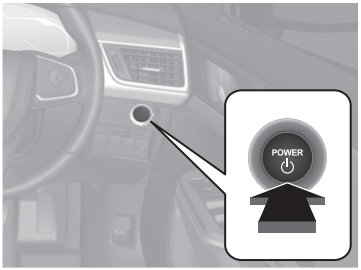
警告灯 / 表示灯

- EPS システム警告灯
- ACC 渋滞追従機能付 ACC 警告灯 / 表示灯
- LKAS LKAS 警告灯 / 表示灯
- 方向指示器 / 非常点滅表示灯
- エアバッグシステム警告灯
- ABS 警告灯
- ブレーキ警告灯（レッド）
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）
- シートベルト非着用警告灯
- POWER SYSTEM パワーシステム警告灯
- H2 水素漏れ警告灯
- H2 水素残量警告灯

各部の操作 P. 112

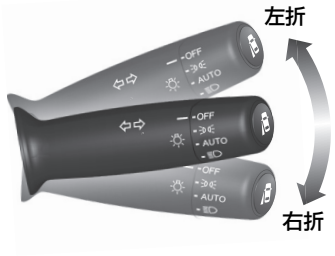
POWER スイッチ P. 136

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



ウィンカー P. 139

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



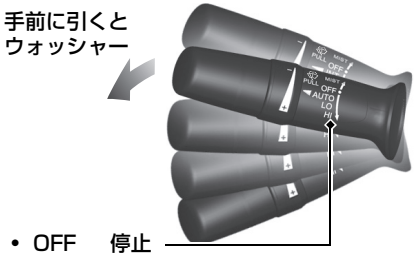
ライト P. 140

ライトスイッチ



ワイパー P. 142

ワイパー/ ウォッシャースイッチ

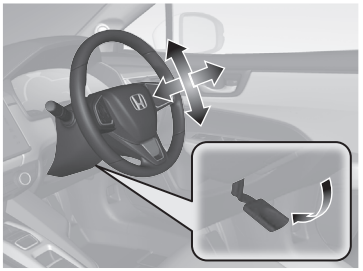


- OFF　停止
- AUTO　自動作動
- LO　低速
- HI　高速

ハンドル位置の調節

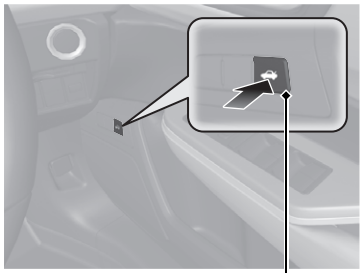
P. 149

●ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルの位置を調節します。



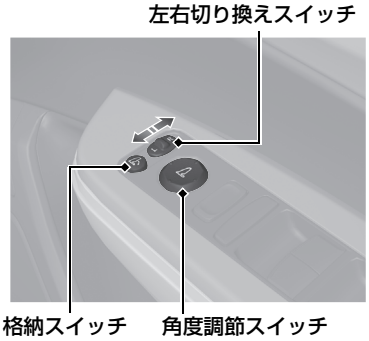
トランク P. 127

●トランクは、運転席ドアにあるトランクオープナーを押すか、キーレスエントリーのトランク解錠ボタン、トランクオープンスイッチを押して開きます。



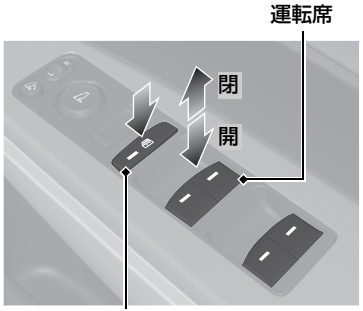
ドアミラー P. 151

●パワーモードが ON モードのとき、左右のドアミラーの格納または角度の調節ができます。



パワーウィンドー P. 133

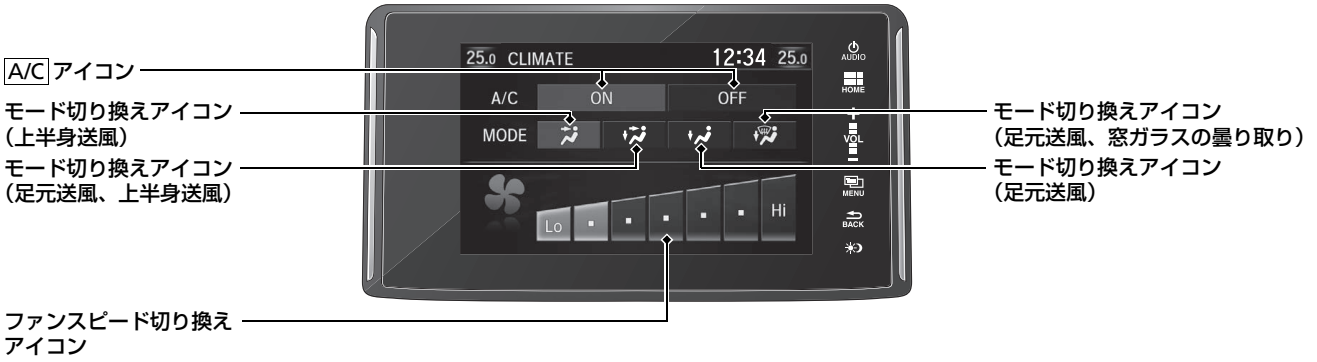
●パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。

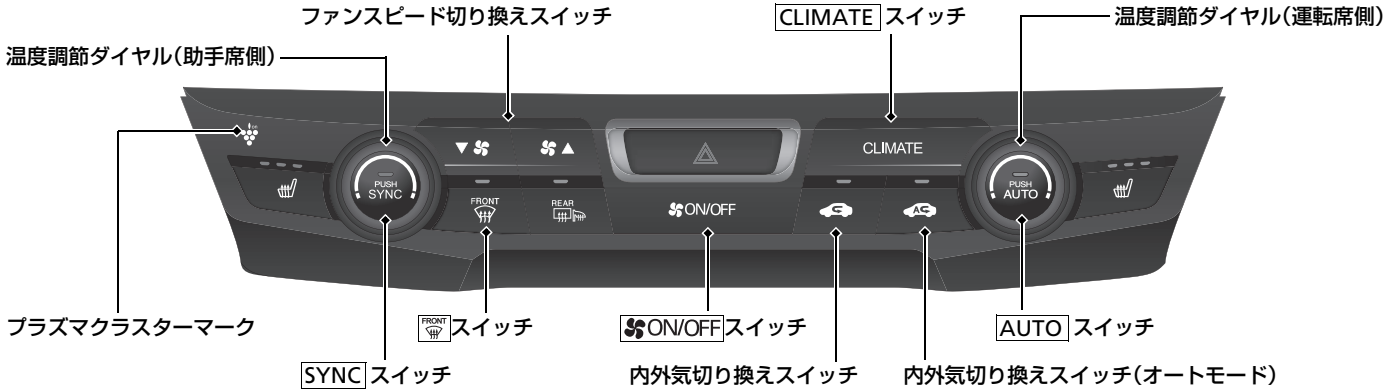


- ON　運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF　全てのウィンドーが作動

エアコン P. 168

●AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
●ON/OFFを押すと、止まります。
●前面ガラスの曇りを取るには、FRONTを押します。



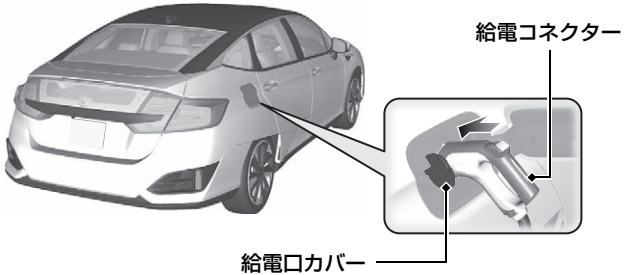


外部給電のしかた P.177

❶ 給電リッドオープナーを押して給電リッドを開ける。



❷ 給電口カバーを開けて、給電コネクターを給電口に確実に挿し込む。



❸ ブレーキペダルを踏みながら、 POWER を押し、パワーシステムを起動する。

❹ 接続先の機器を操作する。
▶ 接続先の機器の取扱説明書を確認してください。

スマートフォンアプリ

スマートフォンに専用アプリケーションをインストールすることによって車両との通信が可能になります。スマートフォンアプリで車両状態の確認やエアコン操作などを行うことができます。
詳しくは以下の web サイトをご覧ください。
https://www.honda.co.jp/internavi/howto/navi/

※：サービス内容並びに仕様について予告なく変更・終了することがありますので、あらかじめご了承ください。

運転 P.184

電子制御シフトポジションスイッチ P.194

●パーキングスイッチを押し、ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。
●シフトポジションの選択





P	パーキング 駐車またはパワーシステムを起動するとき
R	リバース 車を後退
N	ニュートラル 駆動力が伝達されない状態
D	ドライブ 通常走行

CMBS OFF スイッチ

P. 272

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。
- パワーシステムを起動すると自動的に CMBS は ON になります。
- CMBS を停止(OFF)状態にするには、CMBS OFF を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)にするには CMBS OFF を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。

VSA OFF スイッチ

P. 252

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するにはを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。
- パワーシステムを起動すると自動的に VSA は ON になります。

水素ガスの充てん

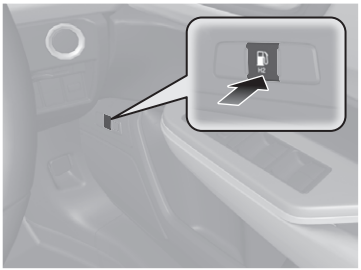
P. 279

水素ガスの充てんは水素ステーションの係員におまかせください。

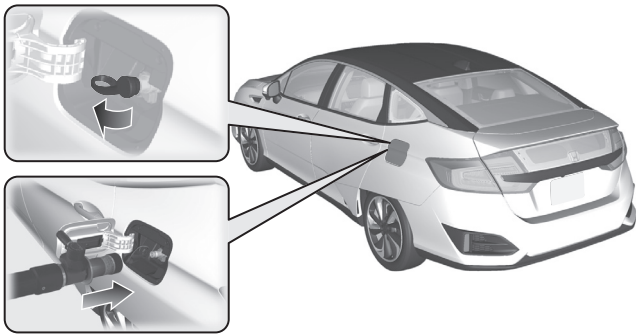
指定燃料：圧縮水素
水素充てん圧力：70MPa(15℃時)最大 82MPa
水素充てん量※：約 5kg(70MPa 時)
タンク容量：141.3 リットル

※： SAE 規格(J2601)の標準条件に基づいた水素充てん圧力 82MPa ステーションで充てんした場合の Honda 測定値。

1. パワーモードを OFF モードにする。
2. 運転席ドアにあるフューエルリッドオープナーを押してリッドを開ける。



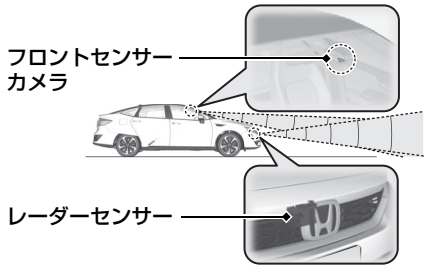
3. 水素充てん口のダストキャップを外す。
4. 水素ガスの充てんを開始する。



ホンダセンシング

フロントグリル内に設置したレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置したフロントセンサーカメラの、特性の異なる 2 種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。



渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) P. 218

先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

LKAS(車線維持支援システム) P. 239

左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

標識認識機能 P. 232

走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

先行車発進お知らせ機能

P. 214

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

路外逸脱抑制機能 P. 208

車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

歩行者事故低減ステアリング P. 202

歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

衝突軽減ブレーキ(CMBS) P. 267

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

誤発進抑制機能 P. 274

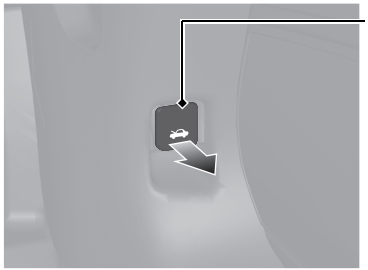
停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止して衝突時の衝撃を軽減する機能です。

メンテナンス P. 282

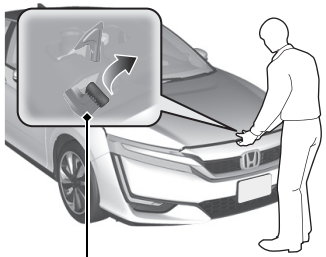
モータールーム P. 287

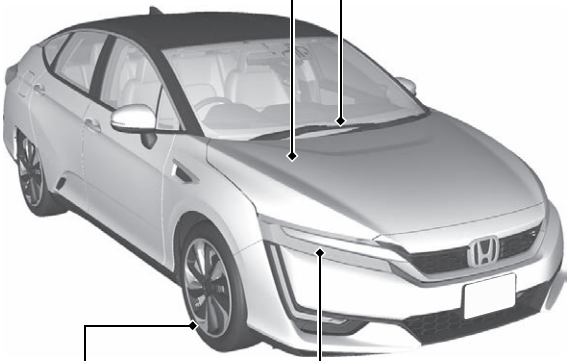
●インバータ冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●12V バッテリーを点検します。

❶ 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



❷ レバーを右に押してボンネットを開ける。





ワイパーブレード P. 293

●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

ライト P. 290

●テールライト電球などの点検、交換は指定の Honda 販売店に依頼してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

タイヤ P. 296

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

万一の場合には P. 312

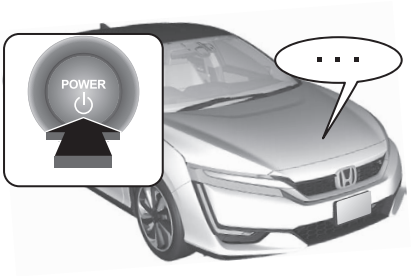
パンクした P. 314

●安全な場所に停車し、タイヤパンク応急修理キットで応急修理します。



パワーシステムが起動しない P. 327

●12V バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。



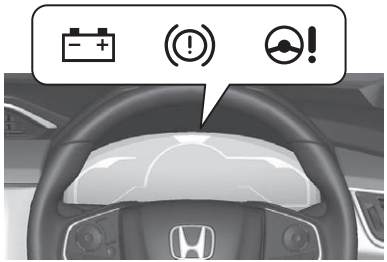
オーバーヒートした P. 333

●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



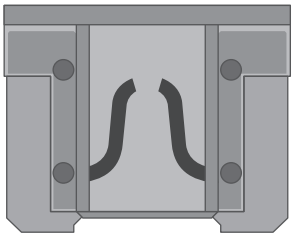
警告灯が点灯した P. 337

●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



ヒューズが切れた P. 342

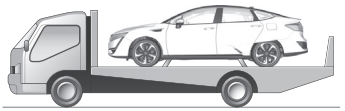
●室内とモータールーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



けん引してもらいたい

P. 351

●必ず専門業者に依頼してください。



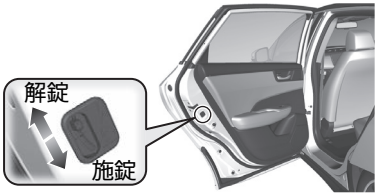
こんなときは

Q ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

Q 後席ドアが車内から開けられない

A
- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのレバーを解錠の位置にしてください。



Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A
- Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A
- パワーモードをアクセサリー モードにしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？

Q ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る	**A** • ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？ ➡ 施錠するには（降車時オートドアロック機能） ➡P. 118
Q 走行するとブザーが鳴る	**A** • 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？
Q パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない	**A** • ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？
Q アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない	**A** • 運転席シートベルトを着用していますか？ • シフトポジションが、 P 、 N 以外になっていますか？
Q 車を後退させるとき、後方を確認するために運転席ドアを開けるとシフトポジションが P になって車が停止した	**A** • 運転席シートベルトを着用していますか？ 運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。 ▶ ドア Open 自動パーキング選択制御 ➡P. 196
Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする	**A** • ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。

なお、会話等の音声や映像は記録されません。

FC モニタリングシステムについて

この車には、モニタリングシステムが装備されており、次の内容を Honda の定める任意のタイミングで Honda に自動的に送信します。

- 自動車の位置情報、走行距離情報、警告灯表示情報、速度等
- FC システムの制御・発電情報

Honda および Honda が委託した第三者は、取得した走行情報等を個人情報に準ずる扱いをするものとし、収集されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発用のために、取得、利用することがあります。

なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

安全なドライブ P.34

安全なドライブのために 35　シートベルト 37　エアバッグ 44
お子さまの安全 54

計器の見かた P.67

警告灯と表示灯 68　メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 99

各部の操作 P.112

時刻の設定 113　ドアの施錠と解錠 114　トランクの開閉 127　セキュリティシステム 131
ウィンドーの開閉 133　ハンドルまわりのスイッチ操作 136
ミラー類の調節 150　シートの調節 153　室内灯 / 室内装備品 158
エアコン 168　外部給電 177

オーディオ P.182

オーディオ装置 183

運転 P.184

運転の前に 185　運転操作 187　ブレーキ操作 259　駐停車操作 276
リアカメラシステム 278　水素ガスの充てん 279

メンテナンス P.282

メンテナンスの前に 283　イオン交換器 285　モータールーム内のメンテナンス 287
電球の交換 290　ワイパーブレードラバーの点検と整備 293　タイヤの点検と整備 296
Honda スマートキー 301　エアコンのお手入れ 303　清掃 305　アクセサリーと改造 310

万一の場合には P.312

発炎筒 313　パンクしたとき 314　ジャッキポイント 326
パワーシステムが起動しない 327　ジャンプスタート 331　オーバーヒート 333
水素ガスが漏れているとき 335　警告灯の点灯 / 点滅 337　ヒューズ 342
けん引 351　フューエルリッドが解錠できないとき 352
トランクが開かないとき 353　給電リッドが解錠できないとき 354

資料 P.355

仕様 356

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。



安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために 35
シートベルト
シートベルトについて 37
シートベルトの着用..... 40
シートベルトの点検..... 43
シートベルトのアンカーポイント 43
エアバッグ
エアバッグの種類 44
SRS エアバッグ 44
運転席ニーエアバッグ 47
サイドエアバッグ 49
サイドカーテンエアバッグ..... 51
エアバッグシステム警告灯..... 53
エアバッグのお手入れ..... 53
お子さまの安全
お子さまの安全を守るために 54
乳幼児の安全 55
大きなお子さまの安全 65

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、トランクは完全に閉まっているか？
  ▶すべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  車内での施錠 / 解錠 P.123
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  フロントシート P.153
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  フロントシート P.153
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  シートベルトの着用 P.40
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  エアバッグ P.44

安全のための確認事項

ドアやトランクが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
ドア、トランクをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。
ドア / トランク開閉警告 P.82

次ページに続く

- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➡ **お子さまの安全** P.54
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしているか？
  ▶ さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
  ➡ **シフト操作** P.194
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
  ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトについて

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

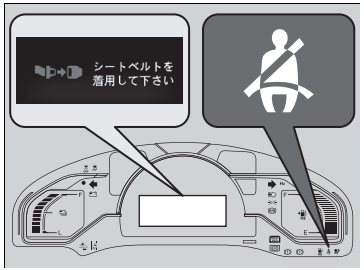
乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、指定の Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

次ページに続く

■シートベルトリマインダー



パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- シフトポジションを R にしたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートやリヤシート外側2座席には、シートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



シートベルトプリテンショナー

⚠注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、指定の Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

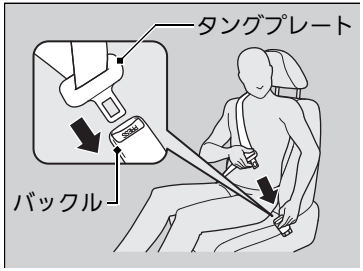
側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

シートベルトの着用

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかりと引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。
シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

➔ **シートベルトについて** P.37
➔ **シートベルトの点検** P.43



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
- ▶肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
- ▶腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
- ▶ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

シートベルトの着用

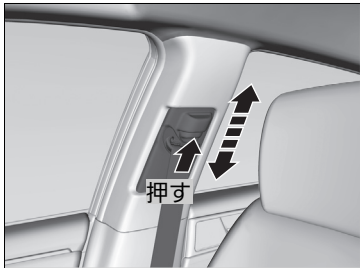
シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

次ページに続く

■ショルダーアンカーの高さ調節

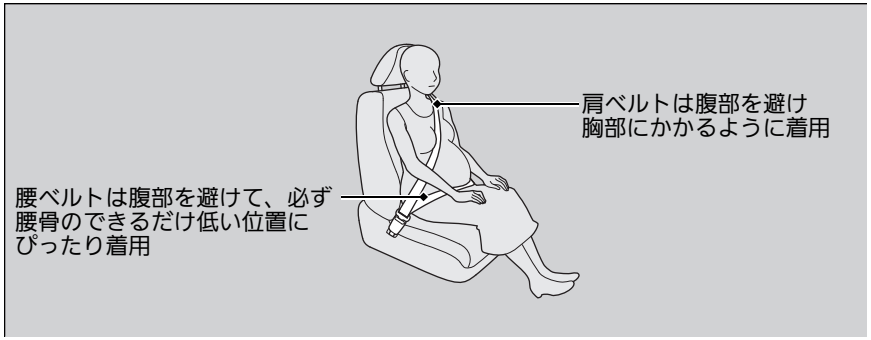


フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンを押しながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



≫ショルダーアンカーの高さ調節

⚠注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

≫妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

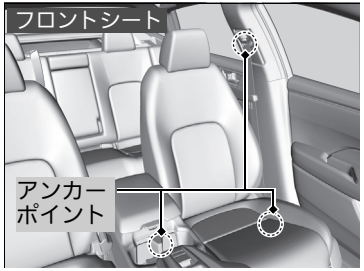
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

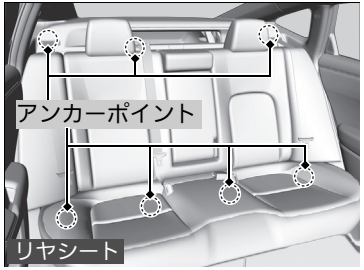
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **運転席ニーエアバッグ**：ハンドルの下にあるエアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

≫エアバッグの種類

⚠警告

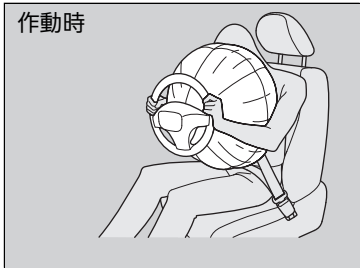
エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

エアバッグの作動は、衝突状況とシートベルト着用の有無により異なります。
そのため、運転席または助手席のエアバッグが片側のみ作動することがあります。

次ページに続く

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

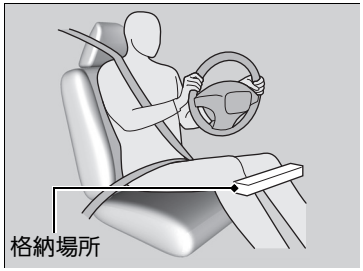
SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

運転席ニーエアバッグ

運転席の膝の前にあるエアバッグです。前方向からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者の衝撃緩和を補助します。

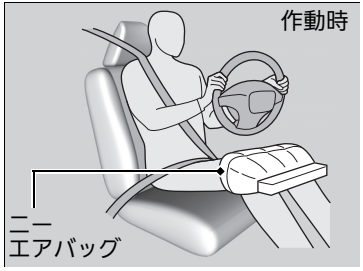
■格納場所



ニーエアバッグは、運転席のハンドル下側に格納されています。

「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



運転席のSRSエアバッグが膨らむと、ニーエアバッグも膨らみます。

≫運転席ニーエアバッグ

⚠注意

運転席のインストルメントパネル下部にステッカーを貼ったり、アクセサリーをつけたりしない。

ニーエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだ時にものが飛んでけがをする原因になります。

次ページに続く

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、ニーエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、ニーエアバッグが作動しないことがあります。

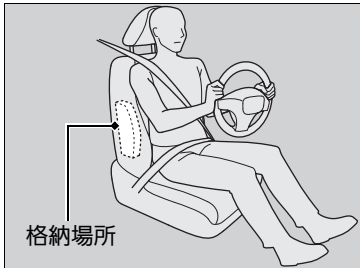
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とニーエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

サイドエアバッグ

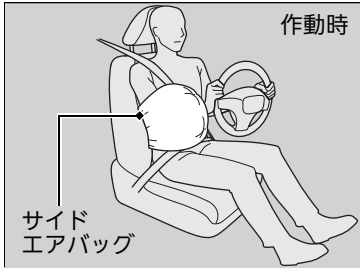
フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

次ページに続く

▨サイドエアバッグ

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては指定の Honda 販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドエアバッグ

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

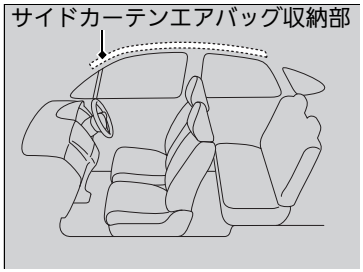
サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ

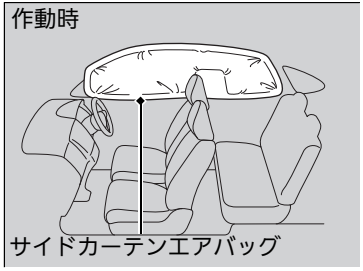
窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

➔ **作動条件** P.50

▶サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

次ページに続く

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

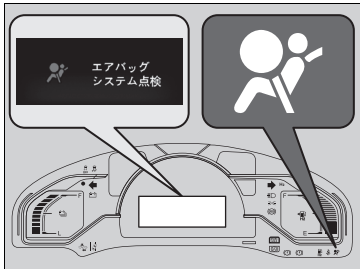
サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。
収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、指定の Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

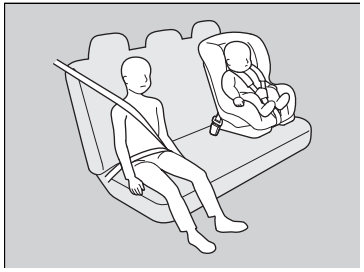
エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

»お子さまの安全を守るために

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

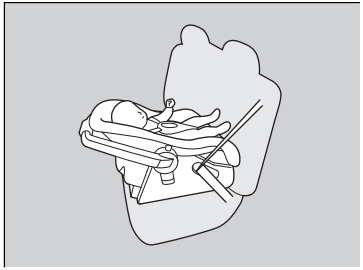
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

- ▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。
- ▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

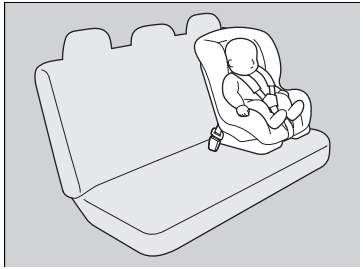
後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

次ページに続く

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

≫幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

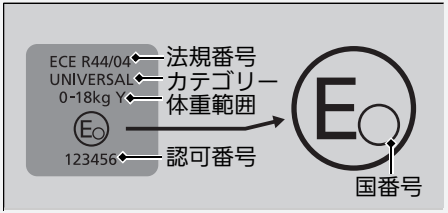
次ページに続く

チャイルドシートの選びかた

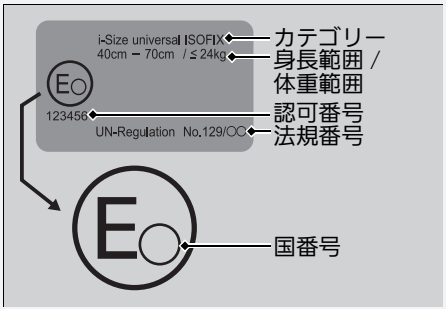
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては指定のHonda 販売店にご相談ください。

UN R44 認可表示(例)



UN R129 認可表示(例)



■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

この車のリヤシートの外側2座席には、ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートを取り付けるための下部取付金具とトップテザー取付金具を装備しています。
次の表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■ISOFIX チャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

重量区分	サイズ等級	固定具	座席位置			
			前席	後席		
			助手席	右席	左席	中央席
キャリコット	F	ISO/L1	—	X	X	—
	G	ISO/L2	—	X	X	—
0 ～ 10kg 以下	E	ISO/R1	—	X	X	—
0＋ ～ 13kg 以下	E	ISO/R1	—	IL※1	IL※1	—
	D	ISO/R2	—	IL※2, ※3	IL※2, ※3	—
	C	ISO/R3	—	IL※2, ※3	IL※2, ※3	—
I 9kg ～ 18kg	D	ISO/R2	—	X	X	—
	C	ISO/R3	—	X	X	—
	B	ISO/F2	—	IUF,IL※4	IUF,IL※4	—
	B1	ISO/F2X	—	IUF,IL※4	IUF,IL※4	—
	A	ISO/F3	—	IUF,IL※4	IUF,IL※4	—
II 15kg ～ 25kg			—	X	X	—
III 22kg ～ 36kg			—	X	X	—

▶ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては指定の Honda 販売店にご相談ください。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

Honda 純正 Honda Baby ISOFIX または Honda ISOFIX Neo のご購入は指定の Honda 販売店にご相談ください。

記号の説明

表中に記載の推奨チャイルドシート、またはチャイルドシートメーカーの適合リストにこの車に搭載できると示すチャイルドシートを備えることができます。

IL※1 ： Honda Baby ISOFIX 、Honda ISOFIX Neo を後ろ向きに備えることができることを示す。

IL※2 ：Honda ISOFIX Neo を後ろ向きに備えることができることを示す。

IL※3 ：チャイルドシートを取り付ける場合、前席のシートスライドを中間位置より前に調節すること。

IL※4 ：Honda ISOFIX Neo を前向きに備えることができることを示す。

IUF ：汎用（ユニバーサル）ISOFIX チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。

X ：ISOFIX チャイルドシートを装備できないことを示す。

■i-Size チャイルドシート

	着席位置			
	前席	後席		
	助手席	右席	左席	中央席
i-Size チャイルドシート	X	i-U	i-U	X

記号の説明

i-U ：前向きおよび後ろ向きのi-Size汎用（ユニバーサル）チャイルドシートを備えることができることを示す。

X ：i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートを装備できないことを示す。

次ページに続く

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■シートベルト固定タイプチャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	座席位置			
	前席	後席		
	助手席	右席	左席	中央席
グループ 0 ～ 10kg	X	U	U	U
グループ 0 ＋ ～ 13kg	X	U	U	U
グループ I 9kg ～ 18kg	UF※1	U	U	U
グループ II 15kg ～ 25kg	UF※1	U	U	U
グループ III 22kg ～ 36kg	UF※1	U	U	U

記号の説明

U　：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを備えることができることを示す。
UF　：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。
X　：チャイルドシートを装備できないことを示す。
※1　：チャイルドシートを取り付ける場合、シートバックを最も前のロック位置に調節すること。

▶シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準である UN R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

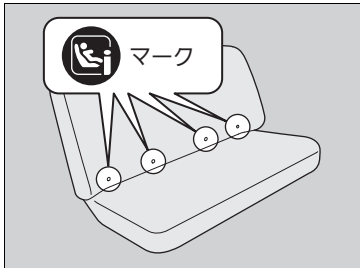
チャイルドシートをご購入する際は、質量グループに一致したものをお選びください。

チャイルドシートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

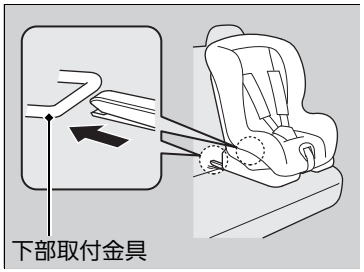
詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目から下部取付金具を確認する。



2. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。

▶取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

▨ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠注意

下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

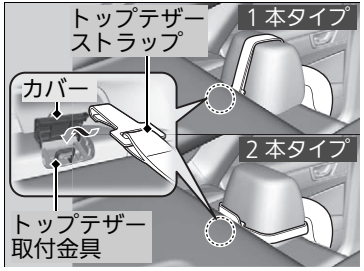
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

次ページに続く





トップテザーストラップ付きチャイルドシート

3. ヘッドレストの後ろにあるカバーを開ける。

4. トップテザーストラップが1本タイプの場合はストラップをヘッドレストの上に通し、2本タイプの場合はヘッドレストの外側に通す。

▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

5. トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。

6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

▶▶ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

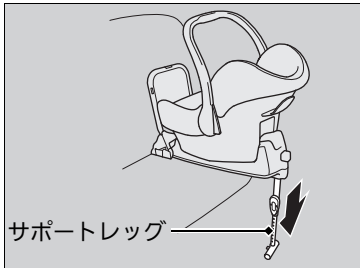
⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。



サポートレッグ付きチャイルドシート

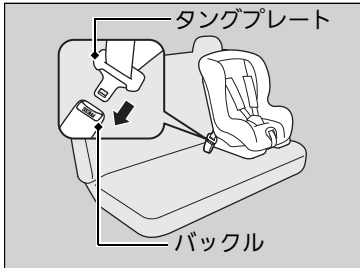
3. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。

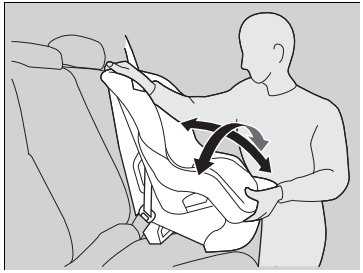
▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

次ページに続く

■シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

▶▶シートベルトでの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

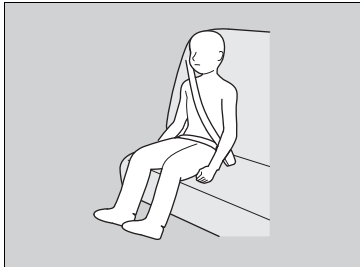
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

大きなお子さまの安全

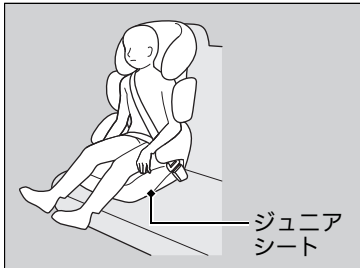
⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

次ページに続く

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

▶ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。



計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯

警告灯 68
表示灯 78
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ 82

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

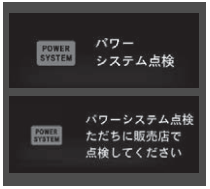
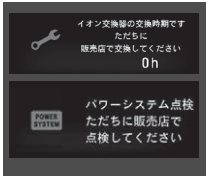
メーター 99
マルチインフォメーションディスプレイ .. 101
ヘッドアップディスプレイ 109

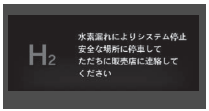
警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯(レッド)	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯) • パーキングブレーキをかけると点灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯 • 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅 • パワーモードが OFF モードのときにパーキングブレーキをかけると約 15 秒間点灯後、消灯 • パーキングブレーキがかかっているときにパワーモードをONモードからOFFモードにすると約 15 秒間点灯後、消灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。 • ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。 **➡ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した** P.338 • ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、指定のHonda販売店で点検を受けてください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。 • ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • パーキングブレーキが故障して作動しません。 **➡ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した** P.338	  

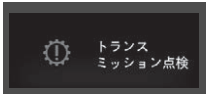
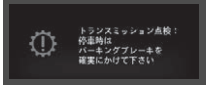
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯 • 回生ブレーキシステム、電動サーボブレーキシステム、ヒルスタートアシストシステムのいずれかが異常のときに点灯 • 電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、高速走行や急停止を避けて、ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。 • 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	

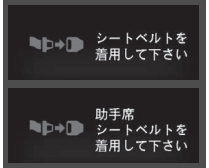
次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
POWER SYSTEM	パワーシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • パワーシステムが異常のときに点灯(発電が停止しています)	• **走行中に点灯**＝安全な場所に停車し、ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。 ➡ **オーバーヒート** P.333	
		• パワーシステムが異常のときに点灯	• 加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。	
		• 水素検知システムに異常があるときに点灯	• 加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。	
		• イオン交換器の交換時期に点灯	• ただちにイオン交換器を指定のHonda販売店で交換してください。 ➡ **イオン交換器の交換時期メッセージ** P.285	

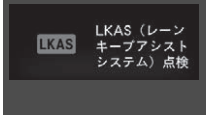
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	12V バッテリー充電警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • 12V バッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯**＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 ➡ **12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.337	
	水素残量警告灯	• 燃料計表示が残り 3 ～ 2 セグメントになると点灯	• 点灯したときは水素ガスの充てんが必要です。ただちに補給してください。 ➡ **水素ガスの充てん** P.279	
	水素漏れ警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 少量の水素ガスが漏れたときに点灯	• 加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。	
		• 水素ガスが漏れたときに点灯	• 燃料電池による発電を停止します。 • 安全な場所に車を止め、ただちに指定のHonda 販売店で点検を受けてください。	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	トランスミッション警告灯	• トランスミッションが異常のときに選択しているシフトポジションが点滅	• 点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。	
		• 全てのシフトポジションが数秒間点灯し消灯	• 全てのシフトポジションが点灯した場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。 • 異常がなければ消灯しますが、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。	—
		• トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションを P にできないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが同時に点滅	• 応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 ➡ **トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した** P.341 • 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 • ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。	

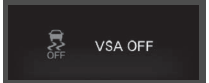
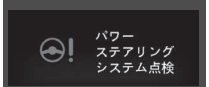
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードをONモードにしたときに、運転席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 • 走行中に運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➔ **シートベルトリマインダー** P.38	
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ABS が異常のときに点灯	• 点灯したときは、ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ➔ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.264	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
ACC	渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)警告灯(オレンジ)	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 • 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ➔ **ホンダセンシング** P.25	
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)警告灯(オレンジ)	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • LKAS が異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ

	エアバッグシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯
		• 下記のとき点灯
		  • エアバッグシステムの異常
		  • プリテンショナーシステムの異常
			• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。	

	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSAが作動しているときは点滅 • VSAシステムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに指定のHonda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➔ **VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.251	
	VSA OFF 警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA を OFF にすると点灯	➔ **VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.251	
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• パワーモードをONモードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • EPSシステムの機能に異常があると点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。 ➔ **EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した** P.339	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	CMBS(衝突軽減ブレーキ)警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBSに異常があるとき点灯	• OFFにしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.267	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下るとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。	
		• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 • 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ➔ **ホンダセンシング** P.25	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	路外逸脱抑制機能警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 路外逸脱抑制システムに異常があるとき点灯	• 点灯したときは、ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。	
		• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 • 復帰するまでに時間がかかることがあります。 **➔ ホンダセンシング** P.25	

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 • 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	• 点滅しない/点滅の周期が速いときは、ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。 ➡ **エマージェンシーストップシグナル** P.266	—
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—	—
	ライト点灯表示灯	• ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯(AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯)	• ライトを点灯したままパワーモードをOFFモードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。	—
	シフトポジション表示灯	• パワーモードがONモードのときに表示 • 現在のポジションで点灯	➡ **シフト操作** P.194	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	インフォメーション表示灯	• 異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯	• メッセージが表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは、警告が解除されるか、ディスプレイ / インフォメーション( )スイッチを押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにディスプレイ / インフォメーション( )スイッチを押すと、メッセージを再表示させる事ができます。	—
ACC	渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)表示灯(グリーン)	• MAINスイッチを押すと点灯	**渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218	—
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)表示灯(グリーン)	• MAINスイッチを押すと点灯	**LKAS(車線維持支援システム)** P.239	—

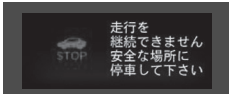
次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
 表示灯	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• POWER を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• POWER を押したあと、点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。 パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 • POWER スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。	—
		• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➔ セキュリティアラームシステム P.131	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
READY	READY 表示灯	• 走行の準備が完了すると点灯	• パワーシステム警告灯およびトランスミッション警告灯が点灯した場合、消灯する場合があります。 ➡ **パワーシステムの起動** P.187	
SPORT	SPORT モード表示灯	• パワーモードがONモードのとき、SPORT モードスイッチを押すと点灯 • スポーツモードのとき、アンビエントメーターは赤色で点灯	➡ **SPORT モードスイッチ** P.198	
BRAKE HOLD	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドシステムがONのとき点灯	➡ **オートマチックブレーキホールド** P.261	
(Ⓐ)	オートマチックブレーキホールド表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドが作動しているとき点灯	➡ **オートマチックブレーキホールド** P.261	—

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはディスプレイ / インフォメーション( )スイッチを押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 通常走行ができないときに表示	• ただちに安全な場所に車を停車してください。
	• パワーモードが ON モードのときに、外気温が 3 ℃以下になると表示	—
	• 12V バッテリーセンサーの機能に異常があると表示	• ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
	• シートベルトを着用しないで、パワーモードをONモードにすると表示	• 運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。
	• ドアOpen自動パーキング選択制御により自動で P になった後、ドアを閉めずにシートベルトを装着しないままシフト操作し、ブレーキペダルを離すと表示	**自動パーキング選択制御** P.196
	• ドア / トランクが完全に閉まっていないときに表示	• ドア / トランクを完全に閉めてください。

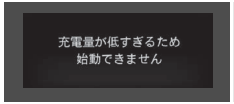
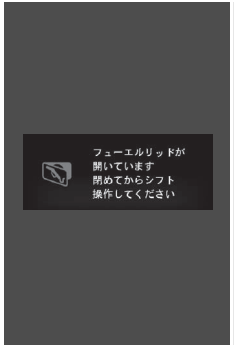
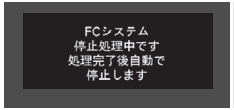
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **ライトスイッチ** P.140
	• ヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
	• イオン交換器の交換時期が近づくと表示	• イオン交換器を指定の Honda 販売店で交換してください。
	• ETC の利用ができないときに表示	➡ **ETC 車載器の詳細は、別冊の「ETC 車載器」取扱説明書をお読みください。**
	• Honda スマートキーシステムが異常のときに表示	• ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
	• パワーモードが ON モードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• パワーモードONの作動範囲内にHondaスマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。 ➡ **Honda スマートキー持ち去り警告** P.138
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	➡ **Honda スマートキーの取り扱いと電池交換** P.301

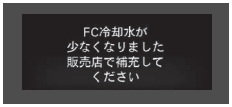
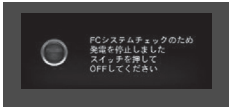
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに表示	➡ **パワーシステムの起動** P.187
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに運転席のドアを開けると表示	• パワーモードを OFF モードにしてください。 ➡ **POWER スイッチ** P.136
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに表示	—
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに POWER スイッチを押すと、警告音と同時に表示	➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.329

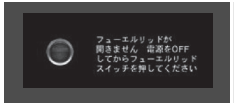
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーシステムの温度が低いときに表示	• 加速しにくくなります。また上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • ガレージ内で保管する、事前に暖機するなど、パワーシステムが低温状態にならないようにしてください。 • 給電時、出力制限や停止する場合があります。
	• パワーシステムの温度が高いときに表示	• 加速しにくくなります。また上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • 給電時、出力制限や停止する場合があります。
	• パワーシステムが自己診断モードになると表示	• 車速を維持できない場合があります。また、減速する場合があります。ただちに指定のHonda 販売店で点検を受けてください。 • 自己診断の結果によっては、パワーシステム警告灯も点灯する場合があります。 ➡ **パワーシステム警告灯** P.70
	• 12V バッテリー充電警告灯点灯後に表示	• 加速しにくくなります。また、上り坂などで発進が困難になる場合があります。 • ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。

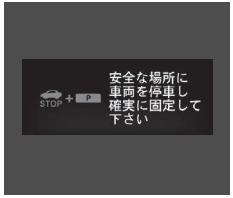
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車両接近通報システムに異常があると表示	• ただちに指定のHonda販売店で点検を受けてください。
	• FC スタックや高電圧バッテリーの温度が極端に低いときに表示(− 30 ℃以下)	• ガレージ内で保管するなど、FCスタックおよび高電圧バッテリーが極低温状態にならないようにしてください。 • 必要に応じて指定の Honda 販売店に相談してください。
	• 高電圧バッテリーの残量が著しく低下したとき表示	• ただちに指定の Honda 販売店にご連絡ください。
	• フューエルリッドが開いているときに、シフトポジションを P から他のシフトポジションを選択したときに表示	• フューエルリッドを閉めてください。 • フューエルリッドが閉まっていることを確認しても表示が消えないときは、 P から他のシフトポジションに変更できません。 • フューエルリッドを閉めても表示が消えないときは、センサー故障のおそれがありますので、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 ▶ センサー故障のときは、メッセージが表示している間に、ブレーキペダルを踏みながら D N R いずれかのスイッチを6回以上連続で押すとシフトポジションの変更ができます。
	• パワー(FC)システムの停止処理に時間がかかる場合に表示	• パワー(FC)システムの停止処理に通常よりも時間がかかりますが、システムは自動的に停止します。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 水素ガスの充てんが正しく終了しないと表示	• 水素ステーションに異常があるかを確認してください。 水素ステーションに異常がない場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
	• 外気温の影響により、燃料電池、高電圧バッテリーの温度が低いとき	• 燃料電池、高電圧バッテリーの温度が上昇するまで走行できません。暖房を ON して、表示が消灯するまで、十分に暖機をして下さい。 ▶ キーレスエントリーシステムで、暖房を遠隔操作で作動させることが出来ます。 ➡ **キーレスエントリーシステムでのオートエアコンの作動 / 停止** P.175 • 燃料電池や高電圧バッテリーが−20℃を下回ると、パワーシステムの起動ができません。ガレージ内で保管するなど、燃料電池、高電圧バッテリーが極低温状態にならないようにして下さい。必要に応じて、指定のHonda販売店に相談して下さい。
	• FC 冷却水の残量が少なくなると表示	• ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **燃料電池用冷却水について** P.12
	• 水素ガス充填中にパワーモードをONモードにしたときに表示	• パワーモードを OFF モードにしてください。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードがONモードのとき、フューエルリッドオープナーを押すと表示	• パワーモードをOFFモードにしてから、フューエルリッドオープナーを押してください。
	• ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションの P N から他のシフトポジションを選択したときに表示	• ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• アクセルペダルから足を離さずに、シフトポジションの P N から他のシフトポジションを選択したときに表示	• アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• 停車させずにパーキングスイッチを押したとき • 走行中、停車させずに進行方向と反対のシフトポジションを選択したときに表示	• シフトポジションを操作する時は、はじめに停車させてください。

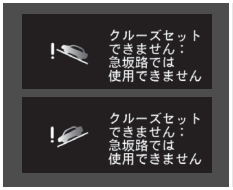
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 電気系統に失陥の可能性があると表示 • 走行中にパワーモードを OFF モードにすると表示	• ただちに安全な場所に車を停車してパーキングブレーキをかけてください。 • メッセージが消えれば異常はありません。 • 異常があるとパワーシステム警告灯が点灯します。 ➡ **パワーシステム警告灯** P.70
	• 車両が停止中に運転者がシートベルトを外し、車両が動く可能性があるときに表示	• 停車中や車外に出るときは、ブレーキペダルから足をはなす前にパーキングスイッチを押してください。
	• トランスミッションの温度が高いときに表示	• 安全な場所に車を止め、冷却してください。
	• シフトポジションが N のときにアクセルペダルを踏むと表示	• アクセルペダルから足を離してください。 走行するときは、ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• オートマチックブレーキホールドスイッチを押して、オートマチックブレーキホールドシステムをOFFにすると表示	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.261
	• 運転席のシートベルトを着用せずに、オートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• 運転席のシートベルトを着用してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.261
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにオートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.261
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にパーキングブレーキがかかったときに表示	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.261 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.259
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にオートマチックブレーキホールドが停止したときに表示	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。
	• 電子制御パーキングブレーキが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押すと表示	• ブレーキペダルを踏んでパーキングブレーキスイッチを押してください。 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.259

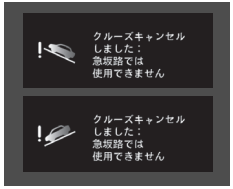
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除されたときに表示	• 渋滞追従機能付ACCが自動解除になった原因が解決された場合、 RES/+ スイッチを押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
	• 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	➡ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.267 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
	• 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC がセットできないときに表示	• 車速を下げてから渋滞追従機能付ACCをセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
	• 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 車速を下げてから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
	• 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車速 30km/h 未満で先行車がいなくてセットできないときに表示	• 先行車がいる状態または車速30km/h以上で走行して渋滞追従機能付ACCを再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
	• 先行車との車間距離が接近しすぎてセットできないときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
	• 急な坂道で停車していてセットできないときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付ACCを再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
	• 運転席のシートベルトが着用されておらずセットできないときに表示	• 運転席のシートベルトを着用してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• シフトポジションが D 以外でセットできないときに表示	• シフトポジションを D にしてから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
	• パーキングブレーキがかかっていてセットできないときに表示	• パーキングブレーキを解除してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218 ➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.259
	• 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、先行車が発進したときに表示	• RES/+ か –/SET スイッチを押す、またはアクセルペダルを踏むと発進できます。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
	• 走行中にブレーキペダルを操作していてセットできないときに表示	• ブレーキペダルを操作していない状態で渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218

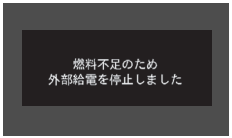
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 停車中に先行車が発進し、レーダーセンサーの検知範囲からいなくなって渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 先行車がいる状態または車速30km/h以上で走行して渋滞追従機能付ACCをセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
	• 先行車との車間距離が接近しすぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
	• 急な坂道で停車して渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付ACCを再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
	• フロントグリルに遮蔽物があり前の車両等が検知しにくくなり、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示 • 雨、霧、雪など悪天候のときも表示することがあります	• 安全な場所でレーダーセンサーのカバーの遮蔽物を拭き取ってください。 ➡ **歩行者事故低減ステアリング** P.202

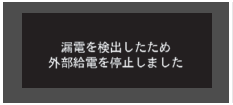
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• LKASシステムに異常が起こりLKASの作動が解除されたとき、またはLKASシステムに異常がある場合にLKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示	• VSA警告灯、ABS警告灯、ブレーキシステム警告灯が同時に点灯した場合は、ただちに指定のHonda 販売店で点検を受けてください。
（オレンジ）	• 車線を越えそうなときに表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.208 ➔ **LKAS（車線維持支援システム）** P.239
（レッド）	• ハンドルを操作しないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行し、車線を越えそうになると、警告音と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➔ **LKAS（車線維持支援システム）** P.239
	• ハンドルを操作しないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と同時に点滅	• そのまま走行を続けると、長い警告音が 1 回鳴り、LKAS の作動が解除されます。 • ハンドル操作をすると、警告メッセージが消えます。 ➔ **LKAS（車線維持支援システム）** P.239
	• フロントセンサーカメラの温度が異常に上がり、渋滞追従機能付 ACC、LKAS、標識認識機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	• エアコンを使用して車内の温度を下げてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC（アダプティブ・クルーズ・コントロール）** P.218 ➔ **LKAS（車線維持支援システム）** P.239 ➔ **標識認識機能** P.232 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.200 ➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.202

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• フロントガラスに遮蔽物があるとき、渋滞追従機能付 ACC、LKAS、標識認識機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示 • 雨、霧、雪など悪天候のときも表示することがあります	• 安全な場所でフロントガラスの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)** P.239 ➔ **標識認識機能** P.232 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.200 ➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.202

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 外部給電器を接続し、ブレーキを踏みパワーモードを ON モードにすると、給電が可能な場合に表示	• 数値は目安です。給電消費電力が少ない場合、使用可能時間が表示されない(- - h)ことがあります。 ▶ 給電時に車両側の電装品を使用すると使用可能時間が短くなります。
	• 給電中に車両との接続やシステムが異常になると表示	• 自動的に給電を停止します。 • 12V バッテリーが上がるおそれがありますので、パワーモードを OFF にしてください。 • 指定のHonda販売店で点検を受けてください。
	• 車両の燃料が少なくなると表示	• 自動的に給電を停止します。 • 12V バッテリーが上がるおそれがありますので、パワーモードを OFF にしてください。 • 水素ガスを充てんしてください。
	• 給電可能電力を超えた場合に表示	• 自動的に給電を停止します。 • 12V バッテリーが上がるおそれがありますので、パワーモードを OFF にしてください。 • 電気機器による負荷を減らしてください。 ▶ 接続先の機器の取扱説明書を確認してください。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 外部給電器の温度が異常に高くなったときに表示 • 高電圧バッテリーの温度が異常に高くなったときに表示 • FC スタック(燃料電池本体)の温度が異常に高くなったときに表示	• 自動的に給電を停止します。 • 直射日光を避け、窓を開けるなどして、車室内の温度を下げてください。 ▶ パワーモードは ON モードにしたままにし、給電コネクターは車両から抜かないでください。 ▶ エアコンを使用するとより効果的です。 ▶ メッセージが消えたら、再操作してください。
	• 車体および接続先の機器が漏電しているおそれがあるときに表示	• 速やかにパワーモードを OFF モードにして給電コネクターを抜き、指定のHonda販売店に相談してください。
	• POWER EXPORTER 9000 が給電できないときに表示	• 指定のHonda 販売店で点検を受けてください。
	• 給電リッドが開いているときに表示	• 給電リッドを閉めてください。 **➲ 外部給電のしかた** P.22

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

■航続可能距離表示

燃料、平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

燃料計

燃料計が E に近づいたら、早めに水素ガスを充てんしてください。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

次ページに続く

■高電圧バッテリー残量計

高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

高電圧バッテリー残量計

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

高電圧バッテリーの温度が変化すると、充電容量が上下することがあります。そのため充電量が変わらなくても、高電圧バッテリー残量計の表示が変化することがあります。

■パワー表示(POWER)/ チャージメーター表示(CHARGE)

■パワー表示(POWER)

車両出力の状態を表示します。

パワー表示(POWER)

エネルギーフローは、Honda インターナビシステムに表示されます。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

■チャージメーター表示(CHARGE)

高電圧バッテリーへの回生電力による充電状態を表示します。

チャージメーター表示(CHARGE)

高電圧バッテリーの充電状況は、Honda インターナビシステムに表示されます。

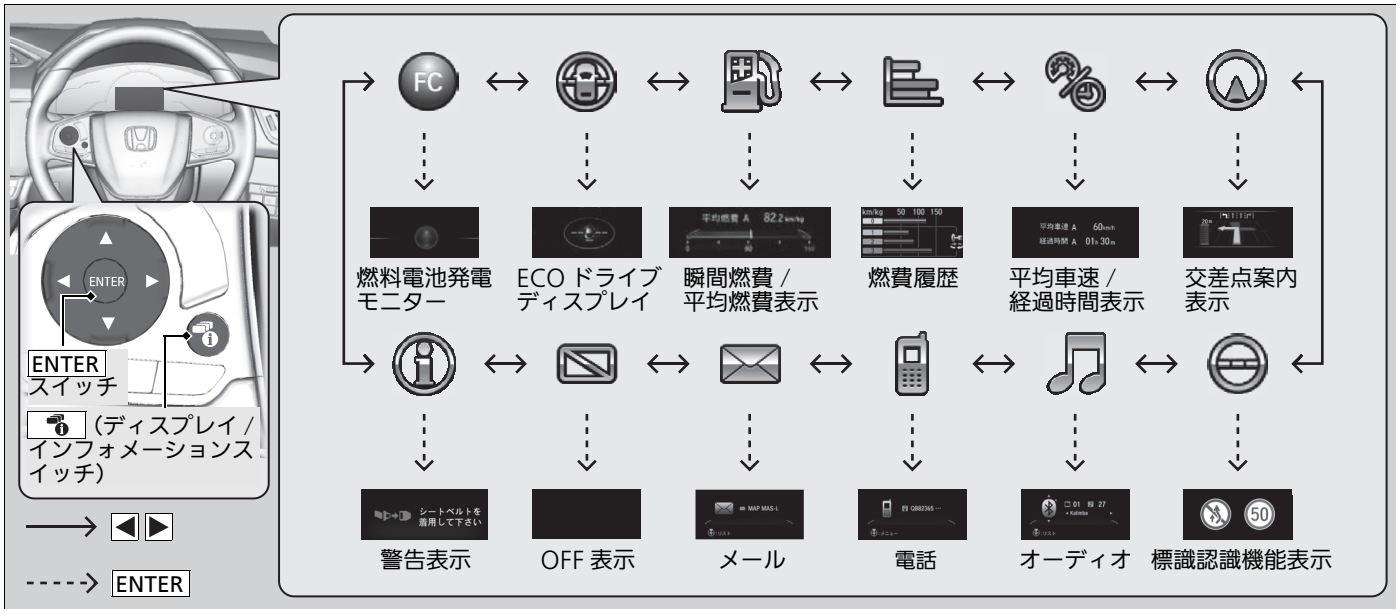
➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。

■表示の切り換えかた

ディスプレイ / インフォメーション( )スイッチを押し、◀ ▶を操作するごとに、表示が下記のように切り換わります。



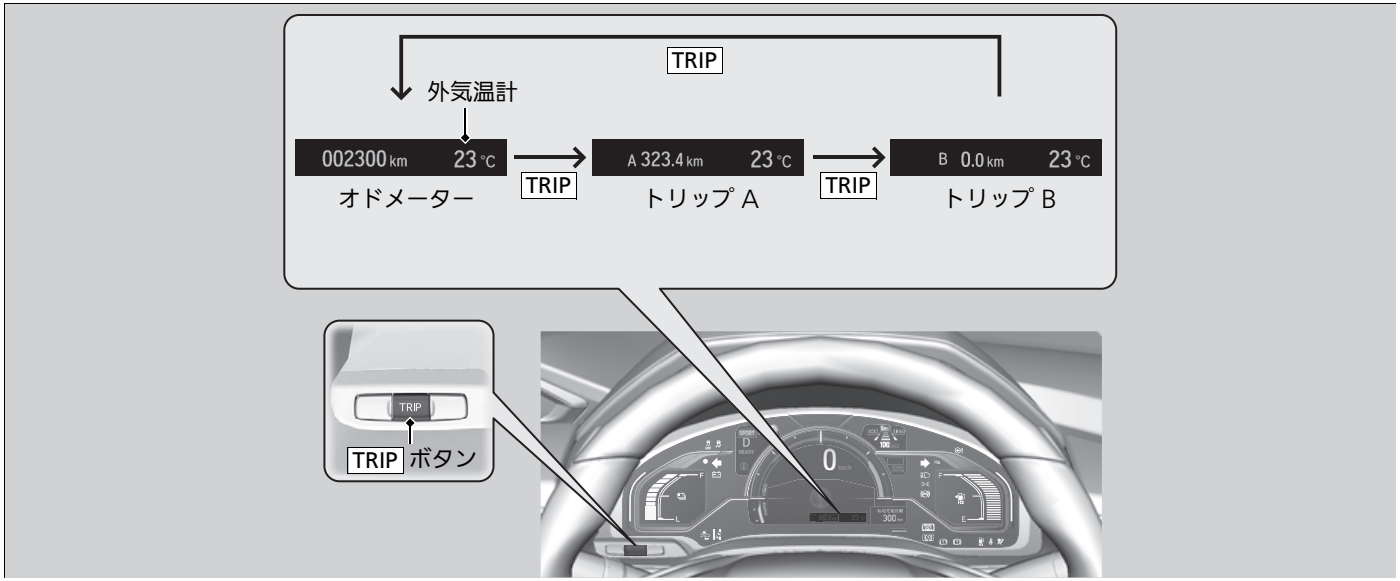
表示の切り換えかた

Honda インターナビシステムを使って、表示をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

➡ **別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書**

次ページに続く

TRIP ボタンを押すごとに画面が切り換わります。



■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、 TRIP ボタンを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

■平均燃費表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/kg で表示します。
トリップメーターA、B をリセットすると、平均燃費表示 A、B、平均車速表示 A、B、経過時間表示 A、B も同時にリセットされます。

■瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/kg で表示します。

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

トリップメーターA とトリップメーターB は、 TRIP ボタンを押して切り換えられます。

平均燃費表示

表示される平均燃費は、実際に走行した燃費とは異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を水素ガスの充てんと連動させて自動的にリセットさせることができます。
➔ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

次ページに続く

■経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

■平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

■標識認識機能表示

走行中に認識した最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識情報を表示します。

➔ **標識認識機能** P.232

≫経過時間表示

経過時間表示は 99 時間 59 分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を水素ガスの充てんと連動させて自動的にリセットさせることができます。

➔ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

≫平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を水素ガスの充てんと連動させて自動的にリセットさせることができます。

➔ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3 ℃の範囲で補正することができます。

補正するには、Honda インターナビシステムのカスタマイズ機能を使用します。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

■オーディオ

- 各種音楽メディアの表示を行います。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

■メール

- メールの表示を行います。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

■電話

- ハンズフリー電話の表示を行います。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

▨外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ30km/h以下のときは、表示される温度が、路面の熱、モータールームの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。

また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

次ページに続く

■燃料電池発電モニター



燃料電池の発電量を表示します。
発電量は、燃料電池発電モニターの円の大きさによって表示されます。

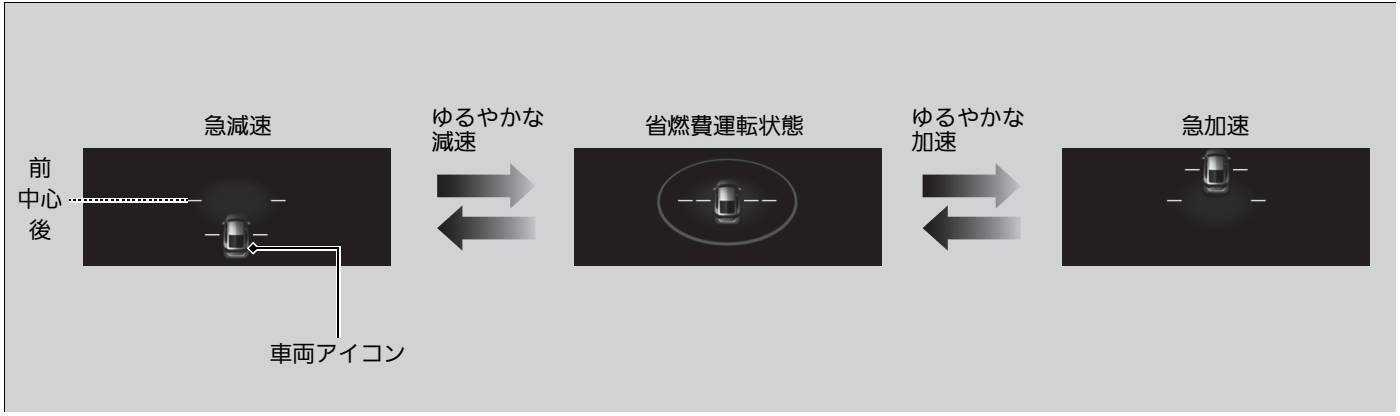
■平均燃費履歴表示



走行時の平均燃費履歴を過去3回分表示します。
パワーモードを ON モードにすると更新され、最も古い履歴が消去されます。

■ ECO ドライブディスプレイ

運転操作の状態に応じて車両アイコンが前後に移動します。
急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。
車両が中心からずれないように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。



次ページに続く

■カスタマイズ機能

Honda インターナビシステムを使って、各機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

➔ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

ヘッドアップディスプレイ

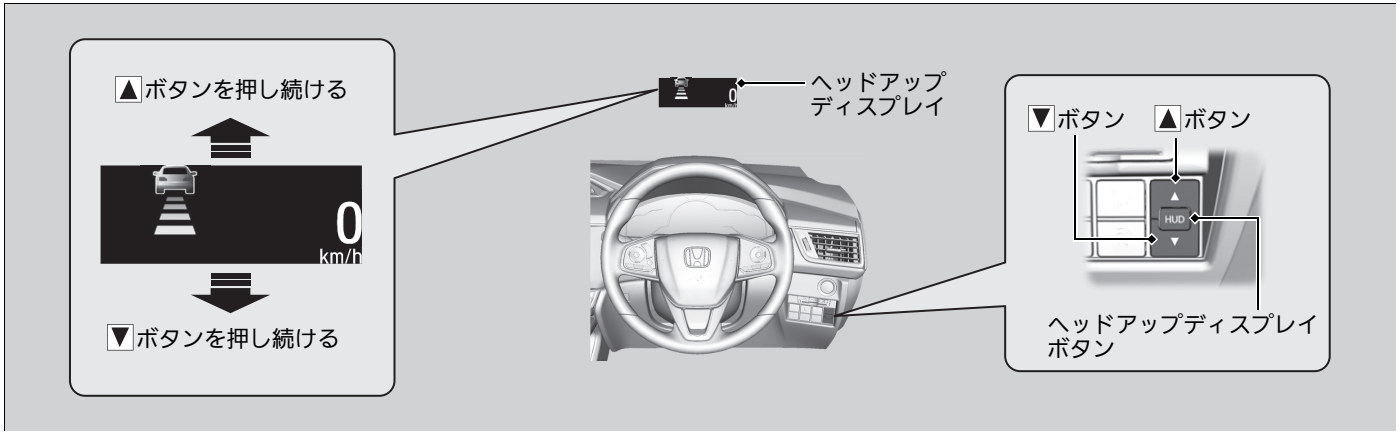
ヘッドアップディスプレイは、スピードメーター、渋滞追従機能付 ACC/LKASの現在の状態、標識認識機能表示、交差点案内表示を表示できます。パワーモードがONモードのときに表示され、表示内容は車両の状態によって自動的に切り替わります。

ヘッドアップディスプレイを ON/OFF するには：ヘッドアップディスプレイボタンを押します。

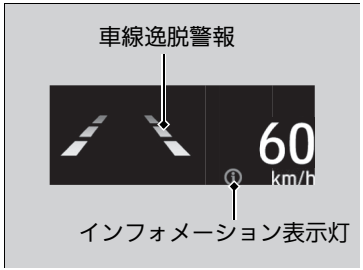
画面は目の高さに合わせて上下に移動できます。
ヘッドアップディスプレイの表示位置を上下に移動させるには：好みの位置になるまで、▲または▼ボタンを長押しします。

ヘッドアップディスプレイ

画面の高さは、Honda スマートキーで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1 のキーとDRIVER2 のキーを判別して、記憶した位置に自動調節されます。



次ページに続く



車両情報のほか、以下が表示されます。

- インフォメーション表示灯：異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージと同時に表示されます。
  ➡ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.82
- 車線逸脱警報：車線を越えそうになるとハンドルの振動による警告と同時に表示されます。
  ➡ **LKAS（車線維持支援システム）** P.239
- ヘッドアップワーニング
  CMBS が作動し、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されると点滅します。
  ➡ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.267
  渋滞追従機能付 ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されると点灯します。
  ➡ **渋滞追従機能付 ACC（アダプティブ・クルーズ・コントロール）** P.218

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)/LKAS 表示

渋滞追従機能付 ACC および LKAS の現在のモードを表示します。

➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218
➔ **LKAS(車線維持支援システム)** P.239

■交差点案内表示

ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

➔ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

■標識認識機能表示

走行中に認識した最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識情報を表示します。

➔ **標識認識機能** P.232

交差点案内表示

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

➔ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。



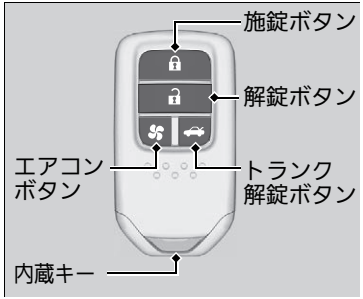
時刻の設定 113
ドアの施錠と解錠
キーの種類と機能 114
Honda スマートキーの微弱電波 116
車外でのドアの施錠 / 解錠 117
車内での施錠 / 解錠 123
チャイルドプルーフ 125
トランクの開閉 127
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 131
セキュリティアラームシステム 131
ウィンドーの開閉 133
ハンドルまわりのスイッチ操作
POWER スイッチ 136
方向指示器(ウィンカースイッチ) 139
ライトスイッチ 140
ワイパー/ ウォッシャー 142
イルミネーションコントロール 144
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ 146
ドライビングポジションシステム 147
ハンドルの調節 149
ミラー類の調節 150
シートの調節 153
フロントシート 153
ヘッドレスト 155
アームレスト 157
室内灯 / 室内装備品 158
エアコン
エアコンの吹き出し口 168
オートエアコンの使いかた 169
オートエアコンのセンサー 176
外部給電のしかた 177

時刻の設定

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、トランクの施錠 / 解錠に使用できます。
また、キーについているボタンで、すべてのドア、トランクの施錠 / 解錠の操作ができます。

»キーの種類と機能

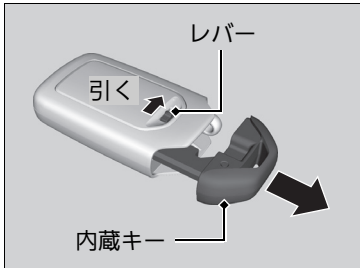
すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。
➔ **イモビライザーシステム** P.131

アドバイス

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。
故障を防ぐため、下記の点をお守りください。
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。
キーが正常に作動しなくなった場合は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

■内蔵キー

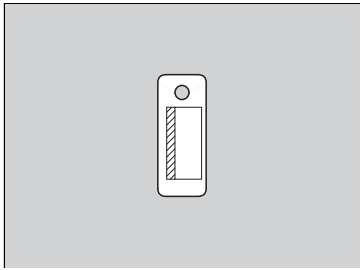


Honda スマートキーの電池が切れたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーは Honda スマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

キーの種類と機能

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき**
P.329

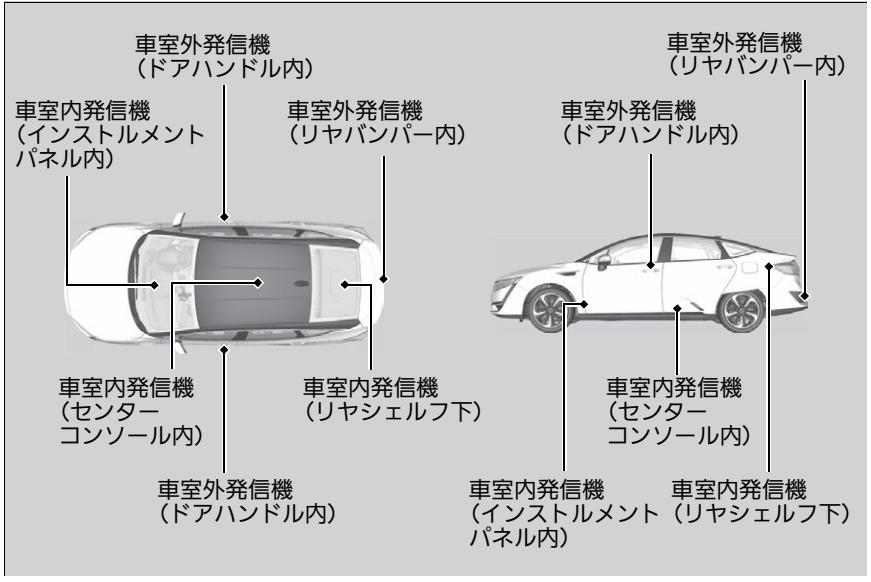
キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、指定の Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、トランクの施錠 / 解錠操作をするときやパワーモードを ON モードにするとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



▶Honda スマートキーの微弱電波

⚠注意

植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

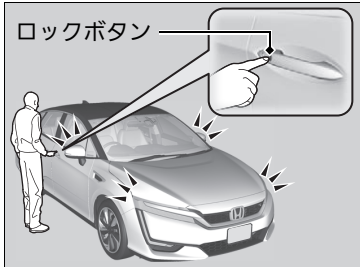
また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドルを操作することでドア、トランクの施錠や解錠ができます。
施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドルから周囲約 80cm 以内です。



■施錠するには

運転席ドアまたは助手席ドアのロックボタンを押します。

▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、トランクが施錠されます。

車外でのドアの施錠 / 解錠

ドアを解錠すると、室内灯が点灯します。
室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。
約 30 秒点灯し、徐々に暗くなります。30 秒以内にドアを施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。
➔ **室内灯** P.158

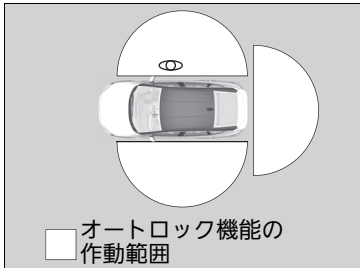
Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

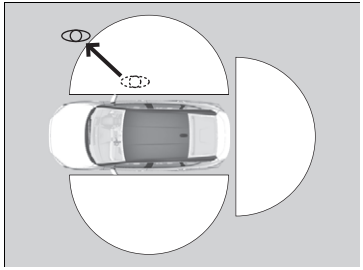
30 秒以内にドアを開けてください。
Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードが OFF モード以外(外部給電中を除く)のときはHondaスマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドルで施錠 / 解錠操作ができます。

次ページに続く





■施錠するには(降車時オートドアロック機能)

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドアが自動的に施錠します。
このオートロック機能は、すべてのドアが閉まっている状態で、Honda スマートキーが運転席または助手席ドアハンドルから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。
Honda スマートキーを携帯し、降車してドアを閉めてください。

1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。

2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、トランクが施錠されます。

施錠するには(降車時オートドアロック機能)

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。
ON にするときは、Honda インターナビシステムのカスタマイズ機能で設定を変更してください。

別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書

オートロック機能が起動し、作動範囲内にいるときはドアが施錠されるまで、Honda スマートキーのインジケーターが点滅します。

オートロック機能が起動し、車から離れずに作動範囲内にいた場合は、アンサーバック音が鳴ってから、約 30 秒後に自動で施錠されます。

オートロック機能が起動してからドアを開けた場合、オートロック機能は中断されますが、再度ドアを閉めるとオートロック機能は再開されます。

Honda スマートキーを車内に置いたままドアを閉めたときや、Honda スマートキーが作動範囲内に無い場合はオートロック機能は起動しません。

一時的にオートロック機能を OFF にするとき：

1. パワーモードを OFF モードにする。
2. 運転席ドアを開ける。
3. マスタードアロックスイッチを施錠→解錠→施錠→解錠の順番で押す。
▶ オートロック機能が OFF になり、アンサーバック音が鳴ります。

以下のいずれかの操作をした場合、オートロック機能が ON に戻ります。

- パワーモードを ON モードにする
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムもしくは Honda スマートキーシステムですべてのドア、トランクを施錠する
- Honda スマートキーを携帯したままオートロック機能の作動範囲内から離れる
- いずれかのドアを開ける

施錠するには（降車時オートドアロック機能）

次のような場合は、オートロック機能は作動しません。

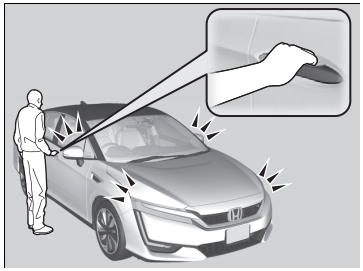
- Honda スマートキーが車内に置いてあるとき
- ドア、ボンネットが完全に閉まっていないとき
- パワーモードが OFF モード以外のとき
- 降車時にすでに Honda スマートキーが作動範囲内にないとき

オートロック機能の起動後に、次のような場合は、オートロック作動中止警告ブザーが約 2 秒間鳴ります。

- Honda スマートキーを窓から車内に置いたとき
- 車に近づきすぎているとき
- Honda スマートキーをトランク内に置いたとき

オートロック作動中止警告ブザーが鳴ったときは、車から離れても自動で施錠されません。Honda スマートキーを携帯していることを確認し、再度ドアを開閉してオートロック起動ブザーが鳴ることを確認してください。

次ページに続く



■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握ります。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、トランクが解錠されます。

Hondaスマートキーシステムでの施錠 / 解錠

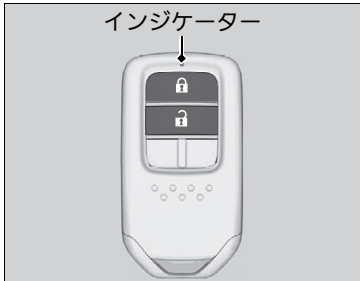
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約2秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおして解錠されていることを確認してから引いてください。
- ドアハンドルより約80cm以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラスに近づきすぎていると作動しないことがあります。

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、Honda インターナビシステムを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

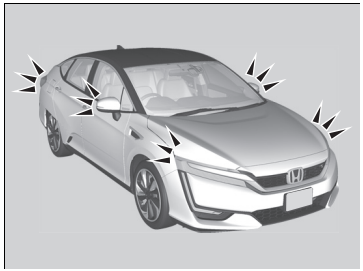
➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



Honda スマートキー

Ⓐ 施錠ボタン
Ⓑ 解錠ボタン



■施錠

施錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、トランクが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、トランクが解錠されます。

» キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドアを開けてください。

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、再び自動的に施錠されます。

Honda インターナビシステムで再施錠される時間をカスタマイズすることができます。

➔ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

パワーモードが OFF モード以外(外部給電中を除く)のときは、キーレスエントリーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドアが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

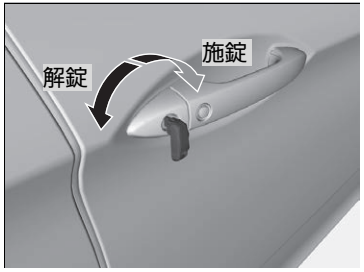
➔ **電池交換のしかた** P.301

次ページに続く

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠

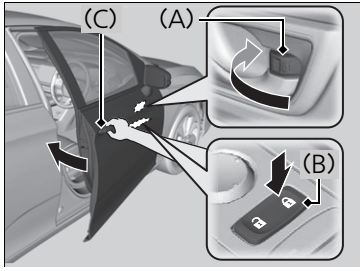
Hondaスマートキーの電池がきれたときや車の12Vバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

➡ 電池交換のしかた P.301



キーを確実に差し込んで、回します。

■キーを使わないでの施錠



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(B)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(C)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Hondaスマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

⩙キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドアとトランクも同時に施錠 / 解錠されます。

▶施錠すると、非常点滅表示灯が1回点滅します。

▶解錠すると、非常点滅表示灯が2回点滅します。

⩙キーを使わないでの施錠

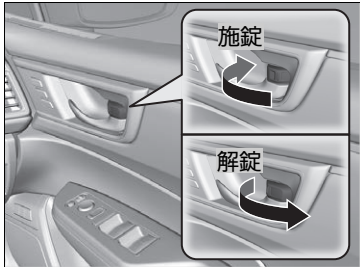
運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドアとトランクも同時に施錠されます。

▶施錠すると、非常点滅表示灯が1回点滅します。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

車内での施錠 / 解錠

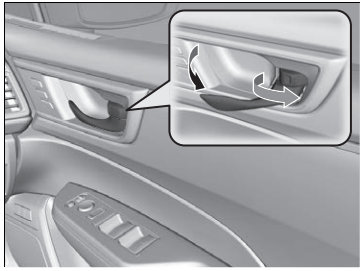
■ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
ノブを押し込みます。

■解錠するには
ノブを引き出します。

■運転席ドアハンドルでの解錠



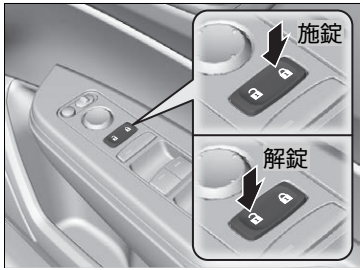
運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠 / 解錠されます。

次ページに続く

■マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

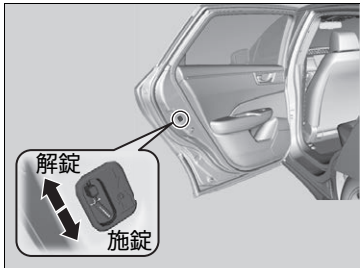
»マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、トランクを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック

■車速連動

車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、トランクが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック

■シフトポジション連動

ブレーキペダルを踏んでシフトポジションを P に入れると、すべてのドア、トランクが自動的に解錠される機能です。

衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

オートドアロック / オートドアアンロック

Honda インターナビシステムを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書

トランク開閉時の注意

トランク開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■トランクを開けているとき

- トランクは上までしっかりと開ける。
  ▶途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- トランクを開けたまま走行しない。

■トランクを閉めるとき

- Honda スマートキーを、トランク内に置き忘れないように注意する。

トランク開閉時の注意

⚠注意

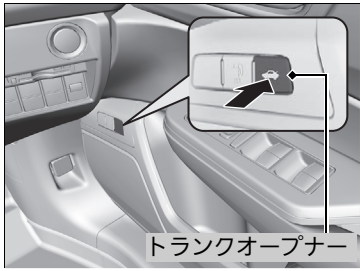
トランクを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

トランクルーム内には、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

トランク内にお子さまが入らないように注意する。

運転席ドアが施錠されているとき：
トランクを閉めると、トランクも施錠されます。
▶施錠されると、非常点滅表示灯が１回点滅します。
運転席ドアが解錠されているとき：
トランクを閉めても、施錠されません。

トランクオープナーで開ける



運転席ドアにあるトランクオープナーを押すと、トランクが解錠され浮き上がります。

トランクが開かないとき P.353

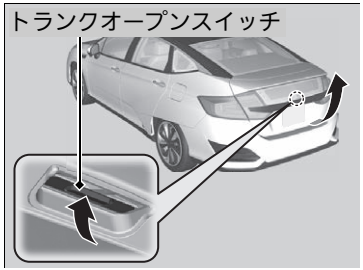
キーレスエントリーシステムで開ける



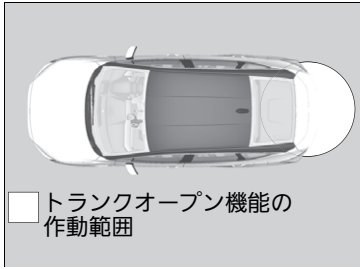
トランク解錠ボタンを約1秒押すと、トランクが解錠され浮き上がります。

パワーモードが OFF モード以外のときは、Honda スマートキーの解錠ボタンでは開けられません。

トランクオープンスイッチで開ける



運転席ドアを解錠し、トランクオープンスイッチを押すとトランクが浮き上がります。



Honda スマートキーを携帯して、トランクオープンスイッチを押すとトランクが解錠され浮き上がります。このときアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が点滅します。トランクオープン機能が作動するのは、トランクオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

トランクオープンスイッチで開ける

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、トランク内に置かないようにしてください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもトランクオープンスイッチでトランクを開けることができます。
- トランク内に Honda スマートキーを置いたままトランクを閉めると、ブザーが鳴りトランクが開きます。Honda スマートキーを取り出してから、再度トランクを閉めてください。
- トランクを閉めるときは、Honda スマートキーを後席に置かないでください。

エマージェンシートランクオープナー



安全のため内側からトランクを開けることができます。

矢印の方向にレバーをスライドさせます。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。 POWER を押すときは、下記の点に注意してください。

- POWER スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、内蔵キー、キーレスエントリーシステムあるいは Honda スマートキーシステムを使わずにドア、トランク、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5 分間以上作動することがあります。

次ページに続く

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードがOFFモードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーですべてのドアとトランクが施錠されているとき
- 給電をしていないとき

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードをONモードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

≫セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

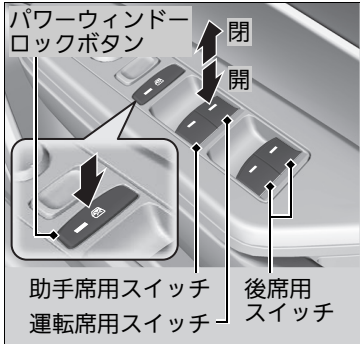
そのときは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

パワーウィンドーの開閉

パワーモードがONモードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFF にしてから行います。パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

■ウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

次ページに続く

パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

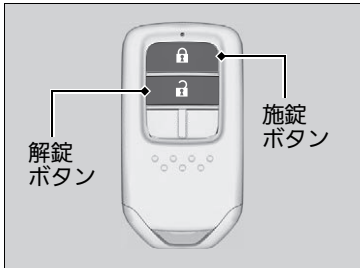
⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーモードをOFFモードにしても、約10分間はキーオフオペレーションによりパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

■キーレスエントリーシステムでのウィンドーの開閉



キーレスエントリーシステムを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき： キーレスエントリーシステムで解錠後、10 秒以内に再度、解錠ボタンを押し続ける

閉めるとき： キーレスエントリーシステムで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

パワーウィンドーの開閉

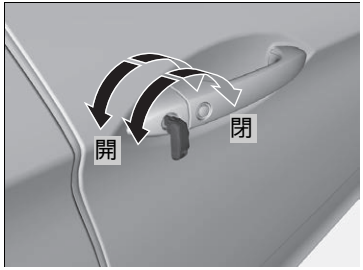
パワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

後席(左、右)のウィンドーは、全開しません。

■キーシリンダーでのウィンドーの開閉



運転席ドアのキーシリンダーを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

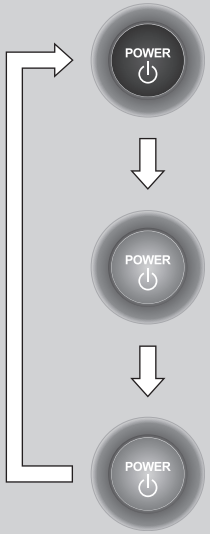
開けるとき： 運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで解錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、解錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにする

閉めるとき： 運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで施錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、施錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにする

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。
ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

POWER スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



OFF モード
- スイッチが消灯
- 全ての電源が OFF になります
- 運転席ドアを解錠し、ドアを開けるとスイッチが白色に点滅します。

アクセサリーモード
- スイッチが赤色に点滅
- パワーシステムを起動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置

ON モード
- スイッチが赤色に点滅
- すべてのアクセサリーが使用可能

（ブレーキペダルを踏んでいない状態）

⇨ スイッチを押す

≫POWER スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードをONモードにできます。パワーモードのON機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、リヤシェルフやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。



■ パワーモード ON の作動範囲

Honda スマートキーの電池が消耗したときは、ブザーとともにマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき**
P.329

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードをONモードにできることがあります。

■パワーモードオートオフ機能

シフトポジションが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～60 分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリーモードのとき

次ページに続く

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー(ポーンポーンポーン)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の 2 種類があります。
警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

»Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

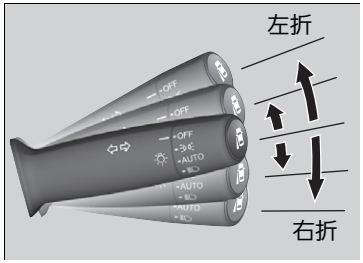
Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードをOFFモードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Hondaスマートキー持ち去り警告は作動しません。

Hondaスマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

HondaスマートキーがパワーモードONの作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態によりHondaスマートキー持ち去り警告が行われることがあります。
故障ではありませんので、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

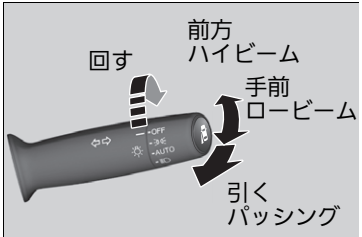


パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が３回点滅します。

ライトスイッチ



車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

AUTO　パワーモードが ON モードのとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯 / 消灯

ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

スイッチを回すとパワーモードのモードに関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

ライトスイッチ

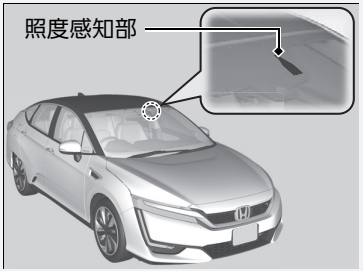
ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。
➡ **表示灯** P.78

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12V バッテリーあがりの原因となります。

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調整するオートレベリング機能が付いています。
ヘッドライト光軸の異常を感じたときは指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

照度感知部は、図の位置にあります。



■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステムですべてのドア、トランクを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

▨ライトスイッチ

感度設定	車外の明るさに応じてライトが点灯します。
MAX	明るい
HIGH	
MID	
LOW	
MIN	暗い

オートライトコントロールシステムの感度調整は、Honda インターナビシステムを使って変更することができます。

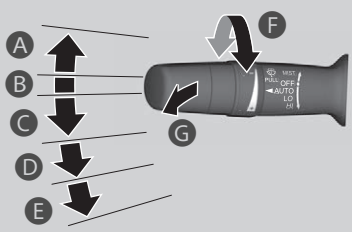
➲ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

次の条件が揃ったとき、アクセサリーライトが点灯します。

- パワーモードが ON モードのとき
- ライトスイッチが AUTO で周囲が明るいとき

ワイパー/ ウォッシャー

■フロントワイパー/ ウォッシャー



Ⓐ MIST：（レバーを操作している間作動）
Ⓑ OFF：停止
Ⓒ AUTO：自動作動
Ⓓ LO：低速（普通の雨量のとき）
Ⓔ HI：高速（雨量が多いとき）
Ⓕ センサー感度の調節
Ⓖ ウォッシャー

パワーモードがONモードのときに使用できます。

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ（OFF、LO、HI）

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■自動作動（AUTO）

➔ **オートワイパー** P.143

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

≫ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

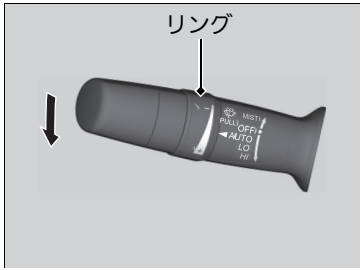
ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

ワイパーモーターには保護機能が備えられています。
モーターの負荷が大きい状態が続いたときなどには、保護機能が働き、ワイパーの速度がゆっくりとなったり、一時的にモーターが止まることがあります。
モーターの負荷が小さくなり数分経過すると、保護機能を解除して通常通り使用できるようになります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

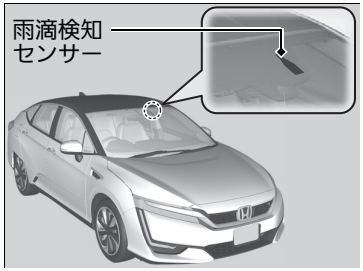
■オートワイパー



レバーを AUTO の位置にするとワイパーが 1 回作動し、その後は自動作動に切り換わります。フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

ワイパー作動中に雪などがたまると雨滴検知をしていなくてもワイパーが作動し続けることがあります。

レバーをOFFの位置にすると、ワイパーを停止することができます。



■センサー感度の調節

リングを回して、雨滴検知センサーの感度を調節します。



鈍感： 雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。

敏感： 雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。

ワイパー/ ウォッシャー

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

オートワイパー

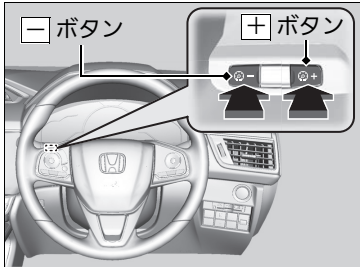
⚠注意

フロントガラスのお手入れをするときは、レバーを必ず OFF にしてください。

パワーモードが ON モードでレバーが AUTO のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

イルミネーションコントロール

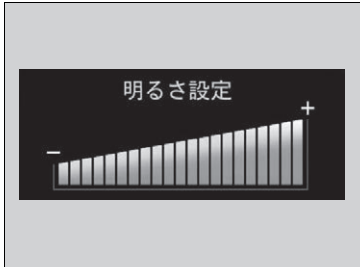
■インストルメントパネル



パワーモードが ON モードのときに、＋/－ボタンでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：＋ボタンを押す
暗くする：－ボタンを押す

明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。また、明るさの調節後、数秒経過するとディスプレイが元の表示に戻ります。



■明るさ調節表示

＋/－ボタンを押すとマルチインフォメーションディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。
目盛が右に増えていくほど、メーター照明が明るくなります。

イルミネーションコントロール

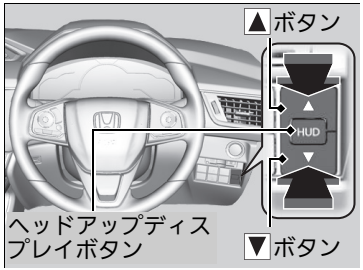
ライトスイッチが OFF 以外で周囲が暗いとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

インストルメントパネル照明が減光しているときとしていないときで、それぞれ明るさ調節ができます。

減光時に目盛が全て表示されるまで、＋ボタンを押すと、「ピッ」という音がして減光が解除されます。

車幅灯が消灯しているときに目盛が全て表示されなくなるまで－ボタンを押すと、明るさ表示が最小になります。このとき、走行したり、車幅灯を点灯させると明るさ最小の状態が解除され、元の明るさに戻ります。

■ヘッドアップディスプレイ

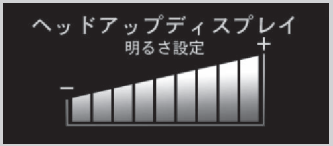


ヘッドアップディスプレイがONのときに、ヘッドアップディスプレイの明るさを調節することができます。マルチインフォメーションディスプレイに明るさ調整表示が表示されるまでヘッドアップディスプレイボタンを長押しします。

明るくする：▲ボタンを押す

暗くする：▼ボタンを押す

明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイが元の表示に戻ります。



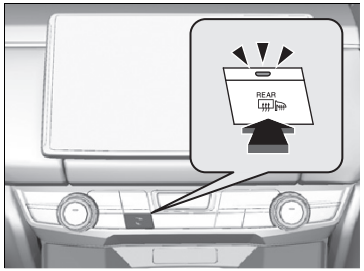
■明るさ調節表示

目盛が右に増えていくほど、ヘッドアップディスプレイが明るくなります。

ヘッドアップディスプレイ

周囲の明るさに応じてヘッドアップディスプレイの明るさは自動で調節されます。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ



パワーモードがONモードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が0℃以下のときは自動的に停止しません。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ

アドバイス

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。
必ず、デフロスターの電熱線とアンテナ線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

パワーモードをONモードにしたとき、外気温が5℃以下の場合、ヒーテッドドアミラーのみ約 10 分間作動することがあります。

ドライビングポジションシステム

シートの位置を2種類記憶させ、それぞれの位置に自動で調節させることができます。

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1のキーとDRIVER2のキーを判別して、記憶したシート位置に自動で調節されます。



DRIVER1 で解錠して運転席ドアを開けたとき：メモリーボタン 1 で記憶したシート位置に自動調節

DRIVER2 で解錠して運転席ドアを開けたとき：メモリーボタン 2 で記憶したシート位置に自動調節

ドライビングポジションシステム

カスタマイズ機能について

Honda インターナビシステムを使って解錠時のシート連動機能を解除することができます。

➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

以下の設定項目(一部を除く)についてもキーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムで解錠して運転席ドアを開けると、DRIVER1 のキーと DRIVER2 のキーを判別して、記憶した設定内容が自動で反映されます。

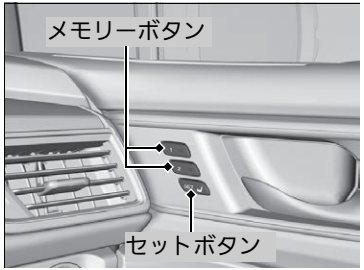
- 車両設定

Honda インターナビシステムを使って設定項目を変更することができます。

➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

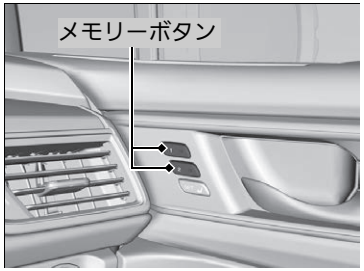
次ページに続く

■記憶のさせかた



1. 運転席シートを希望の位置に調節し、パワーモードを ON モードにする。
2. セットボタンを押す。
▶「ピッ」と音が鳴り、メモリーボタンの表示灯が点滅します。
3. セットボタンを押してから5秒以内にメモリーボタンの 1 か 2 を「ピッピッ」と音が鳴るまで押す。
▶記憶されると押したボタンの表示灯が点灯します。

■記憶の呼び出しかた



1. シフトポジションを P にする。
2. メモリーボタン(1 または 2)を押す。
▶「ピッ」と音が鳴り、表示灯が点滅します。

記憶させた位置までシートが自動的に移動し、移動が完了すると「ピッピッ」と音が鳴り、表示灯が点灯します。

≫記憶のさせかた

セットボタンを押した後、以下のような状況になったときは記憶操作がキャンセルされます。

- 5 秒経過してもメモリーボタンを押さなかったとき
- シート位置を調節したとき
- パワーモードを ON モード以外にしたとき

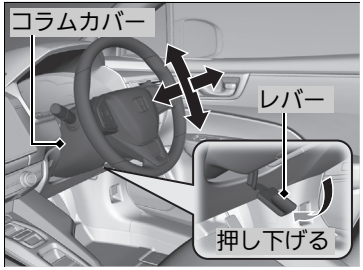
≫記憶の呼び出しかた

自動でシートが移動しているときに、以下のような操作を行うとシートの移動が止まります。

- セットボタン、またはメモリーボタン 1 または 2 を押したとき
- シート位置を調節したとき
- シフトポジションを P 以外にしたとき

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
▶ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。

ハンドルの調節

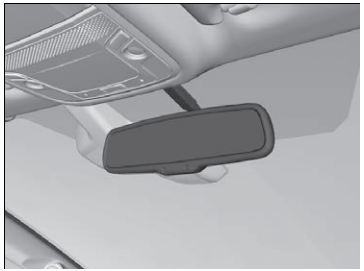
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■自動式防眩ミラー



パワーモードがON モードのときに作動します。

夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。

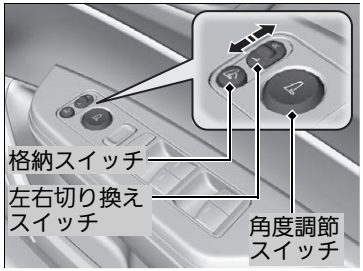
»ミラー類の調節

ミラー類の調節は走行前に行ってください。

»自動式防眩ミラー

シフトポジションを R に入れているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー



	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

次ページに続く

■オートリトラミラー

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するとき :

- Honda スマートキーの施錠ボタンを押す
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルのロックボタンを押す

元の位置に戻すとき :

- Honda スマートキーの解錠ボタンを押す
- Honda スマートキーを携帯し、運転席または助手席ドアハンドルを握る
- パワーモードを ON モードにする

オートリトラミラー

Honda インターナビシステムを使ってオートリトラミラーの設定を変更することができます。

別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書

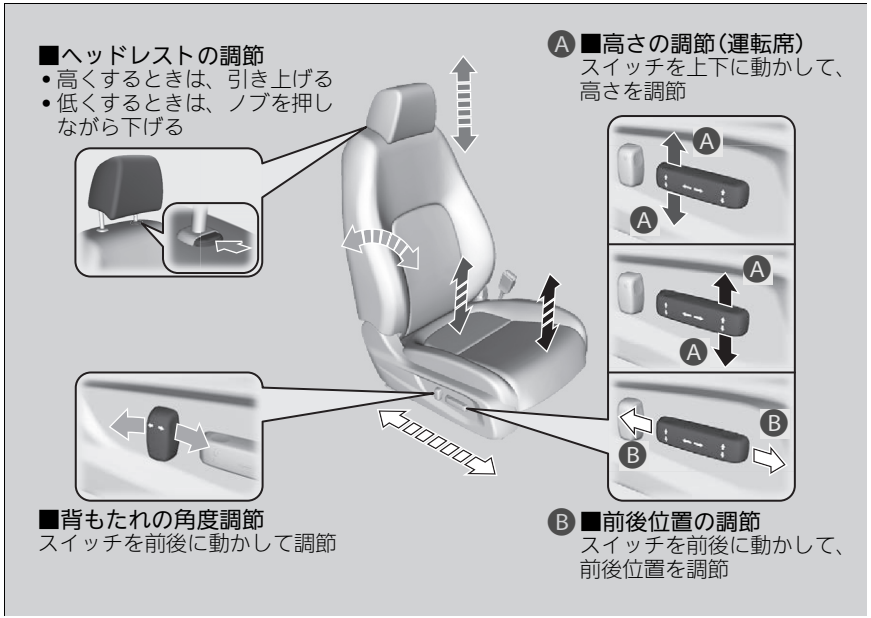
元の位置に戻すとき :

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■フロントパワーシート / ヘッドレストの動かしかた



» フロントパワーシート/ヘッドレストの動かしかた

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

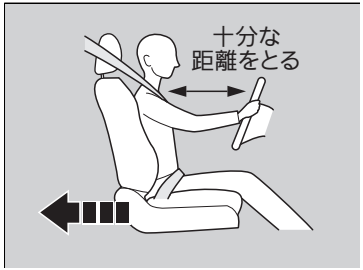
フロントシートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

次ページに続く

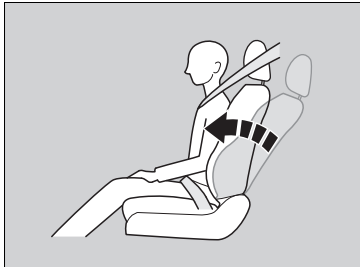
■フロントシートの調節



■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

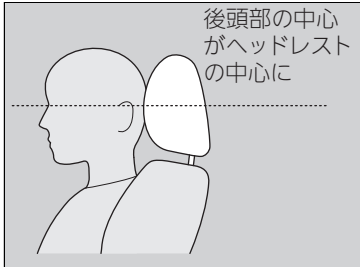
背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

ヘッドレスト

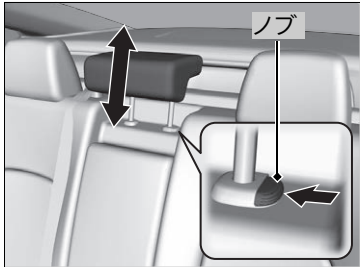
■フロントシートヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■リヤシート(中央)ヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

≫ヘッドレスト

⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

≫リヤシート(中央)ヘッドレストの位置変更

⚠警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。



次ページに続く

■フロントシート、リヤシート(中央)ヘッドレストの取り外しと取り付け

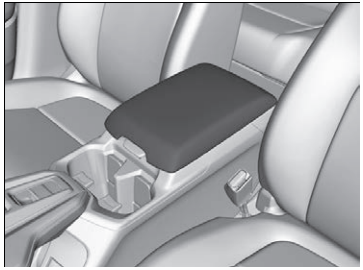
ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト

■フロントシートアームレスト



■リヤシートアームレストの操作



前に倒して使用します。

»アームレスト

⚠警告

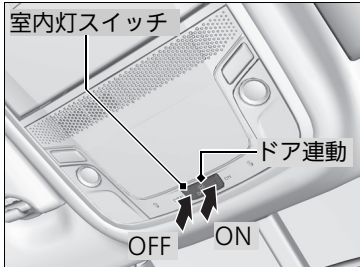
シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アドバイス

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

■室内灯スイッチ



■ON
ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF
ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

≫室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約30 秒後に減光しながら消灯します。

以下の場合も約 30 秒後に消灯します。
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードをOFFモードにしてドアを開けなかったとき

室内灯の消灯する時間をカスタマイズすることができます。

➡ 別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席ドアを施錠したとき
- パワーモードがOFFモード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

12V バッテリーがあがるおそれがあるため、パワーシステムが停止しているときは室内灯を長時間点灯させないでください。

パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。

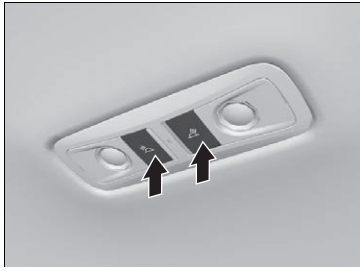
■マップランプ



■フロントシート用マップランプ

夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



■リヤシート用マップランプ

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

» マップランプ

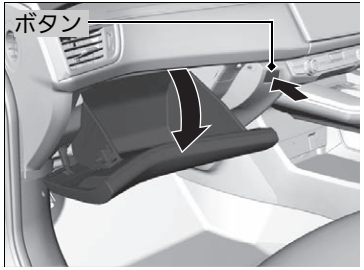
リヤシート用マップランプ

以下のときマップランプのスイッチを押しても消灯できません。

- 室内灯スイッチが ON のとき
- 室内灯スイッチがドア連動のときで、ドアが開いているとき

室内装備品

■グローブボックス



ボタンを押すと開きます。

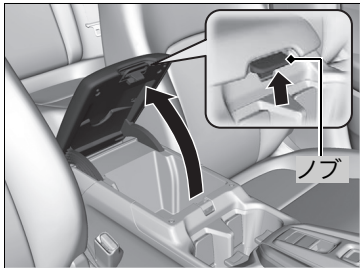
▩グローブボックス

⚠警告

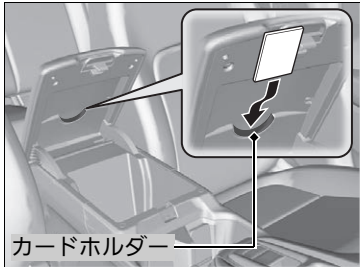
走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

車幅灯が点灯しているとき、グローブボックス照明灯が点灯します。

■センターコンソールボックス



ノブを引くと開きます。



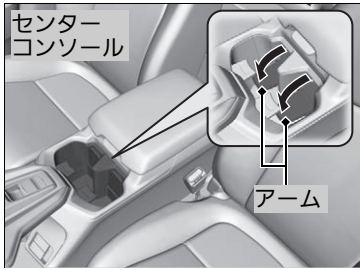
フタの内側にカードホルダーがあります。

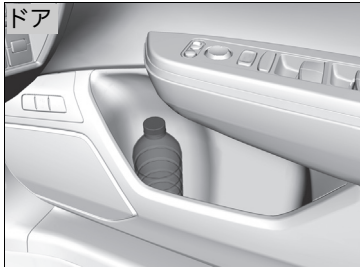
センターコンソールボックス

アームレストとして使用することもできます。

次ページに続く

■ドリンクホルダー





■フロントシート用ドリンクホルダー

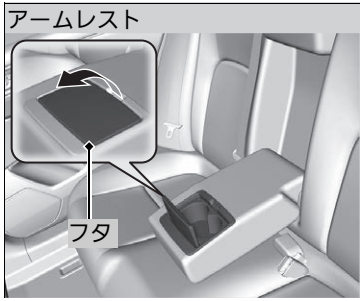
センターコンソールのドリンクホルダーはアームを倒し、ホルダーを浅く使用することができます。

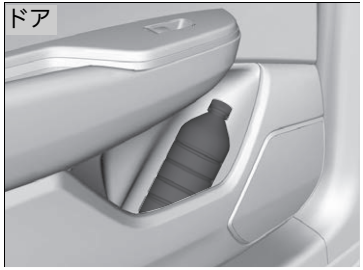
ドリンクホルダー

⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。





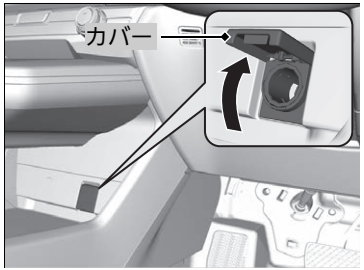
■リヤシート用ドリンクホルダー

アームレストを前に倒して使います。

フタを開きます。

次ページに続く

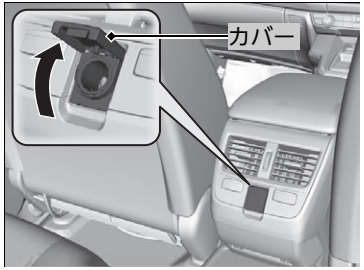
■アクセサリーソケット



パワーモードがアクセサリーモードまたはON モードのときに使用できます。

■フロントコンソールのアクセサリーソケット

カバーを開けて使います。



■センターコンソールボックス後部のアクセサリーソケット

カバーを開けて使います。

»アクセサリーソケット

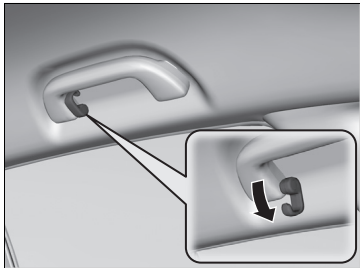
消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

アクセサリーソケットを両方同時に使用する場合は、それぞれの消費電力が 180W(15A)を超えないようにしてください。

■コートフック



リヤシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

■サングラスボックス



矢印部を押すと開きます。
もう一度押すと格納されます。

サングラスなどを入れることができます。

コートフック

⚠注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

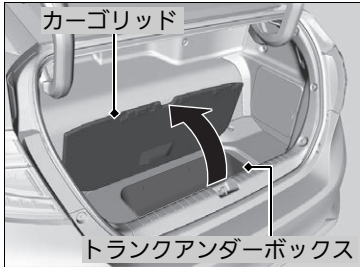
サングラスボックス

炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。
レンズやフレームが、変形やひび割れをおこすことがあります。

開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

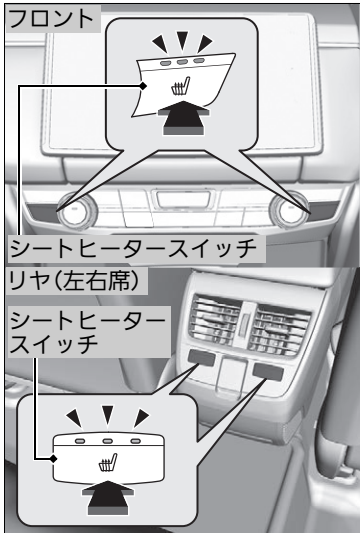
次ページに続く

■トランクアンダーボックス



カーゴリッドを開けると、トランクアンダーボックスがあります。

■シートヒーター



パワーモードがONモードのときに使用できます。

スイッチを押すたびに設定が切り替わります。

1回目 - 高：インジケーターが3個点灯
2回目 - 中：インジケーターが2個点灯
3回目 - 低：インジケーターが1個点灯
4回目 -OFF：インジケーターが消灯

シートヒーター

⚠注意

低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

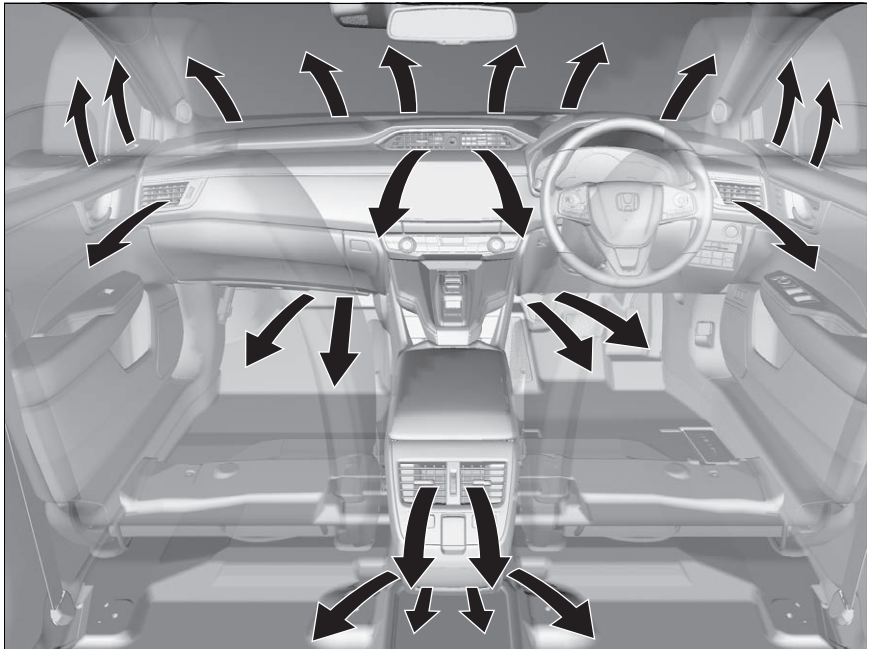
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。
12Vバッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

ある程度時間が経過するとシートヒーターの設定が自動で 1 段階低くなり、最終的に OFF になります。
経過時間は使用環境により異なります。

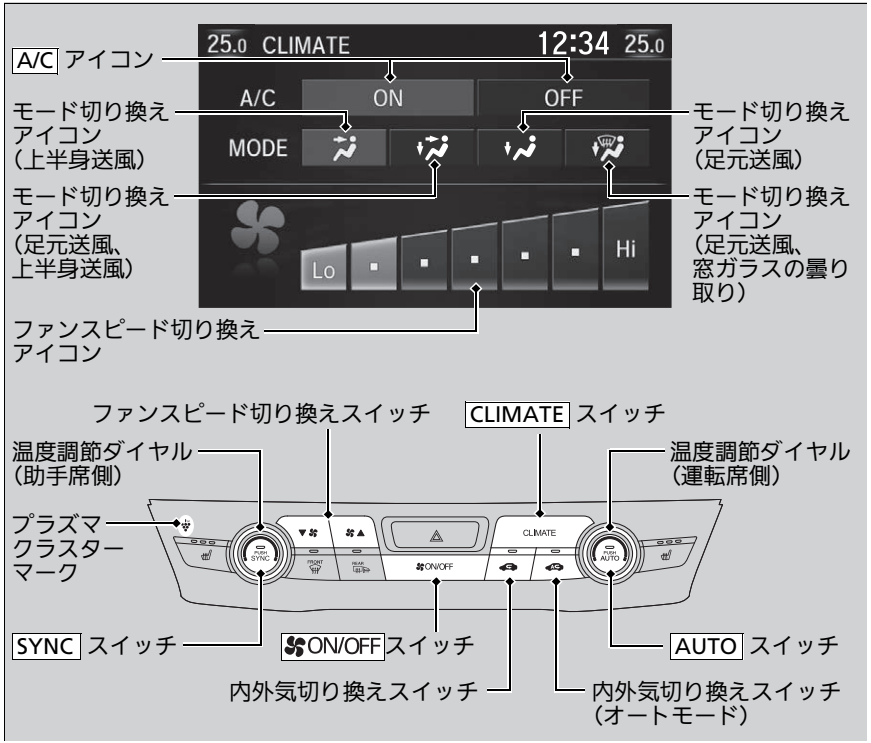
エアコンの吹き出し口



エアコン

音声操作の詳細は、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

オートエアコンの使いかた



パワーシステムを起動した状態で使用します。

1. AUTO を押す。

2. 温度調節ダイヤルで温度を設定する。

3. 停止するときは、ON/OFF を押す。

次ページに続く

オートエアコンの使いかた

オート(AUTO)で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき「AUTO」の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

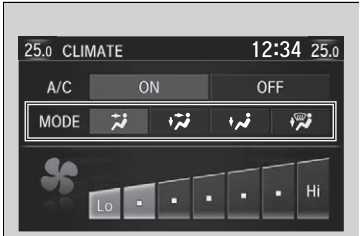
設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

ON/OFF を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

高電圧バッテリーの充電量が低下すると、エアコンの効きが弱くなることがあります。

急な上り坂などでは、走行性能を優先させるため、エアコンが作動しないことがあります。

■ベント(送風)モードの切り換えかた



1. CLIMATE を押す。
   ▶ 画面が切り換わってから、約5秒間操作がない場合、元の画面に戻ります。
   元の画面に戻った場合は、もう一度 CLIMATE を押してください。
2. 希望のベント(送風)モードアイコンを選択する。

■A/C(エアコン)の ON と OFF の切り換えかた



1. CLIMATE を押す。
   ▶ 画面が切り換わってから、約5秒間操作がない場合、元の画面に戻ります。
   元の画面に戻った場合は、もう一度 CLIMATE を押してください。
2. A/C の ON または OFF を選択する。

オートエアコンの使いかた

Hondaインターナビシステムを使ってCLIMATE画面の表示時間をカスタマイズすることができます。

別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書

A/C(エアコン)の ON と OFF の切り換えかた

暖房中に A/C を ON にすると、除湿暖房となります。

■内気 / 外気の切り換えかた

状況に合わせて、内外気切り換えスイッチを押します。

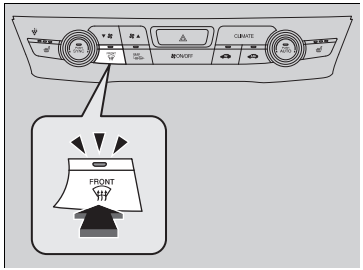
- (内気循環モード):トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- (オートモード):室外の排ガスの状況に合わせて、内気循環と外気導入を自動的に切り換える場合
  気温が低いときなどは窓ガラスの曇りを防ぐために、内気循環に切り換わらない場合があります。
- 外気導入モード:換気を行う場合
  内気循環モード、オートモードが作動していないときに、外気導入モードになります。

内気 / 外気の切り換えかた

エアコンをAUTOにすると、が選択されます。

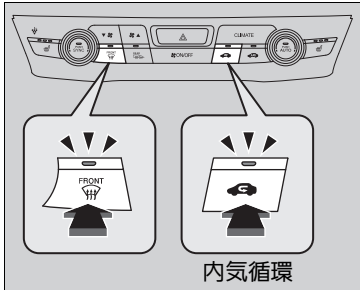
次ページに続く

■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



FRONTを押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONTをもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



内気循環

■急速に霜を取りたいとき

1. FRONTを押す。
2. を押す。

➡ **内気 / 外気の切り換えかた** P.171

»前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

安全のため、運転する前に視界が確保されていることを確認してください。

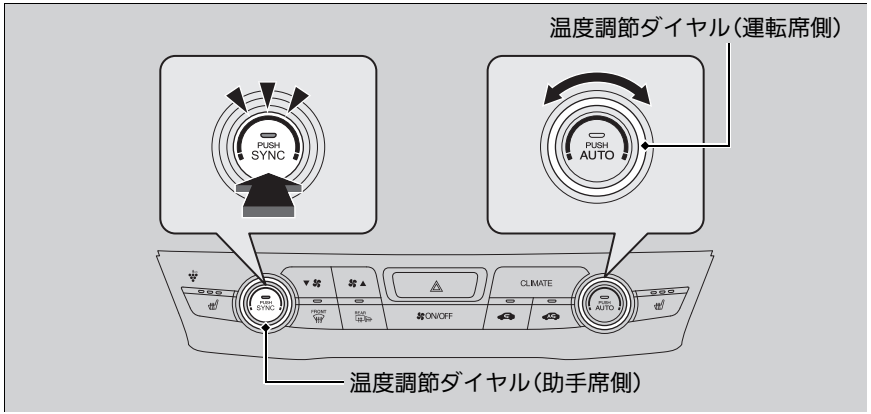
設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

»急速に霜を取りたいとき

霜が取れたら、ただちに外気導入またはオートモードに切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

■連動作動(シンクロ)モード



エアコンの設定操作を独立モードから連動作動モードに切り換えます。
運転席側と助手席側の設定温度を連動させて設定することができます。

1. SYNC を押す。
▶ 連動作動モードに切り換わります。
2. 運転席の温度調節ダイヤルで室内の温度を設定する。

独立モードに戻すときは、 SYNC を押すか、助手席側の温度調節ダイヤルを操作します。

連動作動(シンクロ)モード

FRONT を押すと、連動作動モードに切り換わります。

独立モードの場合は、エアコンの設定温度を運転席側と助手席側で個別に設定できます。

連動作動モードにすると、運転席側の設定温度に切り換わります。

次ページに続く

■プラズマクラスター

エアコンもしくは送風に連動してプラズマクラスターが作動します。

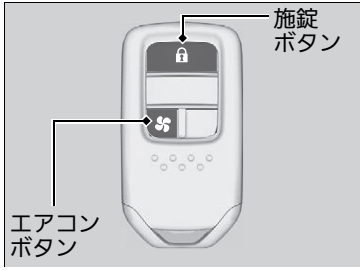
プラズマクラスター

プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、Plasmaclusterはシャープ株式会社の登録商標です。

■キーレスエントリーシステムでのオートエアコンの作動 / 停止

キーレスエントリーシステムを使用してオートエアコンの作動 / 停止が行えます。

走行前にオートエアコンを作動させて、車内の温度を快適にしておくことができます。



■作動させるとき

1. 施錠ボタンを押す。
▶非常点滅表示灯が 1 回点滅します。

2. 施錠ボタンを押してから約5秒以内に、エアコンボタンを長押しする。
▶非常点滅表示灯が 1 回点滅します。
▶約 5 秒後に非常点滅表示灯が 6 回点滅し、オートエアコンが作動します。

■停止するとき

エアコンボタンを長押しします。
▶非常点滅表示灯が1回点滅し、オートエアコンが停止します。

⊠キーレスエントリーシステムでのオートエアコンの作動 / 停止

⚠警告

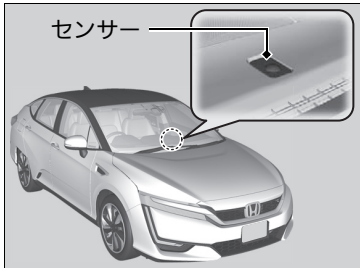
お子さまや介護を必要とされる方、ペットだけを車内に残さない。

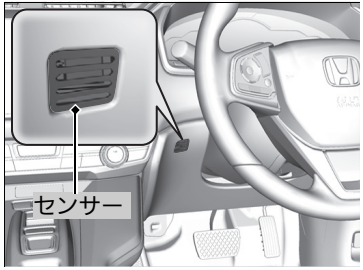
キーレスエントリーシステムでエアコンを使用したとしても、タイマーなどにより、エアコンは自動で停止します。車内が高温または低温になり、重大な傷害、または死亡に至る事故につながるおそれがあります。

次の場合、オートエアコンは自動で停止します。
- 30 分以上作動させたとき
- 高電圧バッテリーの充電量が少なくなったとき
- 運転席のドアまたはボンネットが開いたとき
- パワーモードを OFF モード以外にしたとき
- ブレーキペダルが踏まれたとき

次の場合、オートエアコンは作動しません。
- ドア、ボンネットが開いているとき
- パワーモードが OFF モード以外のとき
- ブレーキペダルが踏まれているとき
- 高電圧バッテリーの充電量が少ないとき

オートエアコンのセンサー





オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

外部給電のしかた

本機は、一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン(V2H DC版、V2L DC版)に準拠しています。電動自動車用充放電システムガイドライン(V2H DC 版または V2L DC 版)に適合した機器との接続・通信の互換性はありますが、供給できる電力、給電可能時間、その他機能については、機器の組み合わせにより異なります。
ご使用の際は、必ず本機ならびに接続する機器の取扱説明書をご確認ください。

本機を電動自動車用充放電システムガイドライン(V2H DC版またはV2L DC版)に適合した機器と接続することで、電気機器へ電気を供給できます(高温 / 低温環境下では出力制限や、停止する場合があります)。
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.85

給電を始める前に下記の項目を確認してください。

- 給電口に異物が入っていないか?
  ▶ 異物が入っている場合は、指定の Honda 販売店にご相談ください。
  給電口は常に清潔な状態にしてください。
- 給電口を水で濡らさないか?
  ▶ 水の近くや濡れた手で使用しないでください。
- 給電口と接続先の給電コネクターは直接接続されているか?
  ▶ 延長コード等は使用しないでください。

外部給電のしかた

⚠警告

以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

- 落雷のおそれがあるときは給電を行わない
- 雨の中や水のかかる場所で、本機を使用しない
- 濡れた手で本機を使用しない
- 給電コネクターや給電ケーブルが破損している場合は使用しない

電力会社からの電気配線や屋内配線には絶対接続しない。
本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。

適切な指示、説明なしでは絶対に本機を操作させないでください。また、お子さまには操作させないでください。

次ページに続く

外部給電のしかた

⚠警告

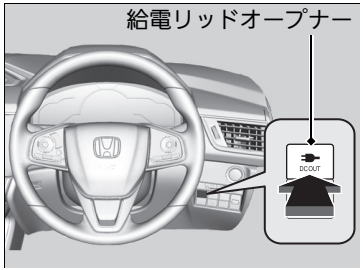
車庫、倉庫、トンネル内などの換気の悪い場所では使用しないでください。
換気の悪い場所は、酸素不足の危険があります。

⚠注意

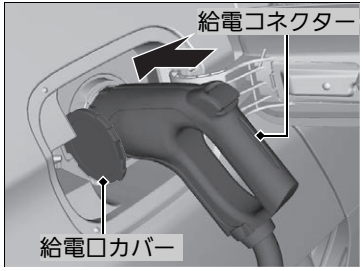
植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、給電の操作はご自身で行わないでください。
給電時は、車両、本機、給電ケーブルに近づかないでください。機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

Honda 製の外部給電器（POWER EXPORTER 9000）を本機で運搬するときは、トランク内に積載し、専用の固定ベルト（別売り）を使用して固定してください。
▶専用の固定ベルトについては Honda 販売店にご相談ください。

■給電の準備



1. パワーモードが OFF モードになっていることを確認する。
2. 給電リッドオープナーを押して給電リッドを開ける。
3. 給電口カバーを開ける。



4. 給電コネクターを給電口に確実に挿し込む。

外部給電のしかた

電力会社からの電気配線から分離して使用できる非常時の給電システムなどに給電する場合は接続先システムの製造業者、販売業者などに事前に相談してください。

医療用電気機器を使用するときは、医療機器メーカー・医師・病院等に事前に相談してください。

精密機器を使用するときは、他の電気機器の干渉がないことを確認してください。

給電の準備

給電中は、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

次ページに続く



5. ブレーキペダルを踏みながら、POWER を押し、パワーシステムを起動する。
▶ マルチインフォメーションディスプレイに「外部給電」と表示されます。
➡ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.97

6. 接続先の機器を操作する。
▶ 接続先の機器の取扱説明書を確認してください。
▶ 車両側のシステム準備のため、電源を入れてから給電開始するまで数分かかることがあります。

■停止のしかた

1. 電気機器の電源を切り、外部給電器のコンセントからプラグを抜く。
2. 接続先の機器の電源を切る。
3. 車両の POWER を押して、パワーモードを OFF モードにする。

≫給電の準備

アドバイス

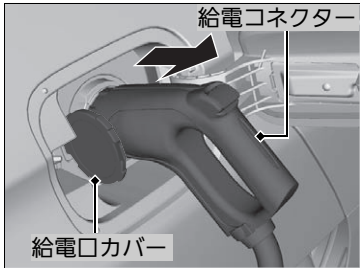
外部給電が自動的に停止してもパワーモードは OFF モードになりません。
12V バッテリーがあがるおそれがあるため、以下の理由で外部給電が自動的に停止したときは、すみやかにパワーモードを OFF モードにしてください。

- 車両の燃料が少なくなったとき
- 消費電力が給電可能電力を超えたとき
- 接続やシステムに異常があるとき
- 漏電しているおそれがあるとき

➡ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.97

外部給電中は車両から離れないでください。

■給電コネクターの取り外し



1. 給電コネクターを給電口から取り外す。
▶ 接続先の機器の取扱説明書を確認してください。
2. 給電口カバーを閉める。
3. 給電リッドを閉める。

⧁給電コネクターの取り外し

アドバイス

気温が低いときなど、給電コネクターが氷結して取り外せないときは、40 ℃以下のぬるま湯をかけて氷を溶かし、水分を十分にふき取ってから、コネクターを引き抜いてください。
氷解剤や熱いお湯で溶かすと、破損や故障するおそれがあります。
再度給電コネクターを接続するときは、十分に乾かしてから、給電コネクターおよび給電口が濡れていないことを確認してください。

オーディオ

この章では、オーディオに関する情報を記載しています。



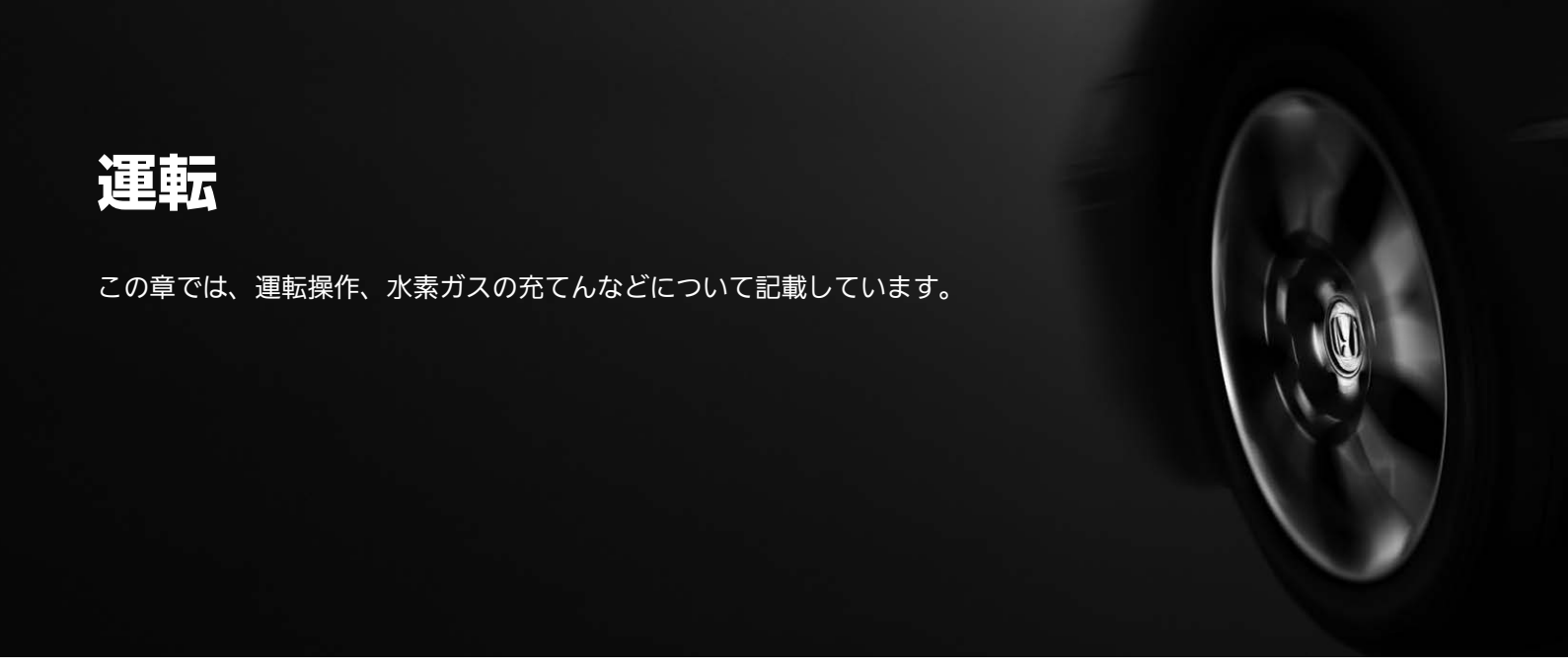
オーディオ装置 183

オーディオ装置

オーディオ・テレビの取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

運転

この章では、運転操作、水素ガスの充てんなどについて記載しています。



運転の前に..... 185
運転操作
パワーシステムの起動..... 187
走行時の注意点..... 190
トランスミッションについて..... 193
シフト操作..... 194
SPORT モードスイッチ..... 198
車両接近通報装置..... 199
フロントセンサーカメラ..... 200
歩行者事故低減ステアリング..... 202
路外逸脱抑制機能..... 208
先行車発進お知らせ機能..... 214
渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)..... 218
標識認識機能..... 232
LKAS(車線維持支援システム)..... 239
VSA(ビークルスタビリティアシスト)... 251
アジャイルハンドリングアシスト..... 253
高電圧バッテリーの特性..... 254
寒冷時の FC システムの特性..... 255
LaneWatch™..... 257
ブレーキ操作
ブレーキシステム..... 259
ABS(アンチロックブレーキシステム)..... 264
電子制御ブレーキアシスト..... 265
エマージェンシーストップシグナル.. 266
衝突軽減ブレーキ(CMBS)..... 267
駐停車操作
駐車する..... 276
リアカメラシステム..... 278
水素ガスの充てん..... 279
指定燃料について..... 279
水素ガスの充てんのしかた..... 280

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  タイヤの点検と整備 P.296
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

次ページに続く

車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

モータールーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。 運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

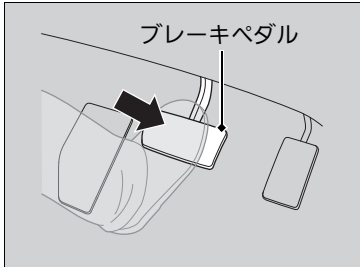
車に合ったフロアマットをお使いください。

- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.153
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.150
  ➔ **ハンドルの調節** P.149
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.40
- ドア、トランクが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.123
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.68

パワーシステムの起動



1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。



2. 右足でブレーキペダルを踏む。

パワーシステムの起動

⚠警告

12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。
12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

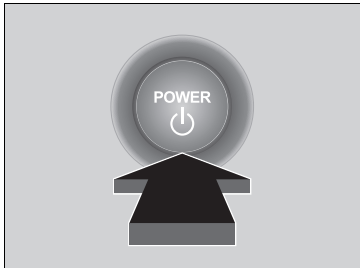
パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリーをOFFにしてから行います。
寒いときのパワーシステムの起動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができません。
➔ **イモビライザーシステム** P.131

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで POWER に触れてください。
➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.329

次ページに続く



3. ブレーキペダルを踏んだままアクセルペダルを踏まずに、 POWER を押す。
▶ パワーシステム起動後は、 POWER が赤色に点灯します。



4. READY 表示灯の点灯を確認する。
▶ READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
▶ パワーシステムが起動すると、READY 表示灯が点灯し運転することができます。
▶ 外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。このとき、READY 表示灯が点灯せず、他のメッセージが表示されます。
➔ **表示灯** P.81

■パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。
1. シフトポジションを P にする。
2. POWER を押す。

▶パワーシステムの起動

パワーシステムが起動しない場合は、10 秒以上待ってから操作してください。

パワーモードをONモードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けることがありますが、ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

POWER は、パワーシステムが起動するまで押し続ける必要はありません。

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、READY 表示灯の点灯を確認し、シフトポジションを D にする。
▶ 後退する場合は R にします。

2. パーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。
▶ ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。
▶ 運転席シートベルトを装着していないと、発進時でも電子制御パーキングブレーキは自動解除されません。
➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.259

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

パーキングブレーキスイッチの操作で解除することもできます。
下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

≫走行時の注意点

走行中はパワーシステムを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを N にしないでください。
回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。モーターや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

次ページに続く

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認し、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

≫その他の注意点

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

下記のような場合では、リヤフレーム、リヤサスペンションを損傷するおそれがありますので、気をつけて運転してください。

- 車止めや路肩等段差のある場所への後ろ向き駐車
- 路肩等段差のある場所を通過、または乗り上げ
- くぼみ(穴)のある個所の通過

トランスミッションについて

■クリープ現象

パワーシステムが起動しているとき、シフトポジションが P N 以外になっていると、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

シフト操作

走行状態に応じてシフトポジションスイッチを押して切り換えます。

■シフトポジションの名称とはたらき



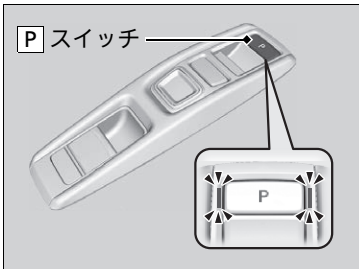
P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
通常走行

■パーキングスイッチ



パワーモードがONモードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションが P になり、スイッチのシフトポジション表示が点灯します。

シフト操作

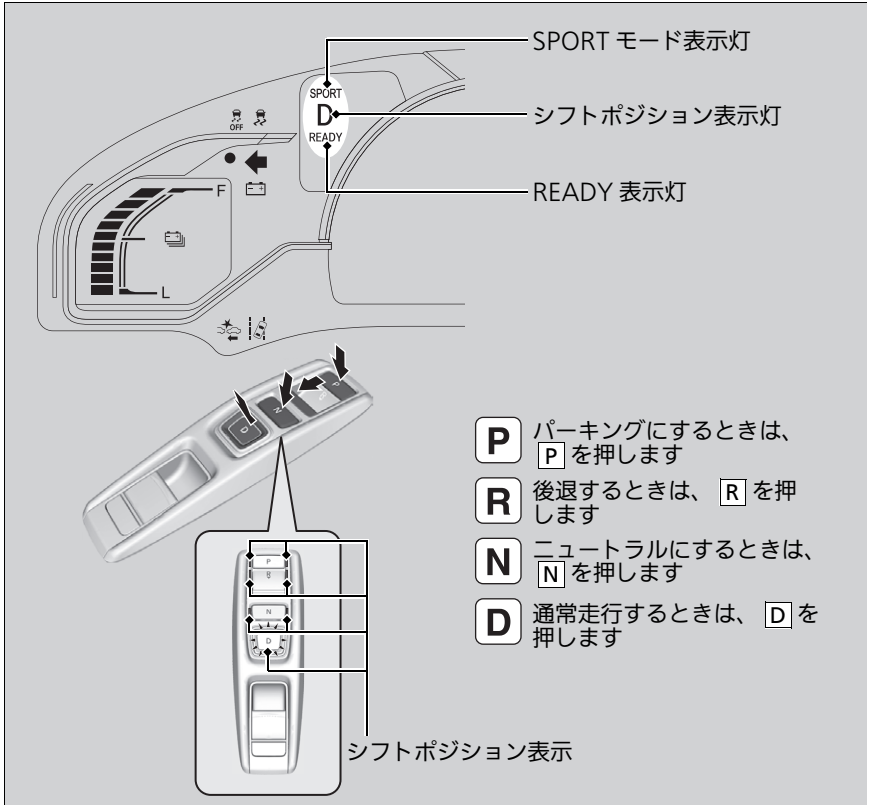
故障と予期しない作動を防止するため：

- シフトポジションスイッチに液体などをこぼさないでください。
- シフトポジションスイッチやまわりに、衝撃を与えたりものを落とさないでください。
- お子様や運転者以外の方がシフトポジションスイッチを操作しないようご注意ください。

R のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトポジションが R の位置になっていることを知らせます。

N のポジションの時にアクセルペダルを踏むとブザー音が鳴ります。
ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを D または R にしてください。

■シフトポジションの操作



シフトポジションの操作

車両を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままシフトポジションを D から R または R から D に切り換えてください。

シフト操作前後に、シフトポジション表示灯とシフトポジション表示を確認してください。

選択しているシフトポジションの表示灯が点滅しているときは急加速を避け、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
全てのシフトポジションで、表示灯が点滅する場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。
異常なければ消灯しますが、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■自動パーキング選択制御

■ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードが ON モードで車が停止、または、車速が 2km/h 以下のときに、 P 以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動で P になります。

■パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションが P 以外のまま、パワーモードをOFFモードにすると、シフトポジションが自動で P になります。

自動パーキング選択制御

駐車をするときは、安全のために、運転席ドアを開ける前にシフトポジションを P にし、適切な方法により行ってください。

駐停車操作 P.276

この制御により P になった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

ドア Open 自動パーキング選択制御

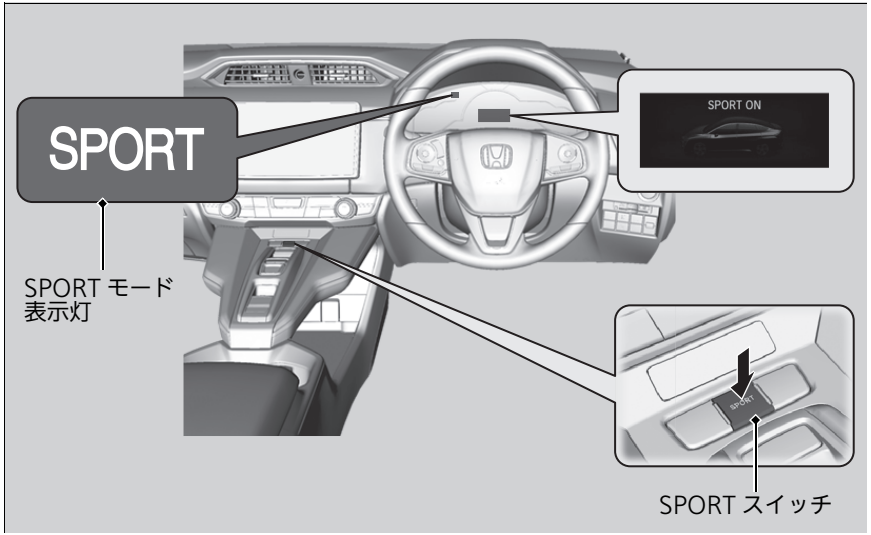
この制御により P になったときは、ドアを閉めて、改めてシフトポジションを選択してください。

■シフトポジションの選択制限

不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフトポジション	1. 操作・走行状態	2. パーキングスイッチ・シフトポジションの操作	3. 操作後のシフトポジション	対処のしかた
P	ブレーキペダルを踏んでいない	他のシフトポジションを選択する	P	アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む
	アクセルペダルを踏んでいる			
N	低速走行中で、ブレーキペダルを踏んでいない		N	
	低速走行中で、アクセルペダルを踏んでいる			
N D	前進している	R を選択する		停車する
R N	後退している	D を選択する		
R N D	走行中	P を選択する		
P N	READY 表示灯が点灯していない	P N 以外を選択する	P N	READY 表示灯の点灯を確認する

SPORT モードスイッチ



高い応答性能により、レスポンスのよいきびきびとした走行を可能にし、山間部などの坂道やカーブでの走行に適した走行モードです。

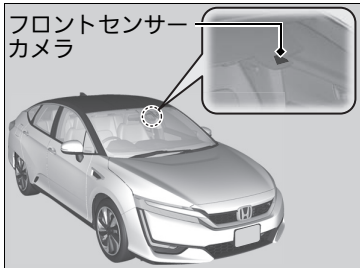
パワーモードが ON モード のときにスイッチを押すと、SPORT モードが ON になります。

車両接近通報装置

約 25km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

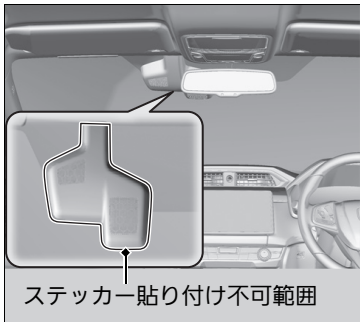
フロントセンサーカメラ

渋滞追従機能付ACC、LKAS(車線維持支援システム)、路外逸脱抑制機能、衝突軽減ブレーキ(CMBS)、誤発進抑制機能、歩行者事故低減ステアリング、先行車発進お知らせ機能、標識認識機能に使用するカメラを装備しています。



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。



フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

フロントセンサーカメラ

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合は指定の Honda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
車内の清掃 P.305

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。
物がフロントガラスに反射してシステムが正常に作動しなくなる場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合は指定の Honda 販売店にご相談ください。
- カメラおよび周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターを使用してください。

フロントセンサーカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。
カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行し、フロントガラスの温度を低下させ、センサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、指定のHonda 販売店で点検を受けてください。

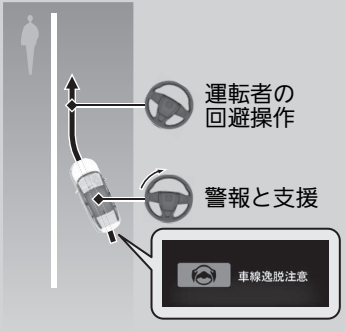
歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動



カメラが車線を認識し、
レーダーとカメラにより
歩行者を検出します



路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。回避状況によっては CMBS が作動する場合があります。

▶歩行者事故低減ステアリング

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

■システムの作動条件

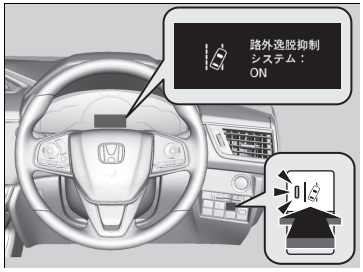
歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを連続で作動させているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

■システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。
路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムの作動条件

運転者による操作が行われているときには支援が感じられないことがあります。

システムの ON と OFF

Honda インターナビシステムを使用し、路外逸脱抑制機能の設定をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし / 警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

➡ **別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書**

次ページに続く

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)や歩行者が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

次ページに続く

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントグリルが汚れているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

■歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物等によりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

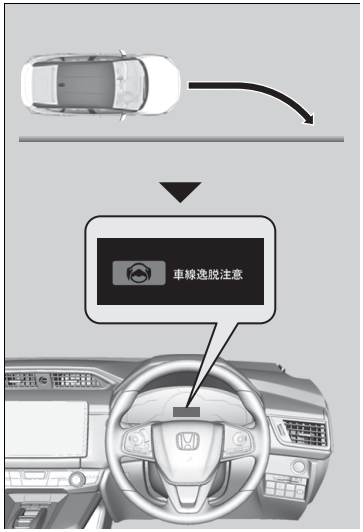
歩行者事故低減ステアリングシステムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントグリルは常にきれいにしておく
- フロントグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントグリルにステッカーを貼らない
- フロントグリルを交換しない

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

■システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄色線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。
マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。
また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。
ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。

▶路外逸脱抑制機能

⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱を検知したときに警告します。
車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また、天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.200



繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、左記の警告を表示し路外逸脱抑制機能を一時停止します。



一時停止状態から数分経過すると、左記の表示とともに路外逸脱抑制機能は復帰します。

■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 100km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

次ページに続く

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。

➔ **路外逸脱抑制機能の条件と制限** P.211

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、 路外逸脱抑制機能警告灯が点灯する場合があります。

➔ **警告灯** P.68

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り替えてください。

▶ システムが ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

≫システムの ON と OFF

Honda インターナビシステムを使用してシステムの設定をカスタマイズすることができます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし / 警報のみ」を選択した場合、システムはハンドルおよびブレーキ制御を行いません。

➡ **別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書**

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき

次ページに続く

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

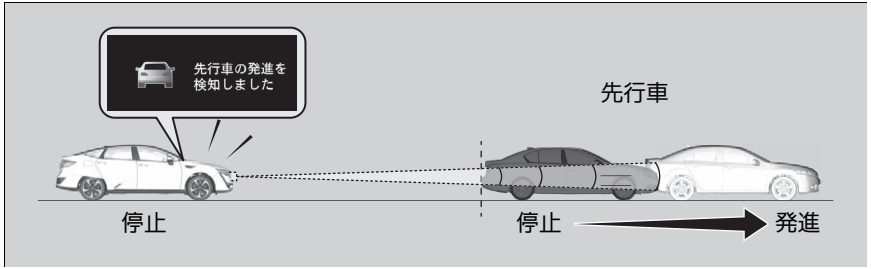
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■シフトポジションが D の場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動しているまたは渋滞追従機能付 ACC が作動中で停車している。

▶先行車発進お知らせ機能

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

先行車発進お知らせ機能を OFF にすることができます。

➡ **別冊のHonda インターナビシステム取扱説明書**

渋滞追従機能付ACC警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.218

■シフトポジションが N の場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動しているまたは
オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

システムの作動タイミングを標準・早めの 2 段階から選択することができます。

➲ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

標準は先行車が停止状態から約 3m 以上進んだときに作動します。
早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

次ページに続く

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)

渋滞追従機能付 ACC は、フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

渋滞追従機能付 ACC を作動させるには：

渋滞追従機能付 ACC システムは、シフトポジションが D のときに使用することができます。

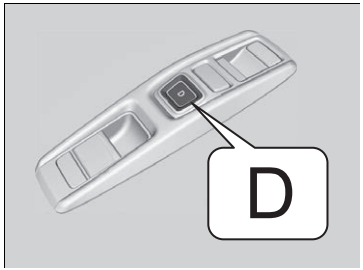
渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

■使用できるシフトポジション
D のとき





ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。
適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

次ページに続く

渋滞追従機能付　ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)

使用上の注意：

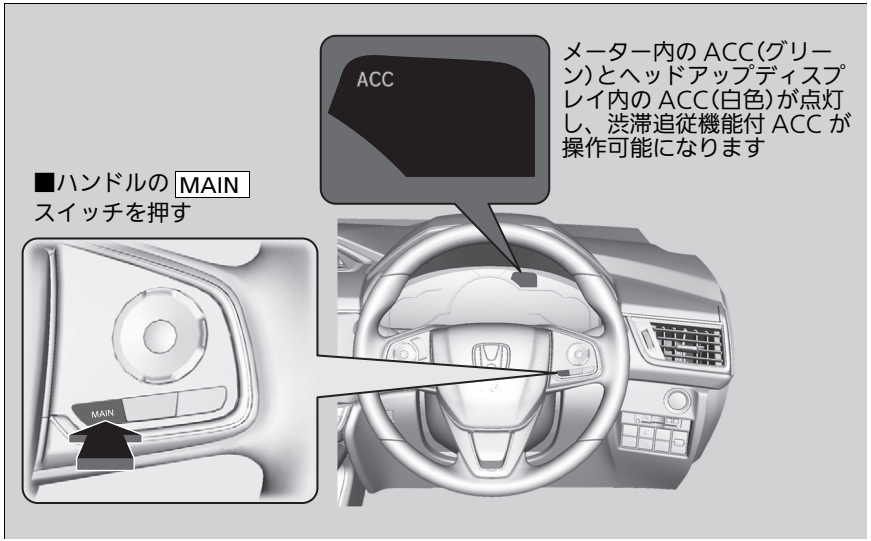
渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

パワーモードを ON モードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにすると、渋滞追従機能付 ACC が作動しない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

フロントセンサーカメラ P.200

■システムを作動させるには



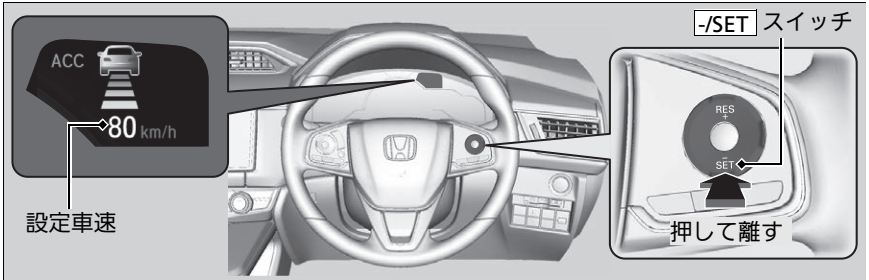
システムを作動させるには

渋滞追従機能付 ACC に使用するレーダーセンサーは衝突軽減ブレーキ(CMBS)のレーダーセンサーと共有しています。

➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.267

次ページに続く

■車速をセットするには



渋滞追従機能付 ACC が作動しているとき

ブレーキペダルを操作していないときに -/SET スイッチを押して離すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイとヘッドアップディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき：

先行車を検知している場合のみ作動することができ、現在の車速にかかわらず設定車速が約 30km/h に設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。

クルーズコントロールを使用するとStraight Driving Assist（直進保舵支援機能）が作動します。
これはEPS（電動パワーステアリング）の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。

≫車速をセットするには

MAIN スイッチを押すと、渋滞追従機能付 ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

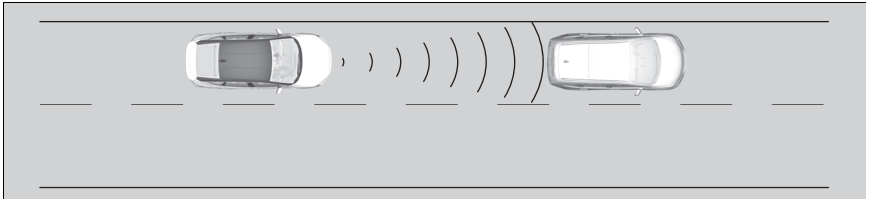
下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、渋滞追従機能付 ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候（雨、霧、雪など）のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

■渋滞追従機能付 ACC の作動

■先行車がいるとき

渋滞追従機能付 ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



渋滞追従機能付 ACC の検知範囲：120m



マルチインフォメーションディスプレイとヘッドアップディスプレイに車のアイコンが表示されます

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

渋滞追従機能付 ACC の作動

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告やヘッドアップワーニングで視覚への警告が表示されます。

ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

Hondaインターナビシステムを使って先行車検知音の有り / 無しを設定できます。

➡ **別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書**

次ページに続く

■先行車がいないとき



マルチインフォメーションディスプレイとヘッドアップディスプレイに点線の車のアイコンが表示されます

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速したあと定速走行します。

■アクセルペダルを踏んだとき

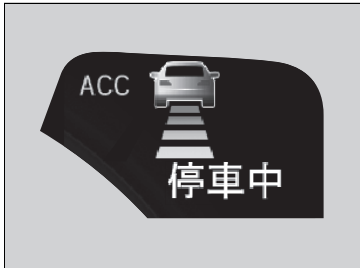
- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付 ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付 ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付 ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

渋滞追従機能付 ACC の作動

制限：
安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。
渋滞追従機能付 ACC の条件と制限 P.225

- 道路状況（カーブなど）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置）によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。
- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■先行車が減速して停車するとき



先行車が停車すると、自車も自動で停車します。マルチインフォメーションディスプレイとヘッドアップディスプレイにメッセージが表示されます。
先行車が動き始めると、マルチインフォメーションディスプレイのアイコンが点滅します。 RES/+ か -/SET を押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

■渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、渋滞追従機能付 ACC 警告灯が点灯する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

➲ **フロントセンサーカメラ** P.200

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 先行車による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき

次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

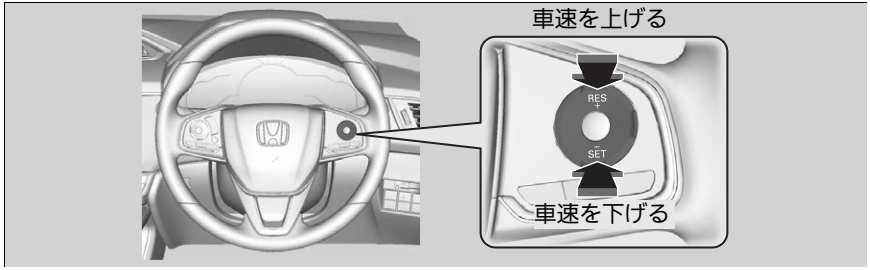
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき

■設定車速を調整するには

手元の RES/+ と -/SET の操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

-/SET スイッチ

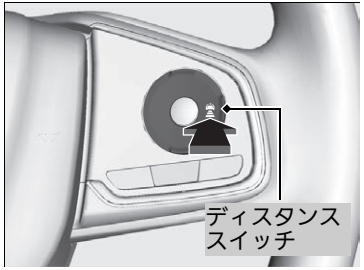
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

次ページに続く

■車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

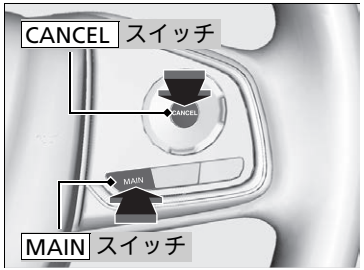
車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		時速 80km/h のとき	時速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 33m	約 40m
長		約 47m	約 59m
最長		約 61m	約 78m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

次ページに続く

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
- MAIN スイッチを押す
  ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む

■渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイとヘッドアップディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 悪天候(雨、霧、雪など)のとき
- フロントグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき

▶解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

渋滞追従機能付 ACC を解除したあと、停車状態でも RES/+ スイッチを押すと解除前の設定車速で作動を開始することができます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- MAIN スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF したあと
- 30km/h 以下で先行車がいないとき

- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 停車状態で先行車がいなくなったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき

解除するには

停車中の解除：

渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。



すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

表示される道路標識は以下の４つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイに道路標識情報を表示します。

マルチインフォメーション
ディスプレイ



ヘッドアップディスプレイ



≫標識認識機能

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。
また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

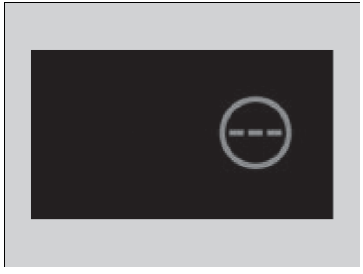
標識認識機能は以下の条件で作動します。
- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。
- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。
- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百〜千数百 m)を走行したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

次ページに続く

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



標識認識機能

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

フロントセンサーカメラ P.200

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。窓ガラスが曇った場合、必要に応じて、デフロスターを使用してください
- 車両を走行し、フロントガラスの温度を低下させ、カメラ周辺の温度を下げてください

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。

安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

■標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

標識認識機能

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイとヘッドアップディスプレイに が表示されます。
のメッセージが消えないときは、指定のHonda 販売店で点検を受けてください。



次ページに続く

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、または、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終りなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

次ページに続く

■マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。ディスプレイの右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例(マルチインフォメーションディスプレイ)





常駐表示モードのときの表示例(ヘッドアップディスプレイ)



左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します

マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

標識認識機能表示は、選択表示モードのほかに、常駐表示モードの選択ができます。

➡ **別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書**

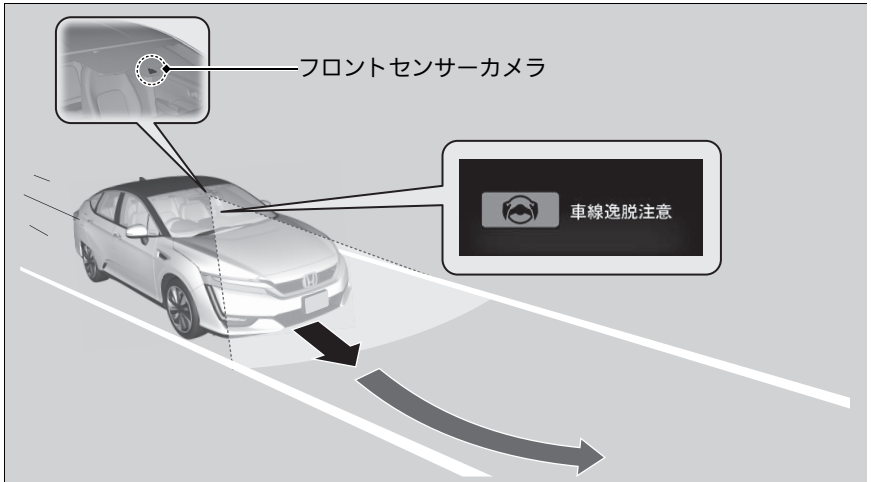
常駐表示モードの道路標識表示

常駐表示モード状態のときは、マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイに縮小サイズの道路標識のアイコンを表示し続けることができます。

LKAS(車線維持支援システム)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

LKAS(車線維持支援システム)

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

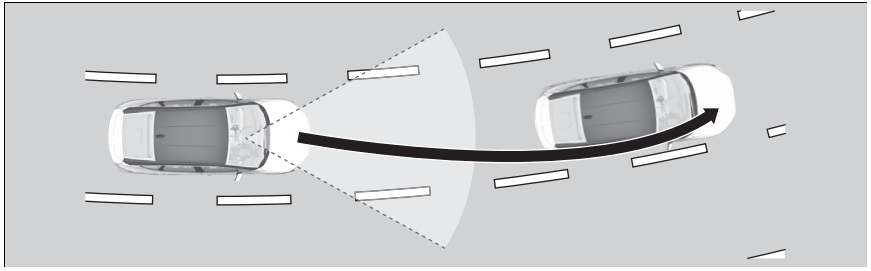
LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

次ページに続く

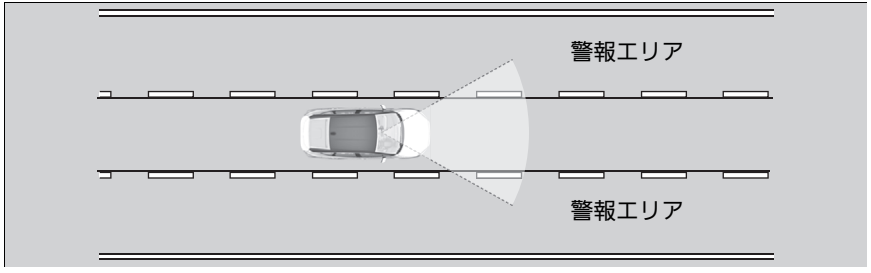
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動と音およびディスプレイ表示で行います。



LKAS(車線維持支援システム)

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.200

LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

➔ **LKAS の条件と制限** P.248

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■ワイパー作動時の LKAS 自動解除機能

ワイパースイッチを LO、HI、AUTO または MIST で連続作動しているときは、LKAS は自動解除します。
ワイパーを OFF にすると、LKAS は復帰します。
ワイパーの作動が停止、もしくは間欠作動になると、LKAS は復帰します。

■車速による LKAS 自動解除機能

車速が 60km/h 以下になると、LKAS は自動解除します。
車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

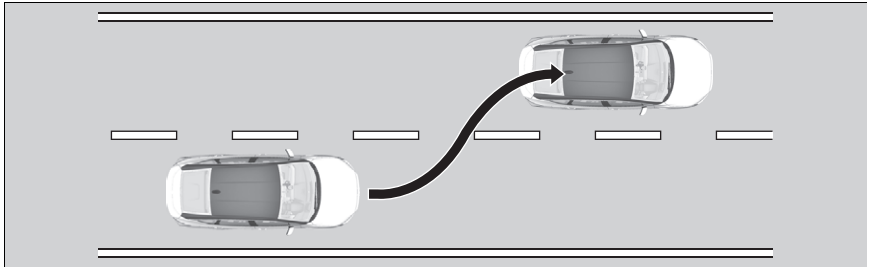
■ブレーキ操作時の LKAS 自動解除機能

減速などでブレーキペダルを踏むとLKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線（黄線）を検知するとLKAS が自動で復帰し、車線維持走行を補助します。

次ページに続く

■車線変更時の一時解除

車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作するとLKASが一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。



方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

■ LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 100km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

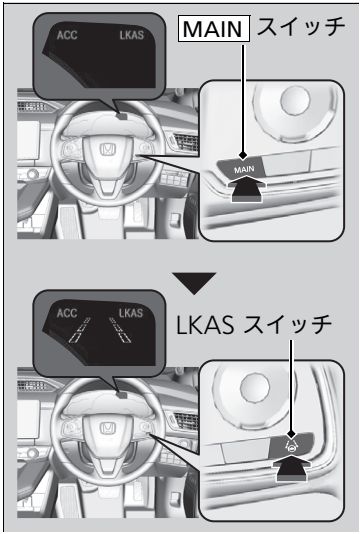
LKAS を作動させるには

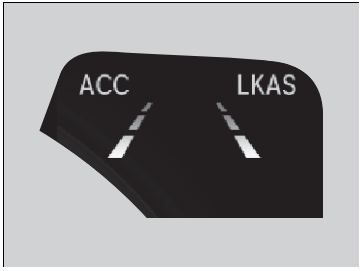
白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

LKAS の条件と制限 P.248

次ページに続く

■システムの作動方法





1. MAIN スイッチを押す。
▶ LKAS システムが ON になり、マルチインフォメーションディスプレイ内に LKAS 表示灯(グリーン)が、ヘッドアップディスプレイ内には LKAS 表示灯(白色)が点灯します。

2. LKAS スイッチを押す。
▶ LKAS システムが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイとヘッドアップディスプレイに車線表示(点線)が点灯します。

3. 車線の中央付近を走行する。
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線(黄線)を検知すると、LKAS が制御を開始します。

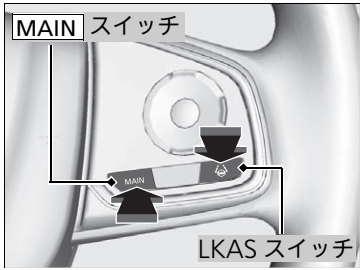
LKAS を作動させるには

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

サスペンションの改造は行わないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。

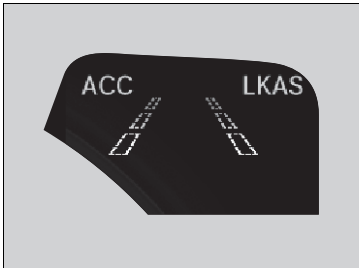
- MAIN スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時にLKAS がON 状態でも、パワーモードをOFF モードにする度にLKASはOFF になります。

解除するには

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に渋滞追従機能付 ACC も解除されます。

次ページに続く



■LKAS の一時解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイとヘッドアップディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。

- ワイパーを連続作動したとき
  ▶ ワイパーを OFF または LO にすると、LKAS は復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
  ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知すると LKAS が自動で復帰します。
- 車速が 60km/h 以下になったとき
  ▶ 車速が 60km/h 以下になると LKAS は自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。
- ワイパースイッチが AUTO のときにワイパーが連続作動した場合には、LKAS は自動解除されます。
  ワイパーの作動が停止、もしくは間欠作動になると、LKAS は復帰します。

LKAS の一時解除

Honda インターナビシステムを使って自動解除ブザーの有り / 無しを設定できます。

別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

次の場合、LKAS が自動解除される場合があります。
- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- 路外逸脱抑制機能が作動したとき
- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

次ページに続く

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 天候（雨、霧、雪など）により、白線（黄線）や歩行者が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 先行車との車間距離が短いとき

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

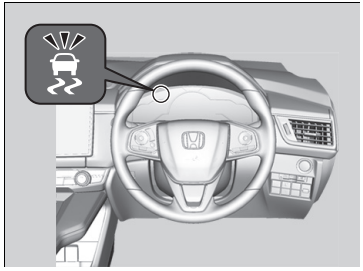
VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.264

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能
滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能
急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

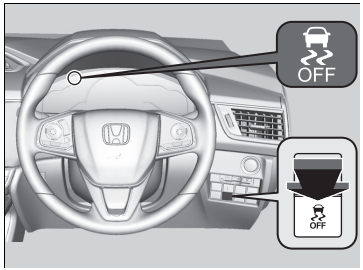
VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、でVSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。
新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードをONモードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■ VSA OFF スイッチ



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなり、VSA OFF 警告灯が点灯します。
再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためモータールームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、4 輪それぞれに軽いブレーキをかけることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とする機能です。

アジャイルハンドリングアシスト

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。
安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

システム作動中に、モータールームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

高電圧バッテリーの特性

高電圧バッテリーは燃料電池が発電した電力や、減速時の回生電力により充電されるため、車外から充電する必要はありません。
しかし、長期間駐車をすると、少しずつ放電します。
バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3 か月に一度、30 分以上起動をしてください。起動によりバッテリーに充電されます。
長期間起動しないと、高電圧バッテリーの充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。
万一高電圧バッテリーが完全に放電し、FC システムを始動できないときは必ず指定の Honda 販売店にご相談ください。
バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

寒冷時の FC システムの特性



寒冷時、始動性や耐久性の向上のためにシステムが作動する場合があります。作動音や駐車中の自動処理などが通常と異なりますが、異常ではありません。

寒冷時、暖機が完了する前に高車速や急加速を伴う運転を行うと出力が制限されます。暖機が完了するまでは周囲の交通状況に気をつけて運転してください。

排気管がふさがれると、パワーシステムが停止する場合があります。特に寒冷時は駐車中のシステム凍結防止処理ができなくなる場合があります。
また、12V バッテリーの端子を外すと、駐車中にシステム凍結防止処理ができないため、FC スタック(燃料電池本体)の劣化が進みますので気をつけてください。

寒冷時は通常よりも水素ガスの消費が早くなる場合があります。

寒冷時のパワーシステム起動や停止、もしくは駐車中のシステム凍結防止処理において、排気管から白煙が出ることがあります。これは水蒸気ですので異常ではありません。

寒冷時の FC システムの特性

⚠注意

寒冷時のパワーシステム停止処理中、もしくは駐車中のシステム凍結防止処理において、水たまりができる場合があります。
そのまま凍ると足を滑らせる可能性があるので注意してください。

次ページに続く

寒冷時、次のようなときは車両後方に立つと水がかかる場合があります。
- パワーシステムを起動するときの READY 表示灯が点灯するまでの待機状態
- 暖機が完了する前にシステムを停止した場合の停止処理中の状態

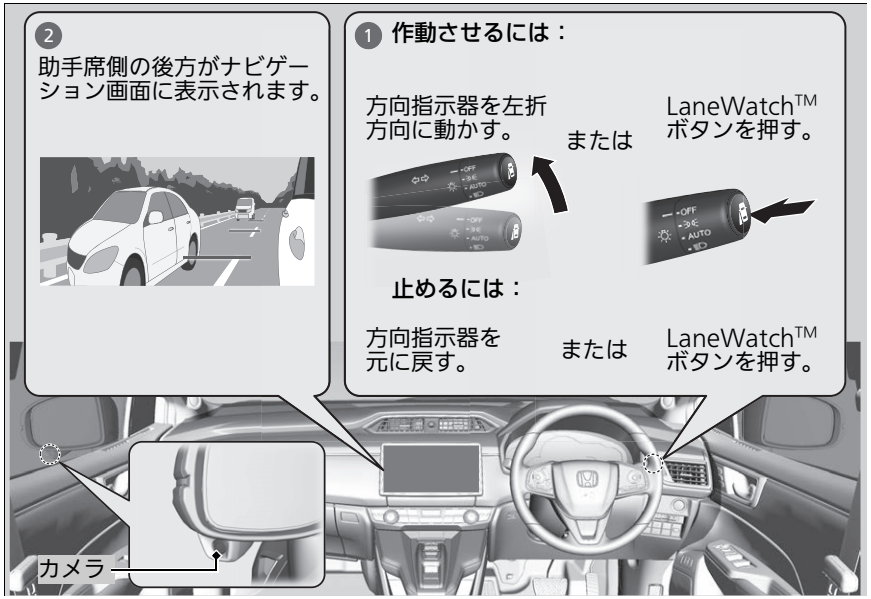
高電圧バッテリーは車内の空気を利用して暖機しています。エアコンを使用していなかったりウィンドーが開いていると、暖機が遅くなります。その結果、出力が制限されたり READY 表示灯が点灯するまでの待機時間が長くなる場合があります。

− 20 ℃の極低温でパワーシステムを起動する場合、起動準備中の作動音が、通常の寒冷時よりも大きくなります。

外部給電機能が正常に動作しない場合があります。

LaneWatch™

LaneWatch™ は、助手席側の後方確認を支援するシステムです。
LaneWatch™ は助手席側のドアミラーに装備されたカメラの映像を表示することで、ドアミラーで見える範囲に加えて、ドアミラーでは見えない死角を含めた広い範囲を一目で確認することができます。
また、ナビゲーション画面に表示するため、前方から大きく視線を外さずに後方を確認することができます。
LaneWatch™ は方向指示器を助手席側に操作したときに連動してナビゲーション画面に表示します。また、常に表示したい場合はLaneWatch™ボタンを押すことで続けて表示することもできます。



次ページに続く

LaneWatch™

⚠警告

LaneWatch™ はあくまでも運転をアシストするための補助システムです。
助手席側の後方を目視確認(あるいはミラー等による確認)を行う等の、十分な確認をせずに走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

使用上の注意：

LaneWatch™は天候、照明(ヘッドライト、太陽光を含む)、周囲の暗闇、カメラ状態および積載荷重の影響を受けることがあります。
LaneWatch™ カメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に表示される映像と実物とは異なります。
シフトポジションがRのときは、LaneWatch™は作動しません。
以下のような場合、LaneWatch™ の映像が適切に表示されない場合があります。

- サスペンションを改造し、車高を変えたとき
- タイヤが指定空気圧に調節されていないとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤを装着しているとき

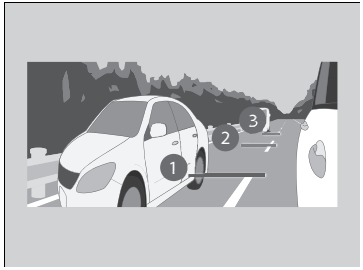
■カスタマイズ設定

ナビゲーション画面を使用して以下の項目をカスタマイズすることができます。

- **助手席ウインカー連動表示：**方向指示器を操作時に、LaneWatch™を起動するか選択できます。
- **ウインカー切後の継続表示：**方向指示器を戻した後に、2秒間画面表示を継続するか選択できます。
- **目安ガイド線の表示：**距離の目安となるガイド線をモニターに表示するか選択できます。
- **画面調整：**画面設定を調整できます。

▶LaneWatch™ 画面を表示している時に「MENU」を押すと表示されます。

■距離の目安



画面に表示される3本のガイド線は、自車から車両やものがどのくらい離れているかの目安になります。
ガイド線 1(赤)に近ければ近いほど自車に近いことを示しています。

LaneWatch™

使用上の注意：

- カメラは助手席側のドアミラーに装備されています。常にカメラの周辺をきれいにしてください。カメラのレンズが汚れや湿気に覆われているときは、柔らかい湿った布を使用して掃除し、常にきれいな状態にしてください。
- ラベルやシールでカメラレンズをふさがないでください。
- カメラのレンズに触れないでください。

距離の目安

ガイド線1(赤)の周辺は、リヤバンパー付近に非常に近い位置です。車線変更の前には目視で安全を確認してください。
ガイド線 1、2 と 3 の間の距離は、道路状況や車両の荷重に応じて変化します。例えば、自車後部により荷重がかかっているとき、画面上のガイド線は実際の距離よりも近くに見えることがあります。

下記のような場合、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

- 助手席側のドアミラー、またはその周囲に強い衝撃を受けてカメラの角度が変わった場合。
- LaneWatch™ の映像が画面に全く表示されない場合。

ブレーキシステム

■電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。

急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

▶パーキングブレーキが作動すると、ブレーキ警告灯(レッド)が点灯します。



■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。

▶パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

次ページに続く

»ブレーキシステム

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、モータールームからモーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

»電子制御パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり、解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

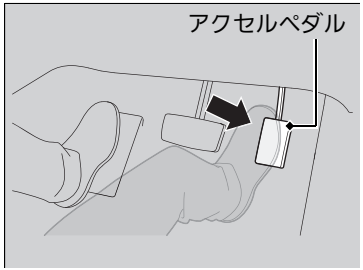
12V バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。
➡ ジャンプスタート P.331

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

10 分以上渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車していると、自動でパーキングブレーキがかかります。

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

▶パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- パワーシステムが起動しているとき
- シフトポジションが P 、 N 以外のとき

≫電子制御パーキングブレーキ

渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシートベルトを外したとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーモードを OFF モードにしたとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

- パワーシステム警告灯
- トランスミッション警告灯
- ブレーキ警告灯(レッド)
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

■オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには

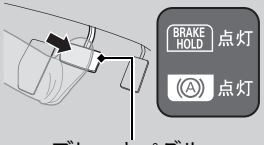


オートマチックブレーキホールドスイッチ

シートベルトを着用し、パワーシステムを起動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

- オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能がONになります。

■ブレーキを保持させるには

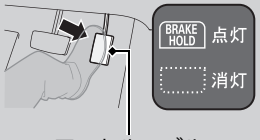


ブレーキペダル

シフトポジションが P R 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。
- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

■車両を発進させるには



アクセルペダル

シフトポジションが P N 以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

次ページに続く

▶オートマチックブレーキホールド

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを P にしてパーキングブレーキをかけてください。

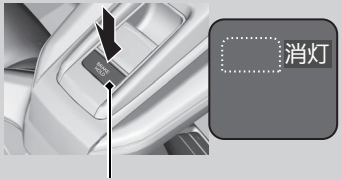
■オートマチックブレーキホールドが自動的に解除されるとき

- シフトポジションが P もしくは R で、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

■機能を OFF させるには



オートマチックブレーキホールドスイッチ

機能が ON のときにオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯中にOFFにしたいときは、ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

オートマチックブレーキホールド

⚠警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

システムが作動していても通常と同じ手順でパワーシステムの停止が行えます。

駐停車操作 P.276

パワーシステムを停止すると、システムは自動的に OFF になります。

自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

電子制御ブレーキアシスト P.265

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

ABS(アンチロックブレーキシステム) P.264

フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

指定のHonda販売店で点検を受けてください。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

≫ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABSが正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためモータールームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

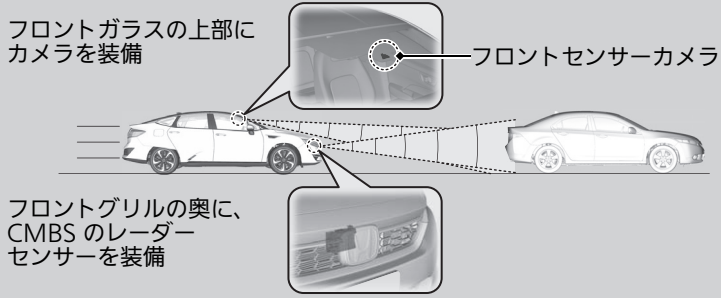
ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

■システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両や歩行者の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両および歩行者に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車および歩行者に対しては、自車が約 80km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
さらに、約 30 ～ 80km/h で走行中に対向車に対して CMBS が作動する状況では、ステアリング振動による警告も作動します。
CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、自動ブレーキは解除されます。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

⚠警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

次ページに続く

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者や路面状況を検知できず、CMBS が作動しない場合があります。

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シールなどでカメラ前方が覆われているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両や歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■前方の車両や対向車、歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 自車の前方に対向車や歩行者が飛び出したとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団になっているとき
- 暗がりで前方の車両が無灯火のとき

■その他、作動できない事例

- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- 前方の車両や対向車、歩行者が自車の正面にいないとき
- 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- 交差点などで自車の前方に車両が飛び出したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

次ページに続く

■CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
- マルチインフォメーションディスプレイの警告やヘッドアップワーニングでの視覚への警告表示や警告ブザーに加え、ステアリング振動による警告が発生します



CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。

➡ 別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書

遠めは標準に対して遠くで警告します。近めは標準に対して近くで警告します。

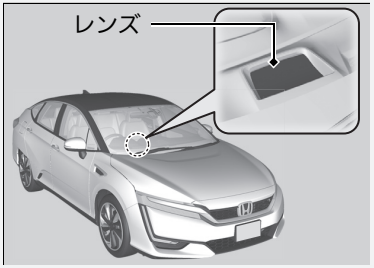
■ステアリング振動による警告について

対向車に対して衝突のおそれがあるときは、視覚への警告に加え、ハンドルに短時間の弱い振動を発生させて運転者に注意を喚起します。

▶ ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

≫衝突軽減ブレーキ(CMBS)

ヘッドアップワーニングのレンズは、ダッシュボード前方にあります。
レンズを物でふさいだり、液体をこぼしたりしないでください。

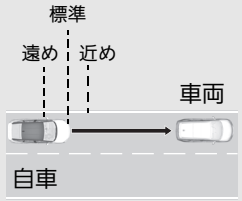


EPS 警告灯が点灯しているときは、ステアリング振動による警告は作動しません。

➡ EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯 P.75

■ CMBS 作動の流れ

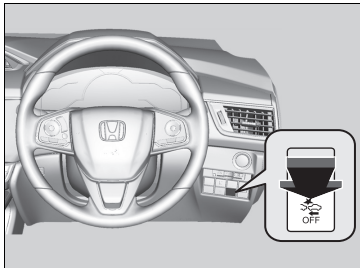
CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ステアリング	ブレーキ
第 1 段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	ヘッドアップワーニングと警告表示が2回点滅する さらに接近するとヘッドアップワーニング、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**	• 対向車の場合、ハンドルに短時間の弱い振動を発生	—
第 2 段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	ヘッドアップワーニング、警告表示およびブザーによる警報を行う	—	軽いブレーキ
第 3 段階		回避が困難な状況			強いブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

次ページに続く

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFF スイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムの ON と OFF を切り換えます。

CMBS が OFF に切り換わったとき CMBS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CMBS OFF」とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーシステムを停止した場合でも、再度パワーシステムを起動すると自動的に ON になります。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- カメラの温度が高温になっているとき
- フロントグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

パワーモードを ON モードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにすると、CMBS が作動しない場合があります。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

■衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

- 左折、または右折している前方車両がいるとき
- 追い越し時に前方の車両や交差点などで対向車に接近して走行するとき
- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき
- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントグリルは常にきれいにしておく
- フロントグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントグリルにステッカーを貼らない
- フロントグリルを交換しない

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントセンサーカメラ** P.200

次の場合は、指定の Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーおよびカメラに衝撃が加わったとき
- フロントグリルやカメラ周辺の修理を行うとき

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

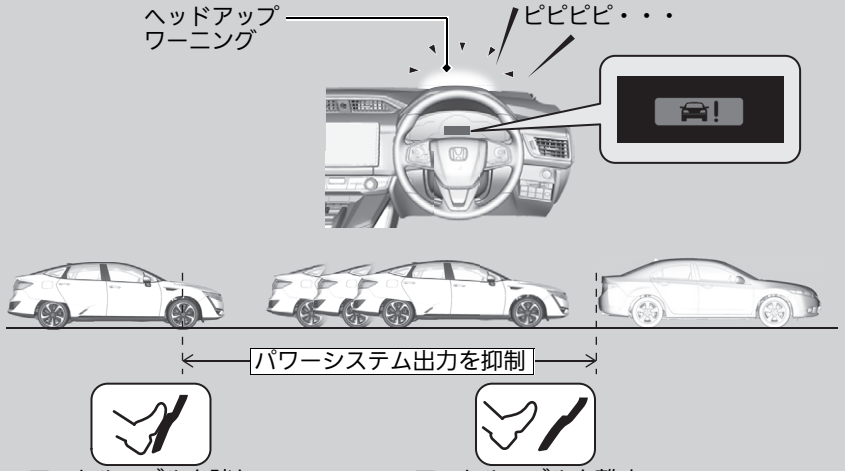
次ページに続く

■誤発進抑制機能

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止して衝突時の衝撃を軽減する機能です。
なお、急な坂道やシフトポジションが P 、 R 、 N のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー(ピピピ)がなり、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップワーニングの警告が点滅します。



≫誤発進抑制機能

⚠警告

あらゆる状況でアクセルペダルの踏み過ぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

運転者が常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき
- CMBS を OFF したとき

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. シフトポジションを P にする。
4. パワーシステムを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。

駐停車操作

⚠注意

駐車時はパワーシステムをオフにする。
万一、シフトポジションが P N 以外の場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。駆動系の破損の原因となるため、以下のことをしないでください。

- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏む
- 車が完全に止まらないうちに P に入れる

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。
無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車する

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リアカメラシステム

リアカメラシステムの取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

指定燃料について

水素充てん口は、助手席側後方にあります。

指定燃料：圧縮水素
水素充てん圧力：70MPa（15 ℃時）最大 82MPa
水素充てん量※：約 5kg（70MPa 時）
タンク容量：141.3 リットル
※： SAE 規格（J2601）の標準条件に基づいた水素充てん圧力 82MPa ステーションで充てんした場合の Honda 測定値。

水素タンクを満充てんするには、充てん圧力 82MPa の水素ステーションで充てんする必要があります。70MPa の水素ステーションでも充てんは可能ですが、充てん圧力が低いため、満充てんになりません。

水素ガスの充てん

⚠警告

水素ガスを充てんするときは、火気厳禁です。タバコなどの火気を近づけないでください。水素ガスは引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。
パワーシステムを停止して、燃料電池を必ず停止してください。

アドバイス

不適切な水素ガスを使用すると、燃料電池に悪影響を与えます。必ず指定された水素ステーションで補給してください。

水素ステーションの場所については、Honda インターナビシステムで探すことができます。

➡ **別冊の Honda インターナビシステム取扱説明書**

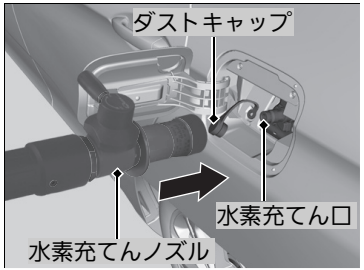
水素は非常に軽く、無色無臭で、引火しやすい性質があります。また、燃えているときの炎は見えにくい特徴があります。

水素ガスの充てんのしかた

水素ガスの充てんは、水素ステーションの係員におまかせください。



1. 助手席側に水素ステーションの充てん機がくるように車を停める。
2. シフトポジションを P にする。
3. パワーモードを OFF モードにする。
4. 運転席ドアにあるフューエルリッドオープナーを押してリッドを開ける。



5. 水素充てん口のダストキャップを外す。
6. 水素ガスの充てんを水素ステーションの係員に依頼する。
7. ダストキャップはゴミが入らないよう必ず締める。

➡ **ダストキャップとフューエルリッドの閉めかた** P.281

≫水素ガスの充てんのしかた

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- パワーシステムは常に止める
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルリッドを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

パワーモードが OFF モードでシフトポジションが P のときのみフューエルリッドが開きます。

➡ **フューエルリッドが解錠できないとき** P.352

■ダストキャップとフューエルリッドの閉めかた

1. 水素充てん口にダストキャップを取り付ける。
2. フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉める。

水素ガスの充てんのしかた

アドバイス

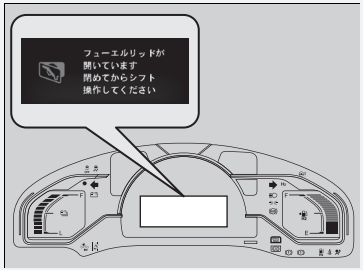
充てん時以外、充てん口は不用意に触れないでください。故障の原因になる可能性があります。

充てん量は、周囲の温度により変わります。

注入するときに、「ヒューッ」という注入音がしますが、異常ではありません。

ダストキャップとフューエルリッドの閉めかた

フューエルリッドを閉めないと、 P からシフトポジションの変更はできません。
またマルチインフォメーションディスプレイに「フューエルリッドが開いています 閉めてからシフト操作してください」と表示されます。



➔ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.86

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に
- 点検整備について 283
- メンテナンスを安全に行うために 284
- メンテナンスに関する注意事項..... 284

イオン交換器の交換時期メッセージ
- イオン交換器の交換時期メッセージの表示..... 285

モータールーム内のメンテナンス
- モータールーム内のメンテナンス項目...287
- ボンネットを開ける..... 288
- ウィンドウォッシャー液の補給..... 289

電球の交換..... 290

ワイパーブレードラバーの点検と整備 .. 293

タイヤの点検と整備
- タイヤの点検 296
- タイヤとホイールの交換 298
- タイヤのローテーション 299
- 冬期のタイヤ 300

Honda スマートキー
- Honda スマートキーの取り扱いと電池交換.....301

エアコンのお手入れ
- エアクリーンフィルター 303

清掃
- 車内の清掃 305
- 車外の清掃 307

アクセサリーと改造 310
- アクセサリー 310
- 改造や部品交換について 310

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・水素充てん時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

6 か月、12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は指定の Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- モータールーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

■車についての安全事項

- モータールーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
  ▶ 燃料電池やモーターなどの温度が高い状態で停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- モータールーム内を点検するときは、12V バッテリーの ⊖ 端子を外してから行なってください。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、モータールーム内の部品を十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、パワーシステムを起動させないでください。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

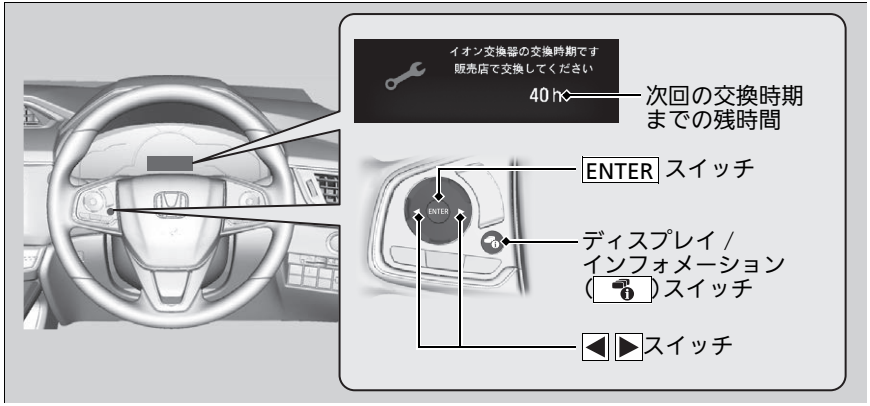
メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

イオン交換器の交換時期メッセージ

メンテナンスが必要な場合は、パワーモードをONモードにするたびにイオン交換器の交換時期メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたり、メーター内の警告灯が点灯します。メッセージが表示されたり、警告音が鳴ったり、警告灯が点灯したときは、指定の Honda 販売店で交換してください。

イオン交換器の交換時期メッセージの表示

1. ディスプレイ / インフォメーション( )スイッチを押す。
2. ◀ ▶スイッチを押してⓘアイコンを選択し、 ENTER スイッチを押す。
3. ◀ ▶を押してイオン交換器の交換時期メッセージを表示させる。



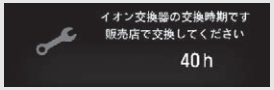
イオン交換器の交換時期メッセージの表示

車両の運転時間をもとに、次回の交換時期までの残時間を計算しています。

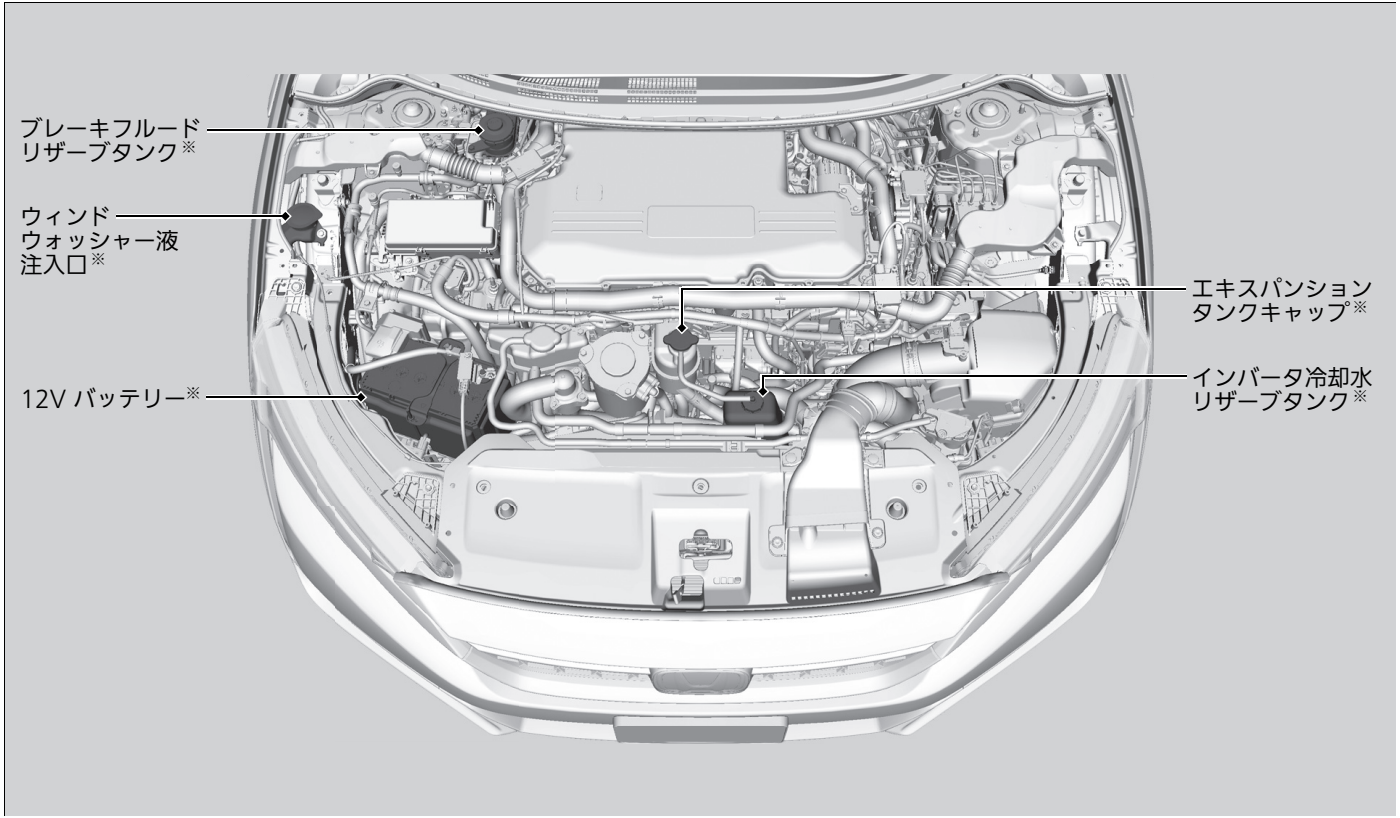
イオン交換器機能の状態によっては、表示された残時間より短くなる場合があります。

次ページに続く

■マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ情報

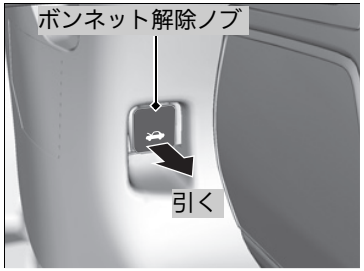
警告灯	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ	説明	情報
—		交換時期までの時間が 40 時間以下になったとき	交換時期が近くなっています。
POWER SYSTEM パワーモードをON モードにすると常時点灯する	 交互に表示され、警告音が鳴る	交換時期を過ぎているとき	交換時期を過ぎています。指定のHonda 販売店で交換してください。

モータールーム内のメンテナンス項目

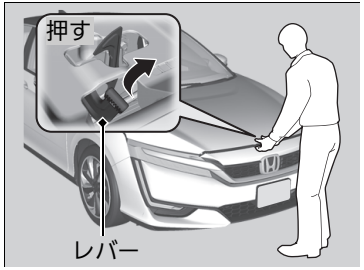


※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

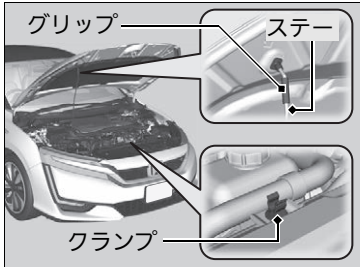
ボンネットを開ける



1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cm の高さから手を離します。

▶▶ボンネットを開ける

⚠注意

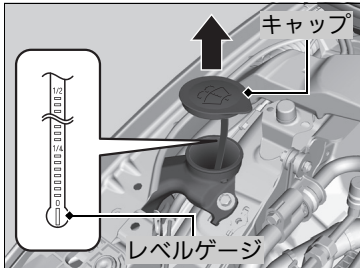
ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

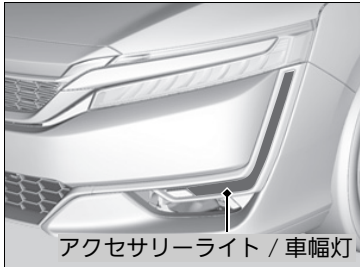
ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライトは LED を使用しています。点検、交換は指定の Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は指定の Honda 販売店に依頼してください。

アクセサリーライト / 車幅灯電球

アクセサリーライト / 車幅灯は LED を使用しています。点検、交換は指定の Honda 販売店に依頼してください。



側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は指定の Honda 販売店に依頼してください。

尾灯 / 後部側方灯、制動灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

尾灯 / 後部側方灯、制動灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は指定の Honda 販売店に依頼してください。

尾灯、後退灯電球

尾灯、後退灯はLED を使用しています。点検、交換は指定のHonda 販売店に依頼してください。

番号灯電球

番号灯はLED を使用しています。点検、交換は指定のHonda 販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

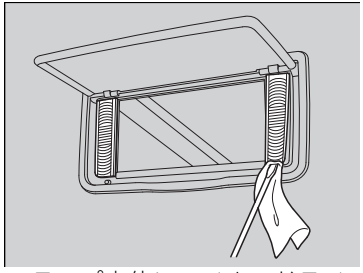
ハイマウントストップランプは LED を使用しています。点検、交換は指定の Honda 販売店に依頼してください。

その他の電球

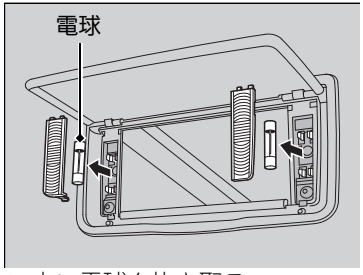
■バニティミラー照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯：14V−1.4W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

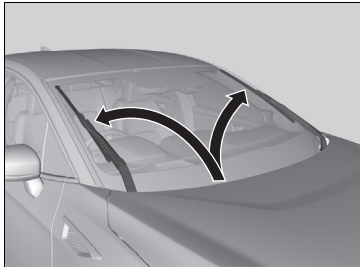


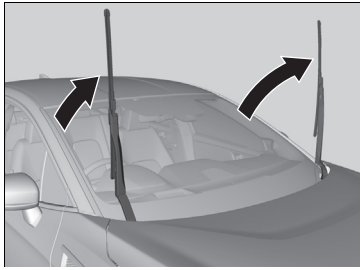
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

ワイパーブレードラバーの交換





1. パワーモードを OFF モードにする。
2. ワイパースイッチのレバーを**MIST**の位置に押し上げたまま、パワーモードを ON モードにし、すぐにパワーモードを OFF モードにする。
   ▶両方のワイパーアームが、ワイパーメンテナンスポジションにセットされます。
3. 両方のワイパーアームを起こす。

»ワイパーブレードラバーの交換

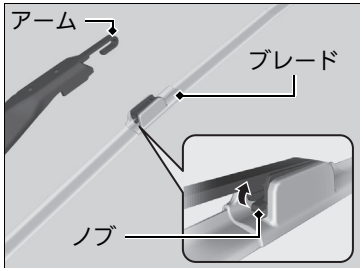
アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

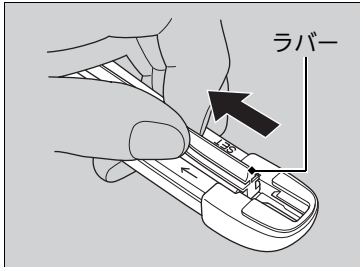
ワイパーアームを起こすときに力の入れかたによってはワイパーアームが動く場合があります。ワイパーアームを戻したときに位置がずれているときは、ワイパーを一度作動させると初期位置に戻ります。

➔ **ワイパー/ ウォッシャー** P.142

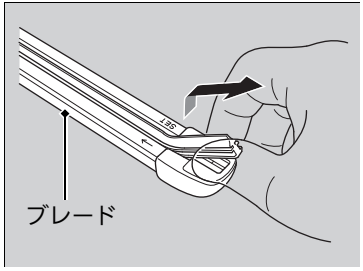
次ページに続く



4. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。



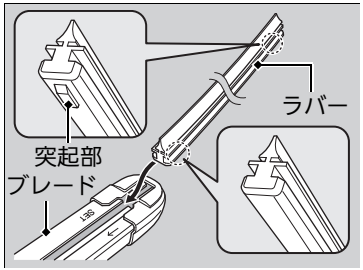
5. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



»ワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



6. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ブレードをワイパーアームに取り付け、ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込み、確実に固定します。
7. 両方のワイパーアームを戻す。
8. パワーモードを ON モードにする。
9. ワイパースイッチのレバーを**MIST**の位置に押し上げて、両方のワイパーアームを通常の位置に戻す。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

メンテナンス

タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。
取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

加飾ホイールカバーが装備されています。
加飾ホイールカバーまたはホイールが損傷することを防ぐため、以下のことをお守りください。

- ホイールから加飾ホイールカバーを取り外さない。
- 加飾ホイールカバーを持って、ホイールを持ち上げたり、持ち運ばない。

タイヤの交換または加飾ホイールカバーの取り外しは、指定の Honda 販売店にご相談ください。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

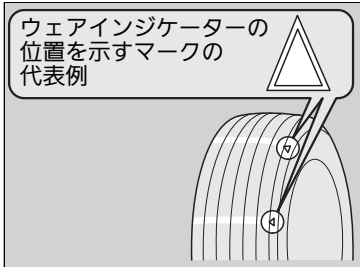
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➡ **仕様** P.356

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての４つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

タイヤとホイールの交換

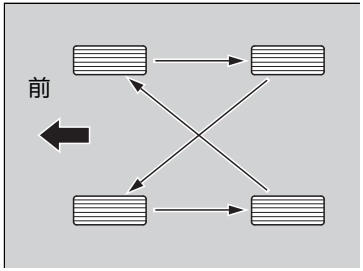
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

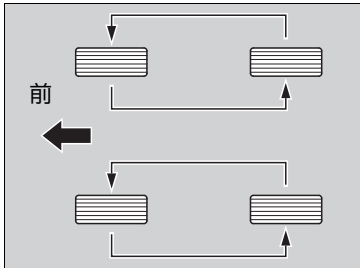
5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

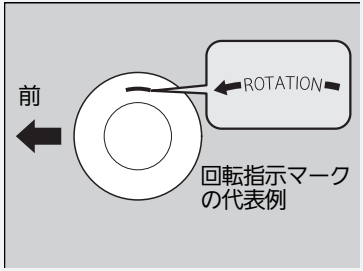
■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク
108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：
- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：
- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

≫冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

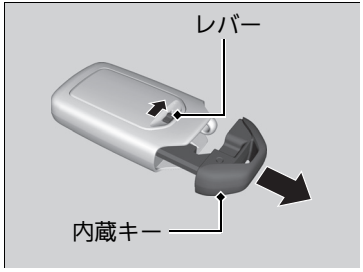
Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

■Honda スマートキー



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。

取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、指定の Honda 販売店へご連絡ください。

電池交換のしかた

⚠警告

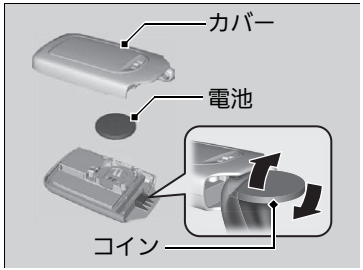
ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、指定の Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

次ページに続く



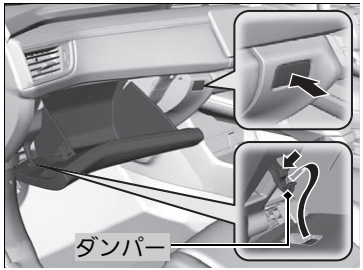
2. カバーを外す。
▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。
3. ⊕と⊖を間違えないよう、電池を交換する。

エアクリーンフィルター

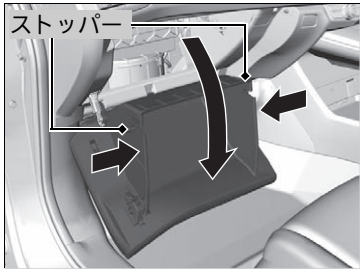
■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換



1. グローブボックスを開ける。
2. ダンパーを外す。



3. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

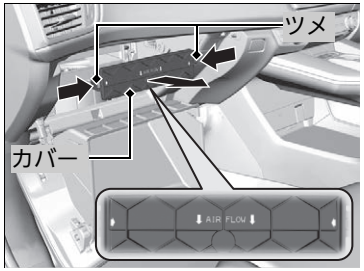
エアクリーンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

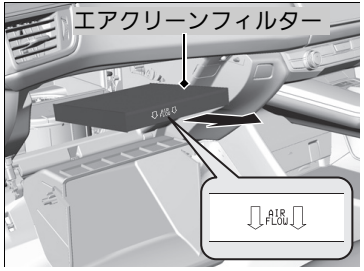
エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。

次ページに続く



4. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。



5. エアクリーンフィルターを引き出す。

6. 新品と交換する。

▶「AIR　FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

■本革のお手入れ

塵やほこりを掃除機や乾いた布で取り除いてください。
ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布を固く絞り、洗剤分をきれいに拭き取ります。乾いた布で水分を拭き取り、風通しをよくして日陰で乾燥させます。濃色のデニムなど、衣類の染料が本革に移ってしまうことがあります。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

車内の清掃

室内に水をかけないでください。
室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、指定の Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

次ページに続く

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

ガラスのお手入れ

フロントガラスやリヤガラスは、ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されています。
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

フロントセンサーカメラのカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。
フロントセンサーカメラ P.200

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。
以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- 自動洗車機のホイール専用ブラシを使わない
- ワイパースイッチを OFF にする

■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
  ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- モータールームには水をかけない
- 水素充てん口、給電口、換気ダクトに直接水をかけない

車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、モータールームに水をかけないでください。
故障の原因になります。



次ページに続く

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

» ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

» バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、指定の Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

» ガラスのお手入れ

ワイパーアームを起こすときに力の入れかたによってはワイパーアームが動く場合があります。ワイパーアームを戻したときに位置がずれているときは、ワイパーを一度作動させると初期位置に戻ります。

➔ **ワイパー/ ウォッシャー** P.142

■アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。
洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換は、指定の Honda 販売店にご相談ください。

ホイールから加飾ホイールカバーの取り外しは行わないでください。
加飾ホイールカバーまたはホイールが損傷するおそれがあります。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

≫改造や部品交換について

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず指定の Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

改造や部品交換について

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。



お求め、装着に際しては、指定の Honda 販売店にご相談ください。

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。



発炎筒 313
パンクしたとき 314
ジャッキポイント 326
パワーシステムが起動しない
パワーシステムの確認 327
Honda スマートキーの電池が切れたとき 329
緊急時のパワーシステム停止方法 330
ジャンプスタート 331
オーバーヒート 333
水素ガスが漏れているとき 335
警告灯の点灯 / 点滅 337
ヒューズ
ヒューズの設置場所 342
ヒューズの点検と交換 350
けん引 351
フューエルリッドが解錠できないとき 352
トランクが開かないとき 353
給電リッドが解錠できないとき 354

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➔ **発炎筒** P.2

≫発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

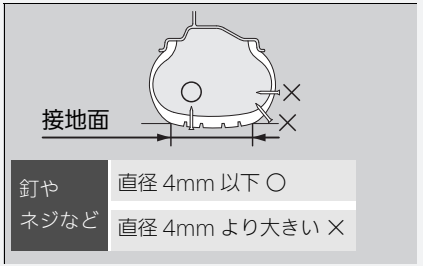
スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、車両をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. シフトポジションを P にする。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

▶▶パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。指定の Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

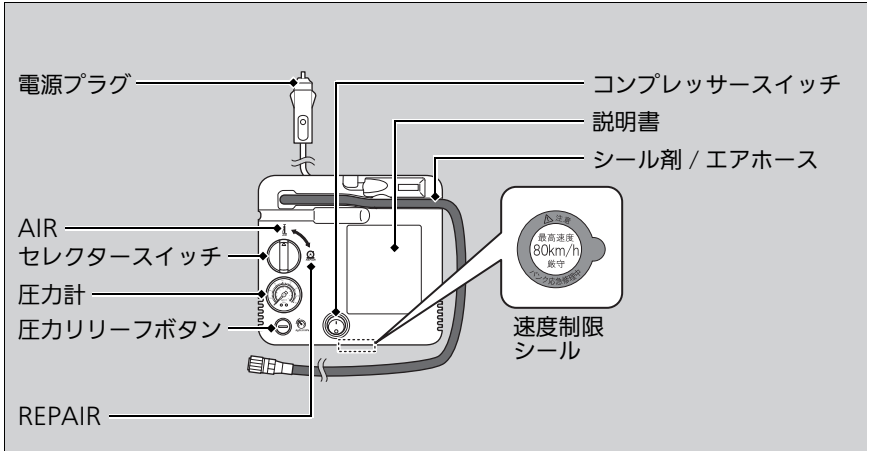
- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき



- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

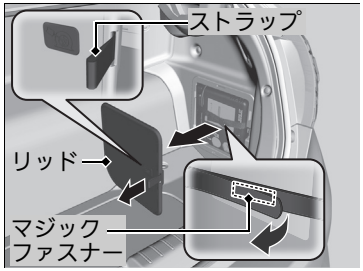
■タイヤ応急修理の準備



タイヤ応急修理の準備

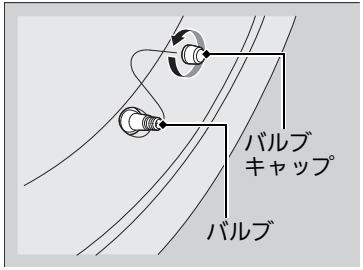
応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

次ページに続く

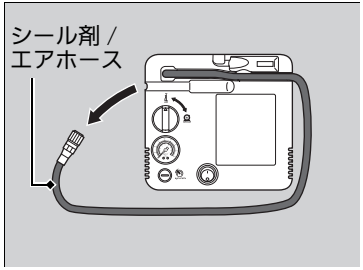


1. ストラップを引いてトランク右側のリッドを開ける。
2. マジックファスナーを外し、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。
▶ キットの側面を立てて置かないでください。

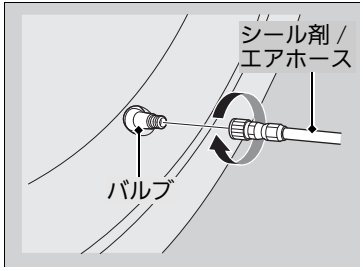
■応急修理剤とエアの注入



1. バルブからバルブキャップを取り外す。



2. シール剤 / エアホースを応急修理キットから取り外す。



3. タイヤのバルブにシール剤 / エアホースをきつく締め付ける。

次ページに続く

▨応急修理剤とエアの注入

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合

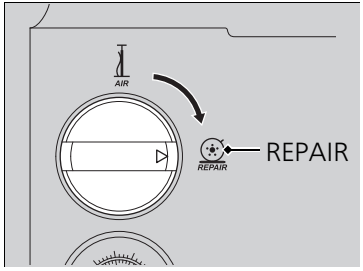
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

外気温が氷点下以下のときは応急修理剤は容易に流れないかもしれません。使用前に約5分間暖めてください。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。





4. コンプレッサーの電源コードのパワープラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

5. パワーシステムを起動する。
▶応急修理剤 / エアを注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。

6. セレクタースイッチを「REPAIR」にする。

応急修理剤とエアの注入

⚠警告

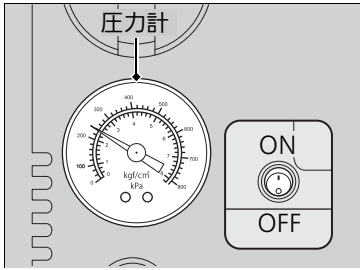
車庫、倉庫、トンネル内などや換気の悪い場所では使用しないでください。
換気の悪い場所は、酸素不足の危険があります。

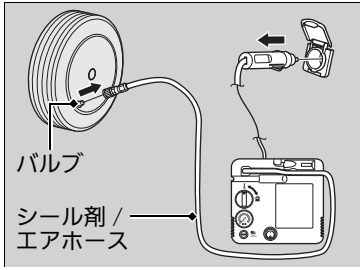
アドバイス

15分以上コンプレッサーを使用しないでください。
コンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

アクセサリーソケットはフロントコンソールとセンターコンソールボックス後部にあります。

アクセサリーソケット P.164





7. コンプレッサーのスイッチを ON にする。
▶ コンプレッサーはタイヤに応急修理剤とエアを注入し始めます。
▶ 応急修理剤の注入が完了すると、エアのみ注入されます。
8. 設定空気圧になるまで高め、コンプレッサーのスイッチを OFF にする。
9. コンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリーソケットから外す。
10. タイヤバルブからシール剤 / エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
11. 圧力リリーフボタンを押して、圧力計が 0 kPa になるまでエアを抜く。

応急修理剤とエアの注入

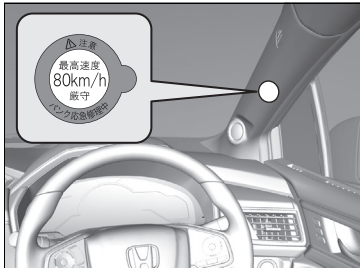
応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。
正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

10 分以内に設定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。
指定の Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については指定の Honda 販売店にお尋ねください。

次ページに続く

■点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
   ▶法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10 分または 5km 走行したあと安全な場所に車を停める。
4. タイヤのバルブにシール剤 / エアホースをきつく締め付ける。

≫点検走行

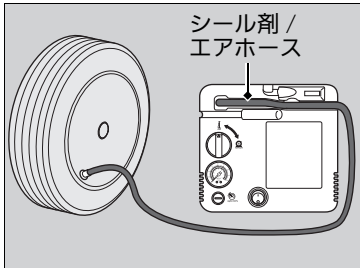
⚠警告

車庫、倉庫、トンネル内などや換気の悪い場所では使用しないでください。
換気の悪い場所は、酸素不足の危険があります。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。



5. セレクタースイッチを「AIR」にする。
▶ コンプレッサーのスイッチを ON にしないでください。

6. コンプレッサーに付属の圧力計で空気圧を測定する。

7. 空気圧が 130 kPa 未満の場合：
応急修理剤では修理はできません。
運転を中止して指定のHonda販売店またはロードサービスに連絡してください。

- 空気圧が 250 kPa の場合：
  応急修理は完了です。
- 空気圧が130 kPa以上、250 kPa以下の場合：
  コンプレッサーを使って設定空気圧まで高める。
  指定の Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 6 までを繰り返す。

▶ 高速道路では80km/h以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

点検走行

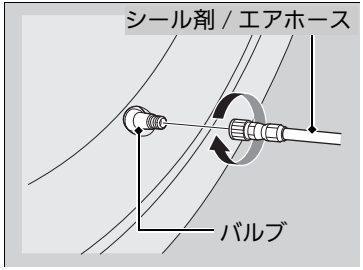
走行前に、コンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

次ページに続く

8. タイヤバルブからシール剤 / エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
9. 圧力リリーフボタンを押して、圧力計が 0 kPa になるまでエアを抜く。
10. キットを車両に戻す。

■タイヤ空気圧の補充

装備されているコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



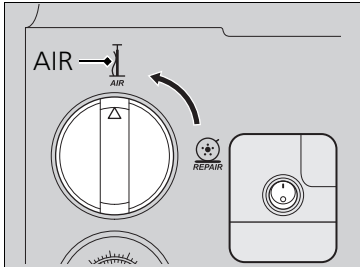
1. コンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
▶ キットの側面を立てて置かないでください。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. コンプレッサーのシール剤 / エアホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。

タイヤ空気圧の補充

コンプレッサーのスイッチをONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

次ページに続く





5. コンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➡ **アクセサリーソケット** P.164

6. パワーシステムを起動する。
▶ エアを注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。

7. セレクタースイッチを「AIR」にする。

8. コンプレッサーのスイッチをONにする。
▶ コンプレッサーを起動すると、エアがタイヤに注入されます。

9. 設定空気圧になるまでエアの補充をする。

タイヤ空気圧の補充

⚠警告

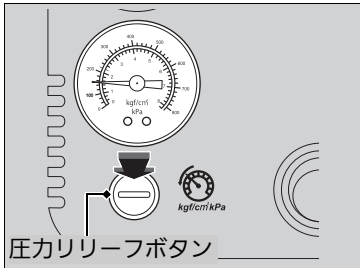
車庫、倉庫、トンネル内などや換気の悪い場所では使用しないでください。
換気の悪い場所は、酸素不足の危険があります。

アドバイス

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- コンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、コンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、コンプレッサーが冷えてからお使いください。

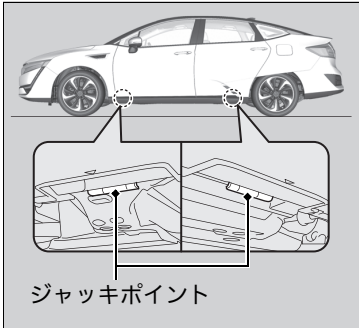
タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。



10. コンプレッサーのスイッチをOFFにする。
▶ コンプレッサーの圧力計を確認してください。
▶ もし空気圧が高ければ、圧力リリーフボタンを押して減圧します。
11. コンプレッサーの電源コードのパワープラグを、アクセサリーソケットから外す。
12. タイヤバルブからシール剤 / エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
13. 圧力リリーフボタンを押して圧力計が 0 kPa になるまで空気を抜く。
14. キットを車両に戻す。

ジャッキをかける位置

ジャッキポイントは下記の通りです。
タイヤ交換をする場合は指定の Honda 販売店にご相談ください。



パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯せず、「走行可能です」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

パワーシステムの確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

ジャンプスタートの方法 P.331

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯か警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	「キーが見つかりません」のメッセージが表示されているとき	パワーシステム起動の作動範囲を確認します。 **POWER スイッチ** P.136
	「外気温が低いために起動できません」と表示される	**マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.82
	「キーでスイッチに触れて下さい」と表示される ▶Honda スマートキーの作動範囲を確認します。 **POWER スイッチの作動範囲** P.136	**Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.329
	パワーシステム警告灯が点灯する	指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
	トランスミッション警告灯が点滅し、「トランスミッション点検：停車時はパーキングブレーキを確実にかけて下さい」のメッセージが表示されているとき	応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 **トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した** P.341
室内灯の明るさを確認する	室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合	指定のHonda 販売店で12Vバッテリーの点検を受けてください。
	室内灯などの明るさに問題がない場合	全てのヒューズを確認するか、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。 **ヒューズの点検と交換** P.350

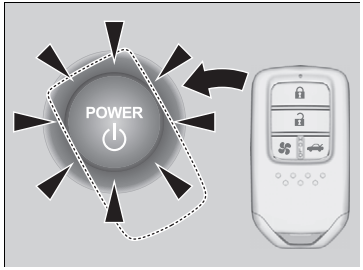
次ページに続く

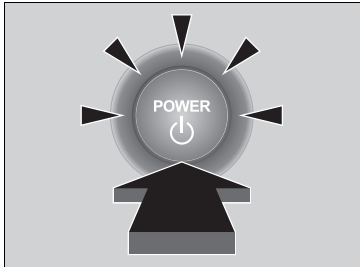
項目	状況	対処のしかた
セキュリティアラームシステム作動表示灯を確認する	セキュリティアラームシステム作動表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	**セキュリティアラームシステム** P.131 **セキュリティアラームシステム作動表示灯** P.80

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されるか、 POWER スイッチが点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。
以下の手順でパワーシステムを起動してください。





1. POWER を押す。
▶「ポンポンポンポンポン」とブザーが鳴り、スイッチが約 30 秒間点滅します。
2. スイッチが点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶「ピッ」とブザーが鳴り、スイッチが約 10 秒間点灯します。
3. スイッチが点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、 POWER を押す。
▶ READY 表示灯が点灯します。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER スイッチは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。
パワーシステムを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください：

- POWER を約 2 秒以上押す
- POWER を連続して 3 回押す

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
車が停止すると、自動的にシフトポジションが P になり、パワーモードが OFF モードになります。

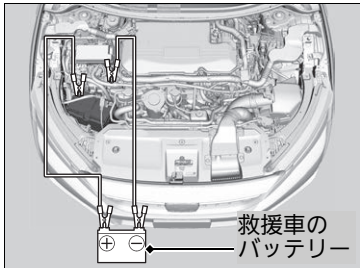
緊急時のパワーシステム停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に POWER を押さないでください。
走行中に POWER を押すとブザーが鳴ります。

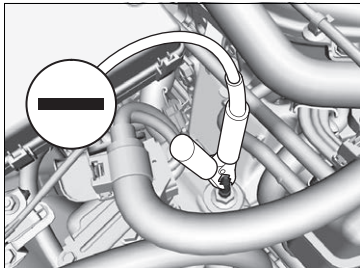
ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。



1. 自車のパワーモードを OFF モード、救援車のエンジンスイッチを 0 にする。
2. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。



4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のパワーシステムのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。

次ページに続く

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎を12Vバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結した 12V バッテリーでジャンプスタートすると、12V バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの性能が低下します。
パワーシステム起動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをパワーシステムのスタッドボルト以外に接続しないでください。
バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のパワーシステムのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリング(走行待機)状態にしてください。
▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。
▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、指定の Honda 販売店で点検してください。
▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

指定の Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

▶▶システム起動後の作業

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、指定の Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- パワーシステム警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム点検　安全な場所に停車してただちに販売店に連絡してください」が表示される
- モータールームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
▶パーキングスイッチを押し、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. **蒸気が出ていない場合：**パワーシステムを停止させ、ボンネットを開ける。
蒸気が出ている場合：パワーシステムを停止させ、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

»オーバーヒートしたときの対処方法

⚠警告

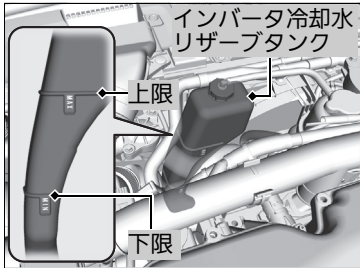
蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

パワーシステムが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

冷却水がもれている場合は、指定の Honda 販売店に修理を依頼してください。

次ページに続く

■次にすること



冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。

▶ 冷却水量が不足していた場合は、指定の Honda 販売店へご連絡ください。

■最後にすること

- パワーシステムを起動しマルチインフォメーションディスプレイの「パワーシステム点検　安全な場所に停車してただちに販売店に連絡してください」の表示が消えている場合は、運転を再開します。表示が残っているときは、指定の Honda 販売店にご連絡ください。

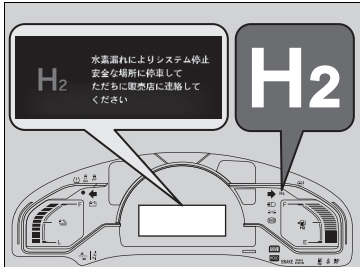
⚠注意

インバータ冷却水リザーブタンクに水や他の種類の冷却水を入れない。

パワーシステムの故障の原因になるので絶対に入れないでください。

水素ガスが漏れたときの対処方法

■水素ガス漏れや異常に気づいたとき



水素漏れ警告灯が点灯したときは、水素ガスが漏れています。

水素漏れが発生した場合には警告音と共に警告灯が点灯し、異常をお知らせします。マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従い、指定の Honda 販売店へご連絡ください。

➡ **水素漏れ警告灯** P.71

警告灯が点灯していなくても水素ガスが漏れる音など、異常に気付いたときは直ちに屋外の安全な風通しの良い場所に駐車し、パワーモードを OFF モードにして 指定の Honda 販売店へご連絡ください。

水素ガスが漏れたときの対処方法

⚠警告

水素ガス漏れが発生した場合には警告音と共に警告灯が点灯し、異常をお知らせします。水素漏れ警告灯が点灯しているときは、火気厳禁です。

漏れた水素ガスは、車両の外へ拡散し排出されます。
水素ガスは引火しやすいため、水素ガス漏れのおそれがある場合は車両にタバコ、発炎筒などの火気を近づけないように表示もしくは運転者や同乗者が監視してください。
運転者や同乗者が監視できない場合は、付近の人に救援を求めて監視人をつけてください。
漏れた水素ガスに引火して、車両火災になるおそれがあり危険です。

警告灯の点灯に気付いたときはただちに屋外の風通しの良い安全な場所に停車し、パワーモードを OFF モードにし、ただちに指定の Honda 販売店にご連絡ください。

次ページに続く

水素ガスが漏れたときの対処方法

⚠警告

車両火災が発生したときは、火災により水素タンク内の圧力が高くなり、圧力を下げるためにタンク内の水素ガスを車両斜め下後方へ排出します。この水素ガスに着火し火炎が噴出するおそれがあるため、車両後方からの消火は避けてください。

アドバイス

水素は非常に軽く、無色無臭で、引火しやすい性質があります。また、燃えているときの炎は見えにくい特徴があります。

車両火災が発生したときは、漏れた水素ガスに引火するおそれがあります。車から離れ、水素タンクを搭載した車両であることを消防署に連絡してください。
消火を行う場合は、大量の水、粉末(ABC)消火器または炭酸ガス消火器を使用してください。少量の水での消火は、完全に消火できない可能性がありますので、絶対に行わないでください。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由
12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること
電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに指定の Honda 販売店に修理を依頼してください。

» 12V バッテリー充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。
パワーシステムの起動は、12V バッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

■点滅の理由

電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅します。

■点滅したときは

パーキングブレーキを使用せずに、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

▶ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した

ただちに、指定の Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。ただちに、指定の Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

➡ **ブレーキシステム警告灯(オレンジ)点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した** P.340

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する。

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した


(オレンジ)


(レッド)

■ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。

電子制御パーキングブレーキ P.259

- ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車し指定の Honda 販売店へご連絡ください。
  ▶車両が動き出さないように、シフトポジションを P にしてください。

- ブレーキ警告灯(レッド)だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した

パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが解除できなくなることがあります。

ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。

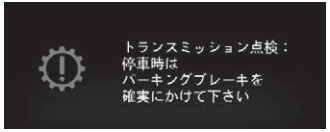
ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した



■点滅の理由

トランスミッションが故障すると表示します。



■点滅したらすること

- ただちに指定の Honda 販売店で点検を受けてください。
- パワーシステムを起動するときは、シフトポジションを N にします。
  - ▶表示灯の N が点灯 / 点滅しているのを確認してください。
  - ▶パーキングブレーキがかかっていないと起動しません。

➔ **パワーシステムの起動** P.187

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した

システムを起動できないことがあります。

停車するときは、確実にパーキングブレーキをかけてください。

走行できないときは、専門業者に連絡してください。

➔ **非常時のけん引** P.351

ヒューズの設置場所

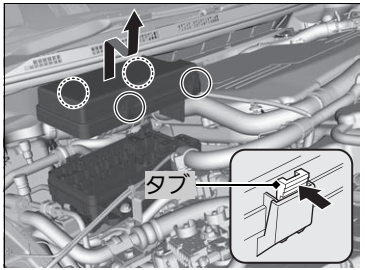
電気装置が作動しない場合、パワーモードをOFFモード にして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、モータールームと室内のヒューズボックスに入っています。

■モータールーム内のヒューズボックス

■ヒューズボックス A

モータールーム内には 2 つのヒューズボックスがあります。
ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

モータールーム内の運転席側にあります。
タブを押して開けてください。



■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		メインヒューズ	200A
2		EPS	70A
		ESB	40A
		ABS/VSA_FSR	20A
		サブヒューズボックス 4	40A
		P-ACT	30A
		—	—
3		ヘッドライトロービーム	30A
		ワイパー	30A
		ワイパー2	30A
		イグニッションメイン	30A
		イグニッションメイン 2	30A
4		非常点滅表示灯	10A
5		IGB	15A
6		イグニッションCRASH	10A

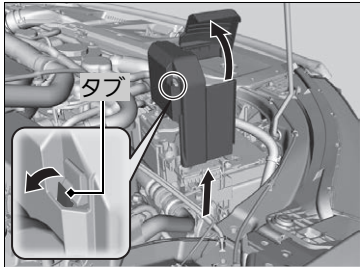
	表示	装備	容量
7		IGA	7.5A
8		P-ACT_DRV	7.5A
9		SHIFTER	7.5A
10		制動灯	7.5A
11		VBU	7.5A
12		ファン	60A
		ヒューズボックス メイン 3	50A
		ヒューズボックス メイン	60A
		ヘッドライト ハイビームメイン	40A
	—	—	30A
		ヒューズボックス メイン 2	40A
		ABS/VSA_ モーター	40A
		サブヒューズ ボックス 2-2	40A
		車幅灯	20A
		運転席側サブ ヒューズボックス 2-1	40A

	表示	装備	容量
13		ヒーターモーター	40A
14		リヤデフロスター	40A
15		バッテリーファン	15A
16		BATT SNSR	7.5A
17		H2 PMP	30A
18		エアコンメイン /DRL	10A
19		EGR PMP	20A
20		BATT SNSR(IR)	10A
21		バックアップ	10A
22		オーディオ	15A
23		IGB LEAK SNSR	5A
24	R	右側ヘッドライト ロービーム	7.5A
25	L	左側ヘッドライト ロービーム	7.5A
26		IGB ECU	5A

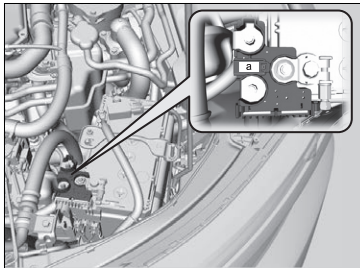
次ページに続く

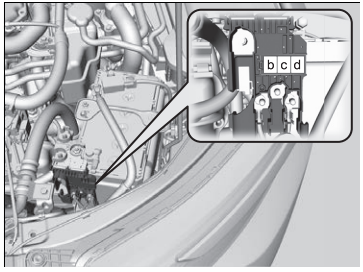
■ヒューズボックス B

モータールーム内の運転席側に付いている、12V バッテリーの ⊕ 端子の隣にあります。



1. ⊕ 端子部分のフタを開ける。
2. タブを引いてカバーを取り外す。





■各ヒューズの装備と容量

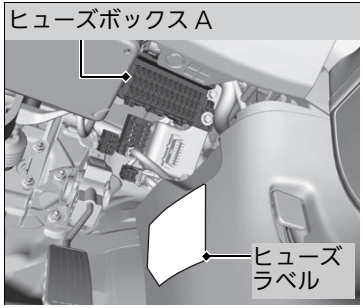
	表示	装備	容量
a	—	—	—
b	📖	FC WP	70A
c	—	—	—
d	📖	サブヒューズ ボックス 1	60A

■室内運転席側のヒューズボックス

運転席側には 5 つのヒューズボックスがあります。

■ヒューズボックス A

ダッシュボードの下にあります。



アンダーパネルに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

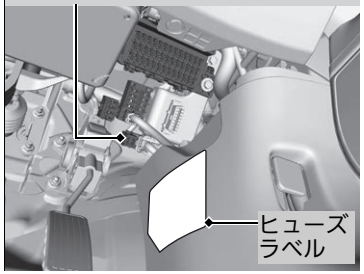
	表示	装備	容量
1		ACC	7.5A
2	—	—	—
3	—	—	—
4		SHIFTER	7.5A
5		オプション	7.5A
6		SRS オプション	7.5A
7		メーター	10A
8		フューエルポンプ	7.5A
9		オプション	7.5A
10		センターアクセサリーソケット	20A
11	—	—	—
12		右側ドアロック	10A
13		左側ドアアンロック	10A
14	REAR L	後席左側パワーウィンドー	20A
15	PASSENGER	助手席パワーウィンドー	20A
16		ドアロック	20A
17		P-DRV	7.5A
18		IGIR	7.5A
19		ウォッシャー	15A
20		ESB	7.5A
21		ACG	7.5A
22		DRL	7.5A
23		IGFC3	7.5A
24		ROOF CAMERA	5A
25	—	—	—
26		右側ドアアンロック	10A
27	REAR R	後席右側パワーウィンドー	20A
28	DRIVER	運転席パワーウィンドー	20A
29		フロントアクセサリーソケット	20A
30		室内灯	7.5A
31	DRIVER	運転席パワーシート（リクライニング）	20A
32	FRONT	フロントシートヒ ーター	20A
33	DRIVER	運転席パワーシート（スライド）	20A
34		ABS/VSA	7.5A
35		SRS エアバッグシステム	10A
36	—	—	—
37		LID ACT	10A
38	L	左側ドアロック	10A
39	—	—	—

次ページに続く

■ヒューズボックス B

ダッシュボードの下にあります。

ヒューズボックス B



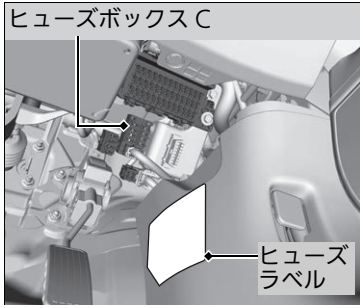
アンダーパネルに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
a	📖	IGB SRS	5A
b	—	—	—

■ヒューズボックス C

室内ヒューズボックス A の下にあります。



アンダーパネルに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

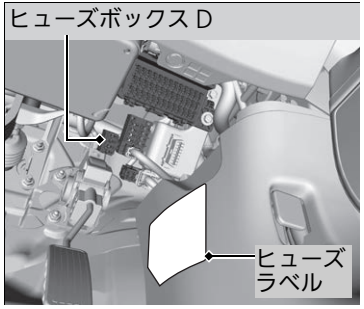
■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
c	—	—	—
d	—	—	—
e		室内灯	7.5A
f		車幅灯	7.5A
g		ホーン	10A
h		左側ヘッドライト ハイビーム	7.5A
i		右側ヘッドライト ハイビーム	7.5A
j		V2L	(10A)

次ページに続く

■ヒューズボックス D

室内ヒューズボックス C の左側にあります。



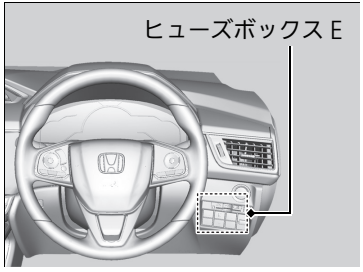
アンダーパネルに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
k		Honda スマートキーシステム	10A
l		IGMG	7.5A
m		IGDTWP	20A
n		IGFC1	15A

■ヒューズボックス E

運転席側ロアパネルの中にあります。

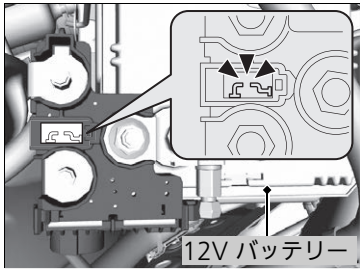


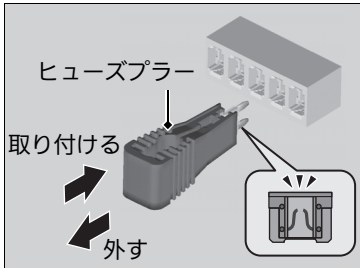
このヒューズの交換については、指定の Honda 販売店にお問い合わせください。

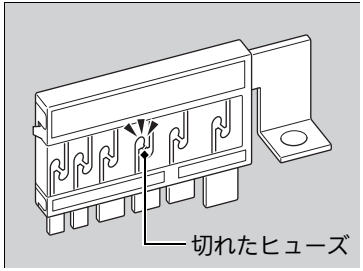
■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
p	—	—	—
q		IGC	(7.5A)
r		IGFC2	15A
s		QC LID ACT	(7.5A)
t	—	—	—
u	REAR	リヤシートヒーター	20A
v	AS	助手席パワーシート（リクライニング）	20A
w	AS	助手席パワーシート（スライド）	20A

ヒューズの点検と交換







1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. 12Vバッテリーの⊕端子の隣にあるカバーを開ける。
3. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、指定の Honda 販売店に修理を依頼してください。
4. モータールーム内のヒューズボックスAのフタを取り外す。
5. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

6. モータールーム内の大きいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
7. 室内の小さいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

▶ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
各ヒューズの装備と容量
P.342, 344, 345, 346, 347, 348, 349

モータールーム内のヒューズボックスAには、フタの裏にヒューズプラーがついています。
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

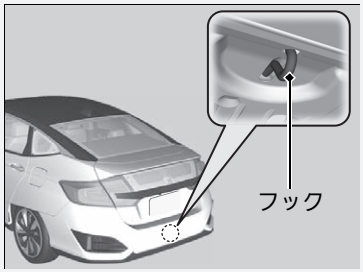
けん引するときは、指定の Honda 販売店にご連絡ください。
けん引は、専門業者に依頼して四輪を持ち上げて行ってください。

≫非常時のけん引

アドバイス

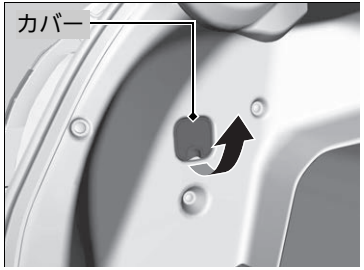
バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。
フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、指定の Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

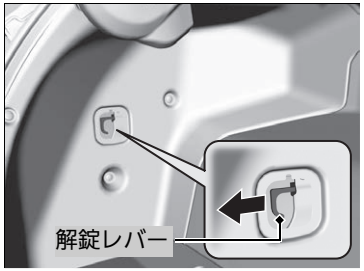


■解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



1. トランクを開け、左側面にあるカバーを開ける。



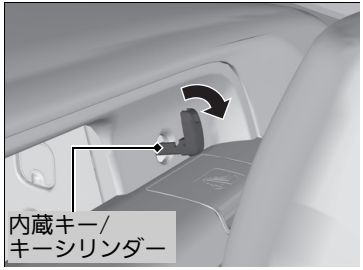
2. 解錠レバーを図の方向に引く。
▶解錠レバーを引くとフューエルリッドが開きます。

≫解錠できないときの対処方法

応急処置後は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

■開かないときの対処方法

万一、トランクを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



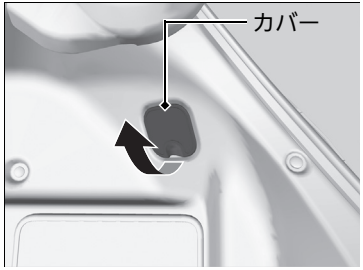
1. 助手席側のリヤシート後方にあるキーシリンダーに内蔵キーを差し込み、キーを時計回りに回して解錠する。
▶トランクが開きます。

»開かないときの対処方法

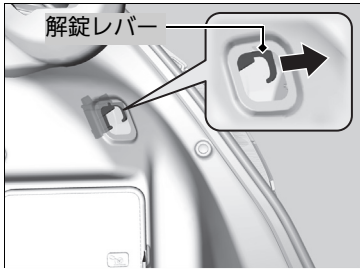
応急処置後は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

■解錠できないときの対処方法

万一、給電リッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



1. トランクを開け、右側面にあるカバーを開ける。



2. 解錠レバーを図の方向に引く。
▶解錠レバーを引くと給電リッドが開きます。

≫解錠できないときの対処方法

応急処置後は、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。



資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様 356

仕様

■仕様

名称	CLARITY FUEL CELL
車体形状	4 ドアセダン
乗車定員	5 名

■走行用モーター

型式	MCF4

■確認

ブレーキペダル	遊び	8.1-15.9mm
	床板とのすき間	128mm 以上 { 約 196N (20kgf) の力 }
	カーペットとのすき間 (参考値)	104mm 以上 { 約 196N (20kgf) の力 }

■燃料

指定燃料	圧縮水素
水素充てん圧力	70MPa (15 ℃時) 最大 82MPa
水素充てん量※	約 5kg (70MPa 時)
タンク容量	141.3L

※：SAE 規格 (J2601) の標準条件に基づいた水素充てん圧力 70MPa ステーションで充てんした場合の Honda 測定値。

■エアクリーナーエレメント

タイプ	乾式

■ 12V バッテリー

容量 / タイプ	36Ah (5) /46B24L

■ウォッシャー液

タンク容量	1.35L

■電球

ヘッドライト (ロービーム)	LED
ヘッドライト (ハイビーム)	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	LED
アクセサリーライト / 車幅灯	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	LED
尾灯 / 後部側方灯	LED
尾灯	LED
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED
トランク照明灯	LED
前席室内灯 / 前席マップランプ	LED
後席室内灯 / 後席マップランプ	LED
バニティミラー照明灯	14V-1.4W
センターコンソールランプ	LED
グローブボックス照明灯	LED
前席フットランプ	LED

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ ATF DW-1	1.75L (交換時)

■インバータ冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	3.05L (交換時：リザーブタンク 0.8L 含む)

■タイヤ

サイズ	235/45R18 94W	
空気圧 (kPa[kgf/cm²])	前輪	250 (2.5)
	後輪	250 (2.5)
リムサイズ	18×8J	

数字

12Vバッテリー充電警告灯 71, 337

A

A/C(エアコン) 169
ABS(アンチロックブレーキシステム) 264
ABS警告灯 73, 264
ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)
ACC警告灯 74
ACC表示灯 79

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 267
CMBS警告灯 76

E

ECOドライブディスプレイ 107
EPS警告灯 75, 339

F

FCモニタリングシステムについて 31

H

Hondaインターナビシステム ..... 別冊
Hondaスマートキー 115, 116
Hondaスマートキー持ち去り警告 138
POWERスイッチ 136
電池交換のしかた 301

I

ISOFIX/i-Size 58, 61

L

LaneWatch™ 257
LKAS(車線維持支援システム) 239
LKAS警告灯 74
LKAS表示灯 79

M

MIST 142

P

POWERスイッチ 136

R

READY表示灯 81

S

SPORTモードスイッチ 198
SPORTモード表示灯 81
SRSエアバッグ 44
エアバッグシステム警告灯 53, 75

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 251
VSA OFF警告灯 75
VSA OFFスイッチ 252
VSA警告灯 75

W

W(ワット数) 356

ア

アクセサリー 310
アクセサリーソケット 164
アクセサリーライト/車幅灯電球 290
アジャイルハンドリングアシスト 253
アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)
ACC警告灯 74
ACC表示灯 79
安全に関する表示 30
安全のための確認事項 35
アンチロックブレーキシステム(ABS) 264
ABS警告灯 73, 264

イ

イオン交換器の交換時期メッセージ 285
警告灯 70
イモビライザーシステム 131
イルミネーションコントロール 144
インフォメーション表示灯 79

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器) 139
ウィンドーの開閉 133
ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給 289
ウィンドウォッシャースイッチ 142
ウェアインジケーター 297
運転
シフト操作 194
パワーシステムの起動 187
ブレーキ操作 259

エ

エアコン 168, 303
エアクリーンフィルター 303
エアコンの使いかた 169
窓の曇りや霜の取りかた 172
モード切り換えスイッチ 169
エアバッグ 44
SRSエアバッグ 44
運転席ニーエアバッグ 47
エアバッグシステム警告灯 53, 75
エアバッグシステム故障診断記録装置 31
エアバッグのお手入れ 53
サイドエアバッグ 49
サイドカーテンエアバッグ 51
エアバッグシステム故障診断記録装置 31
エコアシストシステム 16
エマージェンシーストップシグナル 266

オ

オートライトコントロール 140
追越合図(パッシング) 140
応急修理剤(タイヤパンク) 314
オーディオ装置 183
オートエアコン 169
オートマチックブレーキホールド 261
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 81
オートマチックブレーキホールド表示灯 81
オートリトラミラー 152
オートワイパー 143
オーバーヒート 333
オドメーター 102, 103
温度センサー 105

カ

外気温表示 102, 105
回生エネルギーと回生ブレーキ 15
外部給電
外部給電のしかた 177
給電リッドが解錠できないとき 354
鍵(かぎ) 114
カスタマイズ
カスタマイズ機能 108
下部取付金具 61

キ

キー
Hondaスマートキー 115, 116
キー閉じ込み防止装置 122
キーナンバータグ 115
キーの種類と機能 114
キーレスエントリー 121
キーレスエントリーでドアが開かない 28
後席ドアが開かない 28
電池交換のしかた 301
内蔵キー 114, 115
キー閉じ込み防止装置 122
キーナンバータグ 115
キーレスエントリー 121
電池交換のしかた 301
給電リッドが解錠できないとき 354

ク

空気圧 356

グラブレール..... 3
クリープ現象..... 193
グローブボックス..... 160

ケ

経過時間表示..... 101, 104
計器..... 67
警告灯..... 68
12Vバッテリー充電警告灯..... 71, 337
ABS警告灯..... 73, 264
ACC警告灯..... 74
CMBS警告灯..... 76
EPS警告灯..... 75, 339
LKAS警告灯..... 74
VSA OFF警告灯..... 75
VSA警告灯..... 75
エアバッグシステム警告灯..... 53, 75
シートベルト非着用警告灯..... 73
水素残量警告灯..... 71
水素漏れ警告灯..... 71
トランスミッション警告灯..... 341
パワーシステム警告灯..... 70
ブレーキ警告灯(レッド)..... 68, 338
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)..... 69
路外逸脱抑制機能警告灯..... 77
けん引..... 351

コ

交換
アクセサリーライト/車幅灯電球..... 290
後退灯電球..... 291
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球..... 291
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球..... 290
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球..... 290
ハイマウントストップランプ電球..... 291
バニティミラー照明灯電球..... 292
番号灯電球..... 291
尾灯、後退灯電球..... 291
尾灯/後部側方灯、制動灯、後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球..... 291
ヘッドライト電球..... 290
ワイパーブレードラバー..... 293
交差点案内表示..... 111
航続可能距離表示..... 99
後退灯..... 291
高電圧バッテリー..... 254
高電圧バッテリー残量計..... 100
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯..... 291
コートフック..... 165
誤発進抑制機能..... 274
コンソール..... 161

サ

サービス診断記録装置..... 31
データの開示について..... 32
サイドエアバッグ..... 49
サイドカーテンエアバッグ..... 51
サングラスボックス..... 165
サンバイザー..... 3

シ

シートの調節
アームレスト..... 157
フロントシート..... 153
ヘッドレスト..... 155
メモリーボタン..... 148
シートヒーター..... 167
シートベルト..... 37
シートベルトの着用..... 40
シートベルトの点検..... 43
シートベルト非着用警告灯..... 73
シートベルトプリテンショナー..... 39
シートベルトリマインダー..... 38
妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた..... 42
時刻の設定..... 113
室内装備品..... 160
室内灯..... 158
自動格納/展開ドアミラー..... 152
シフト操作..... 194

シフトポジション表示灯 78
車外の清掃 307
車線維持支援システム(LKAS) 239
ジャッキ 326
車内の清掃 305
車両接近通報装置 199
ジャンプスタート 331
渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) 218
渋滞追従機能付ACC警告灯(オレンジ) 74
渋滞追従機能付ACC表示灯(グリーン) 79
渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)/LKAS表示 111
充てん
指定燃料 356
燃料計 99
瞬間燃費表示 101, 103
仕様 356
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 267
CMBS警告灯 76
ショルダーアンカー 42

ス

水素ガスが漏れているとき 335
水素ガスの充てん 279
指定燃料について 279
水素ガスの充てんのしかた 280
水素残量警告灯 71
燃料計 99
水素残量警告灯 71
水素漏れ警告灯 71
スイッチ
SPORTモードスイッチ 198
オートマチックブレーキホールドスイッチ 261
パーキングブレーキスイッチ 259
スイッチ操作
イルミネーションコントロール 144
ヒーテッドドアミラースイッチ 146
方向指示器(ウィンカー)スイッチ 139
リヤデフロスタースイッチ 146
ワイパー/ウォッシャースイッチ 142
ステアリング 149
スノータイヤ 300
スピードメーター 99, 111
スマートフォンアプリ 22

セ

清掃 305
制動灯 291
セキュリティシステム 131
イモビライザーシステム 131
セキュリティアラームシステム 131
表示灯 80
先行車発進お知らせ機能 214
センターコンソールボックス 161

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 290

タ

タイヤ 296
ウェアインジケーター 297
指定空気圧 356
タイヤの点検 296
タイヤのローテーション 299
タイヤパンク応急修理キット 314
冬期のタイヤ 300
パンク 314

チ

チェーン 300
チャージメーター表示(CHARGE) 100
チャイルドシート 54
ジュニアシート 66
乳児のチャイルドシート 55
幼児のチャイルドシート 56
チャイルドプルーフ 125
駐停車操作 276

テ

ディスプレイ/インフォメーションスイッチ 101

デフロスター
リヤデフロスタースイッチ..... 146
電子制御パーキングブレーキ..... 259
電子制御ブレーキアシスト..... 265
電池交換..... 301

ト

ドアの施錠と解錠
Hondaスマートキー..... 115, 116
キー閉じ込み防止装置..... 122
キーナンバータグ..... 115
キーの種類と機能..... 114
キーレスエントリー..... 121
キーレスエントリーでドアが開かない..... 28
後席ドアが開かない..... 28
車外でのドアの施錠/解錠..... 117
車内での施錠/解錠..... 123
チャイルドプルーフ..... 125
ドアミラー..... 151
ドアミラーウィンカー..... 4
冬期のタイヤ..... 300
時計..... 113
トップテザーストラップ..... 62
トップテザー取付金具..... 62
ドライビングポジションシステム..... 147
トラブルシューティング
アクセルペダルを踏んでもパーキング
ブレーキが自動で解除できない..... 29
パーキングブレーキスイッチを押しても
パーキングブレーキが解除できない..... 29
パンクした..... 314
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る..... 28
オーバーヒートした..... 333
キーレスエントリーでドアが開かない..... 28
警告灯が点灯/点滅した..... 337
けん引してもらいたい..... 351
後席ドアが開かない..... 28
ジャンプスタートしたい..... 331
走行するとブザーが鳴る..... 29
パワーシステムが起動しない..... 327
パンクした..... 314
ヒューズが切れた..... 342
ブレーキを踏むと音がする..... 29
ブレーキを踏むと振動する..... 28
トランク
エマージェンシートランクオープナー... 130
トランクアンダーボックス..... 166
トランクオープナー..... 128
トランクが開かないとき..... 353
トランクの開閉..... 127
トランスミッション警告灯..... 72, 341
トランスミッションフルード..... 356
トリップメーター..... 102, 103
ドリンクホルダー..... 162

ナ

内蔵キー..... 114, 115

ニ

ニーエアバッグ..... 47

ネ

燃料
燃料計..... 99
燃料電池車の注意..... 7
燃料電池車の特徴..... 5
燃料電池発電モニター..... 106

ハ

ハイビーム..... 140
電球の交換..... 290
ハイビーム表示灯..... 78
ハイマウントストップランプ..... 291
ハザードスイッチ..... **表紙ウラ**
発炎筒..... 313
パッシング..... 140
バッテリー
高電圧バッテリー..... 254
12Vバッテリー充電警告灯..... 71, 337
ジャンプスタート..... 331
容量..... 356
発話スイッチ..... 1

バニティミラー..... 3
パワーウィンドーの開閉..... 133
パワーシステム
ジャンプスタート..... 331
パワーシステムが起動しない..... 327
パワーシステムの起動..... 187
パワーシステム警告灯..... 70
パワー表示(POWER)..... 100
パワーモード..... 136
パワーモード警告ブザー..... 137
パンク..... 314
番号灯..... 291
ハンドル..... 149
ハンドル位置調節スイッチ..... 149

ヒ

ヒーテッドドアミラースイッチ..... 146
非常点滅表示灯スイッチ..... **表紙ウラ**
尾灯..... 291
ヒューズ
各ヒューズの装備と容量..... 342, 344, 345, 346, 347, 348, 349
ヒューズの設置場所..... 342
ヒューズの点検と交換..... 350
標識認識機能..... 232
標識認識機能表示..... 104, 111
表示灯..... 78
ACC表示灯..... 79
LKAS表示灯..... 79
READY表示灯..... 81
SPORTモード表示灯..... 81
インフォメーション表示灯..... 79
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯..... 81
オートマチックブレーキホールド表示灯..... 81
シフトポジション表示灯..... 78
セキュリティアラームシステム作動表示灯..... 80
ハイビーム表示灯..... 78
方向指示器表示灯..... 78
ライト点灯表示灯..... 78

フ

ブースターケーブル..... 331
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る..... 28
走行するとブザーが鳴る..... 29
フューエルリッド
フューエルリッドが解錠できないとき..... 352
プラズマクラスター..... 174
ブレーキシステム..... 259
ABS(アンチロックブレーキシステム)..... 264
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない..... 29
エマージェンシーストップシグナル..... 266
オートマチックブレーキホールド..... 261
電子制御パーキングブレーキ..... 259
電子制御ブレーキアシスト..... 265
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない..... 29
フットブレーキ..... 263
ブレーキ警告灯(レッド)..... 68, 338, 340
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)..... 69, 340
ブレーキを踏むと音がする..... 29
ブレーキを踏むと振動する..... 28
ブレーキフルード..... 356
ブレーキ警告灯(レッド)..... 68, 338
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)..... 69
フロントシート..... 153
シートヒーター..... 167
フロントシートヘッドレスト..... 153, 155
フロントパワーシート..... 153
フロントセンサーカメラ..... 200

ヘ

平均車速表示..... 101, 104
平均燃費表示..... 101, 103
平均燃費履歴表示..... 101
ヘッドアップディスプレイ..... 109, 145
ヘッドライト
追越合図(パッシング)..... 140
ハイビーム..... 140
ハイビーム表示灯..... 78
ライト点灯表示灯..... 78

ロービーム 140
ヘッドライトオートオフ機能 141
ヘッドレスト
フロントシート 153, 155
リヤシート 155

ホ

ホーンスイッチ 1
方向指示器(ウィンカースイッチ) 139
方向指示器表示灯 78
歩行者事故低減ステアリング 202
ホンダセンシング 25

マ

マスタードアロックスイッチ 124
マップランプ 159
マルチインフォメーションディスプレイ 101
表示の切り換えかた 101
メッセージ 82

ミ

ミラー 150
自動式防眩ミラー 150
ドアミラー 151
バニティミラー 3
ルームミラー 150

メ

メーター 99
高電圧バッテリー残量計 100
スピードメーター 99
チャージメーター表示(CHARGE) 100
燃料計 99
燃料電池発電モニター 106
パワー表示(POWER) 100
マルチインフォメーション
ディスプレイ 101
メモリーボタン 148
メンテナンス 282
Hondaスマートキー 301
エアコンのお手入れ 303
清掃 305
タイヤの点検と整備 296
メンテナンスに関する注意事項 284
メンテナンスを安全に行うために 284
モータールーム内のメンテナンス 287
ライト類の点検と整備 290
ワイパーブレードラバーの点検と整備 ... 293

モ

モータールーム内のメンテナンス 287
ウィンドウォッシャー液の補給 289
ボンネットを開ける 288
モータールーム内のメンテナンス項目 ... 287
冷却水の点検と補給 334
モード切り換え(エアコン) 169

ラ

ライトスイッチ 140
追越合図(パッシング) 140
ハイビーム 140
ハイビーム表示灯 78
ライト点灯表示灯 78
ロービーム 140
ライト類の点検と整備 290
アクセサリーライト/車幅灯電球 290
後退灯電球 291
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯
電球 291
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯
電球 290
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯
電球 290
ハイマウントストップランプ電球 291
バニティミラー照明灯電球 292
番号灯電球 291
尾灯、後退灯電球 291
尾灯/後部側方灯、制動灯、
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯
電球 291
ヘッドライト電球 290
ラジエーター 333

リ

リアカメラシステム..... 278
リザーブタンク..... 334
リムサイズ 356
リヤシートアームレスト..... 157
リヤデフロスタースイッチ..... 146

ル

ルームミラー..... 150

レ

冷却水 334
　オーバーヒート 333
　補給 334
レーンキープアシストシステム(LKAS)
　LKAS警告灯..... 74
　LKAS表示灯..... 79

ロ

ロービーム 140
路外逸脱抑制機能 208
　警告灯..... 77

ワ

ワイパー/ウォッシャー..... 142
ワイパーブレードラバー..... 293

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　https://www.honda.co.jp
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/
※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名